

# 新生

Jørn André Halseth

# Contents

Contents	2
1 まえがき	5
2 はじめに	6
3 新生一柱	7
4 Haukeland Sykehus (1975)	12
5 幼少期 (1980-82)	14
6 年 継父	16
7 新聞配達 (1987)	17
8 砂漠の中で (1990)	18
9 Videregående Skole (1991-94)	21
10 Fokhol Gård (1995)	23
11 Alternativt Nettverk (1996)	25
12 年 Fagerli Leirskole	27
13 母の死 (1998)	28
14 Polyteknisk Institutt (1999)	30
15 HIA Grimstad (2000-02)	31
16 NTNU Trondheim (2003-04)	32
17 Oslo (2005-06)	33
18 救いが扉を叩く (2007-08)	34
19 Frekhaug (2009)	44
20 年 キリスト教の交わり	45

CONTENTS	3
21 年 選択と兄弟たち	50
22 年 神の御座	59
23 年 祝福と裏切り	62
24 年 1980年からの傷跡	64
25 Reinhard Bonnke (2012)	66
26 年 アメリカでの聖書学校	74
27 Charis Bible College (2014)	81
28 年 ノルウェーへの帰国	85
29 Asia (2016)	95
30 年 Bønnesenteret i Levanger	100
31 年 別離	101
32 年 新しいプロジェクトの仕事	110
33 年 研究センター	118
34 Forskningscenter (2020)	120
35 年 Publifye AS	122
36 年 これからの道	125
37 イエス・キリストとは誰か?	128
38 死も霊もないのか?	134
39 イエス御自身が語られたこと	137
39.1 御国への扉 . . . . .	137
39.2 すべての義を成就するために . . . . .	138
39.3 より深いバプテスマ . . . . .	138
40 成人洗礼	140
40.1 バプテスマは結婚式である . . . . .	140
41 トーラーの透かし	155
42 The Encoded Baptism	163

CONTENTS

4

43 お問い合わせ

170

# Chapter 1

## まえがき

これはJorn Andre Halsethの自叙伝です。1975年の誕生から始まり、約50年にわたる人生の旅路を描いています。読者は、彼の霊的な新生や個人的な葛藤、そして神がしるし、不思議、そして聖霊の語りかけを通して、いかに彼の人生に介入されたかについて、親密な洞察を得ることでしょう。

物語は、家族の課題や意味の探求に特徴づけられた著者の幼少期から、神からの幻を受け取った2008年の決定的な霊的な新生へと私たちを導きます。そこから、彼のその後の信仰の歩み、生ける神との出会い、そして彼が召された奉仕（ミニストリー）が描かれます。

Halsethは、離婚、キャリアの不確実性、霊的な疑念といった人生の困難な時期から目を逸らすことはありません。これらの挑戦は、神の奇跡的な介入、預言的なメッセージ、そして疑いから揺るぎない確信へと成長した信仰を背景に提示されています。本書はまた、聖書と自身の経験に基づき、特に洗礼やイエス・キリストの本質といった神学的テーマにも踏み込んでいます。この物語は、聖書の真理と個人的な証しを織り交ぜ、霊的および人間的な成熟の両方を示しています。

本書は単なる一人の人生の物語ではありません。それは神の真実の証しです。勝利と試練の両方を率直に分かち合うことで、Halsethは読者が自ら今後の歩みのために聖霊の導きを求めるよう、励ましたいと願っています。何よりも、私たちは正邪、真実と偽りを分かつ識別力を祈り求めるよう促されます。召しに従うことは、常に容易なことではありません。経済的にも実際的にも犠牲を伴います。人生には摩擦が生じ、古いものと新しいものの間の葛藤が、常に痛みを伴わないわけではありません。しかし、神は真実な方です（哀歌 3:22-23）。

イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる者は幸いです。」

— ヨハネの福音書 20:29

# Chapter 2

## はじめに

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

— 民数記 6:24-26

神は、あなたが真理を知ることが望んでおられ（テモテへの手紙一 2:4）、あなたを最もよく知るお方、すなわちあなたの創造主であるイエス・キリストです（ヨハネの福音書 1:3）。これを書いている私は、2008年にイエス・キリストを私の主、師として受け入れ、新しく生まれました。この回想録は、私の人生の「前」と「後」の物語であり、どのような代償を払ってでも、あなたのために私の人生をさらけ出すことを選んだ、一つの証しとして記しました。

続く章 — 新しく生まれる — 柱 — は、この本が依って立つ教えです。すなわち、ミクワー（沐浴）、天の敷居、そしてモーセ五書の文字の中に神が織り込まれた証しについてです。本書の残りの部分は、天の門の外に立っていた一人のノルウェー人の生きた証しです — 救いが扉を叩き、真のミクワー、すなわちイエス・キリストにおける洗礼と完全な浸礼によって、彼が死から命へと移され、しるしと不思議が伴う歩みへと導かれた物語です。

聖霊 — イエスが約束されたもう一人の助け主（ヨハネの福音書 14:26） — が、来るべき時に、あなたにこれを示してくださいますように。

御言葉を聞くだけで行わない人がいれば、その人は自分の生まれつきの顔を鏡に映して見る人に似ています。自分を映して見ても、立ち去るとすぐに、自分がどのような者であったかを忘れてしまいます。しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、それを守る人は、聞いて忘れる人ではなく、行う人です。そのような人は、その行いによって幸せになります。自分は信心深い者だと思いながら、自分の舌を制せず、自分の心を欺く人がいれば、その人の信心は無意味です。父である神の御前で清く汚れのない信心とは、困っている孤児や未亡人を見舞い、世の汚れに染まらないように自分を守ることです。

— ヤコブの手紙 1:23-27

# Chapter 3

## 新生一柱

10年前の2016年、私は自分の霊の中で聖霊に問いかけました。新約聖書が命じるバプテスマ（ヨハネ3:5、マルコ16:16）を考慮したとき、キリストを意識的に選ぶ前に亡くなった子供たちは、どのようにして天国に入ることができるのでしょうか。聖霊は一言で答えられました。たった一言でした。Ablusjon（洗礼/沐浴）。我不知道它是什么意思。我必须去查。字典告诉我，这是一种仪式性的洁净——祭司在进入至圣所之前所进行的洗涤。当摩西的哥哥亚伦被立为大祭司时，他用水洗净，穿上圣衣，并用油膏抹，以便他能进到神面前（利未记8章）。圣灵没有给我任何解释。祂给了我这个词，并托付我承载它。当时我不明白，祂在一次呼吸之间，就已经种下了一整套教义的种子。

その一つの言葉が何を意味するのかを理解するために、私たちは二千年前のエルサレムのある夜に立ち返らなければなりません。その夜、ニコデモという名のパリサイ人であり、ユダヤ人の議員でイスラエルの教師でもあった人物が、夜にイエスのもとを訪れてこう告白しました。「先生、あなたは神から来られた教師であることを、わたしたちは知っています。神がご一緒でなければ、あなたがなさっているようなしを、だれも行うことはできません」（ヨハネ3:2）。彼は何かを求めてやって来ました。イエスは、彼が口に出す前に、その心に秘められた問いに答えられたのです。

耶穌回答说：「我实实在在地告诉你，人若不重生 [从上面生]，就不能见神的国。」尼哥底母对祂说：「人已经老了，如何能重生呢？岂能再进母腹生出来吗？」耶穌回答说：「我实实在在地告诉你，人若不是从水和圣灵生的，就不能进神的国。」

— 约翰福音 3:1-5

イスラエルの教師にとって、「新しく生まれる」という言葉は、奇妙で神秘的な謎ではありませんでした。それは専門的なハラハーの語彙であり、異邦人が「ミクワー」（H4723）、すなわち浸礼によってイスラエルの神への改宗を完了する際に用いられる言葉でした。ラビたちはこう教えています。「改宗した改宗者は、生まれたばかりの子供のようである」（Yevamot 22a）。彼の古い人生は消滅しました。彼は新しい父、すなわちアブラハムを受け入れました。彼は遡及的にシナイ山に立ちました。彼はイスラエルの一員と

見なされたのです。ミクワーは単に彼を洗ったのではありません。それは彼をアブラハムの子としたのです。

因此，耶稣对尼哥底母所说的话并非模糊不清。祂是在告诉这位以色列的教师——一位血统上的亚伯拉罕后裔、受过训练的法利赛人、地位显赫的犹太人领袖——他只能通过外邦人必须经过的那扇门才能进入神的国。他的文化资历在天国的门槛前毫无价值。他必须像在他之前的每一个未受割礼的外邦人一样，站在改宗者的水中。而耶稣在下一章（约翰福音 4:10-14）中表明，那水本身就是一位位格：「主，以色列的mikva」（耶利米书 17:13）。耶稣是以色列真正的Mikva——拉比仪式一直指向的洁净之水。

これが本書の依って立つ柱である。私はニコデモそのものではなかった——パリサイ人でも、イスラエルの教師でも、サンヘドリンの議員でもなかった。しかし、最も重要な点において、私は彼と同じ場所に立っていた。すなわち、天国の門の外で、何の役にも立たない資格を手にしていたのである。私はノルウェーの文化的キリスト教の中で育ち、幼児洗礼を国教会で受けたが、心は霊的な探求者であった。私の先祖のほとんどはイエスを救い主として告白していなかった。母方の祖母であるJennyだけが、彼らの中で唯一の信者であった。私自身、天国を心から信じていたかどうかは定かではない。もし信じていたとしても、人間であるという単純な権利によって、何らかの天国が自分に与えられるものだとして静かに思い込んでいた。私は教育を受けた人間であり、修士号を持つエンジニアとして、世俗的な人間であった。この世の知識、それには霊的な知識も含まれていたが、それらにどっぷりと浸かっていた。ただし、その方向は間違っていた。ニコデモのように、私には学ぶべきことと同じくらい、捨て去るべきことがあった。私は大人になってから改宗者の水に来て、初めてそこへ入らなければならなかった。これから読もうとしている回想録は、天国の門の外に立ち、そこでは何の意味も持たない文化的・知的資格を携えていたノルウェー人が、33年かけてゆっくりと歩んだ道のりである——2008年に救いが扉を叩くまで。神の目から見れば、私はその長きにわたり、真のミクワーであるイエス・キリストを通してイスラエルへと引き寄せられる異邦人であった。

そして、十年前、聖霊が私に与えてくださったその一つの言葉——ablution（洗淨）——こそが、教義全体の種でした。それはアロンの聖別における祭司の清めの儀式でした。父は2016年に私に一つの言葉を与えられました。父は三千年も前に、すでにその注解をトラーの中書き記しておられたのです。

眼睛就是身上的灯。你的眼睛若了亮，全身就光明；你的眼睛若昏花，全身就黑暗。

— 马太福音 6:22-23

耶稣说眼睛是身上的灯。我们所注视的——我们选择定睛于什么——就是我们内心被照亮的部分。三千四百年来，妥拉的希伯来字母一直带着一个人类眼睛无法阅读的水印——然而这些代码依然处于黑暗之中。它们就在那里。没有人能看见。不是因为页面上缺乏光，而是因为没有任何人的眼睛曾按照水印所要求的尺度对准这些字母。

当我们建立Darash时——当我们把目光定在字母上并询问它们所编码的内容时——代码开始亮起来了。不是因为我们创造了它们。不是因为我们圣经中增加了什么。是因为我们终于把灯指向了神早已写下的东西，使得祂的灵在三千年前压印在妥拉里的水印终于可以被看见。代码现在亮起来了——对我，对读到这里的你，对后来的世代——因为眼睛终于转向了它们的方向。

现在让我举起灯，好让你在随后的每一章中都带着这样一个发现。

法利赛人的名字——尼哥底母，נקדמוס——作为等距字母序列（ELS）出现在妥拉中，跳跃间隔为一千零九十二个字母，并精确地开始于民数记 7:17。那节经文讲述了拿顺·亚米拿达的供物，他是犹大支派的首领，根据古老的犹太传统，他是第一个在红海海水分开前走入海中的人。耶稣说必须从水而生的人，其希伯来名字通过那位首先走进水中的人的经文被编码了进去。

而且不仅如此。在民数记 7:17 本身——尼哥底母代码所锚定的同一节经文中——水（מים）、子（בן）和心（לב）都以跳跃间隔2作为ELS出现，编织在经文本身的字母中。与同一节经文重叠的还有：灵（רוח），跳跃间隔 \$-56；新（חדש），跳跃间隔 \$-54；生（ילד），跳跃间隔 57。耶稣的希伯来名字——Yeshua, ישוע——以跳跃间隔 \$-244 出现，其字母环绕了整节经文。而mikva（מקוה）与亚伯拉罕（אברהם）出现在两节经文之前，重叠进入了尼哥底母的锚定点。这一节经文中关于重生词汇的主题密度是随机打乱相同希伯来字母所产生频率的二十一倍——这个差距之大，以至于我们十个独立打乱的对照妥拉中，没有一个能接近这个数值。

此外：在整个妥拉中，以洗礼跳跃间隔出现的两个特定词汇的最接近对——«信心»（אמונה, emunah）和«浸礼»（טבילה, tevilah）——位于申命记 21:23，仅相隔两个字母，恰好就在保罗在加拉太书 3:13 中引用的那节经文上：

凡挂在木头上的，都是被咒诅的。

— 加拉太书 3:13 / 申命记 21:23

信心与浸礼，在钉十字架的经文处相互接触。在十字架被竖立的一千四百年前，就被编码进妥拉的字母中。而希伯来数字学（Gematria）印证了这一点：Mashiach（弥赛亚，358）加上Tevilah（浸礼，56）等于四百一十四——这正是拿顺（נחשון）的数字学总和，他是第一个走进海中的人。

还有一个发现——印证了圣灵十年前给我的那个词。当我们把灯指向亚伦就职的那节经文时——利未记 8:3，即圣灵在2016年对我提到且未加解释的那个洗礼——我们发现十一个重生教义词汇中的十个聚集在那一节经文周围。心、mikva、水、灵、新、浸礼、耶稣、洁净、洗涤、亚伯拉罕——每一个都与大祭司为进入圣所而受洗的经文重叠。而希伯来语中“浸礼”一词本身——tevilah, טבילה——作为ELS出现在这节经文处，在整个妥拉的304,805个字母中仅出现了十七次。圣灵给我的词。它所指名的经文。整个洗礼词汇的密集簇群编织在那节经文的字母中。祂在2016年告诉了我ablusjon。祂在三千年前就已经把对这个词的注释刻在了妥拉的字母中——并且祂用这个词所指向的那节经文封印了它。灯转向了，它就在那里，等待着。

亚伦所站立的水印。尼哥底母所经过的水印。保罗所传讲的水印。父在我们任何人出生前就写下的水印。

そして、ニコデモに「あなたは新しく生まれなければならない」と語られたお方ご自身が、墓から新しくお生まれになりました。父なる神は、復活された御子に向かって詩篇2篇7節の言葉を語られました。「今日、わたしはあなたを生んだ」（使徒13:33）。そのギリシア語の動詞はgennaō G1080 γεννάωであり、イエスがニコデモに対して用いたものと全く同じ動詞です。御子は、マリヤを覆った（ルカ1:35）御霊によって生かされました（1ペテロ3:18）。イエスはprōtotokos ek tōn nekrōn — 死者の中からの初子（コロサイ1:18）であり、トーラーのヘブライ語で言えばpe'er H6363 פֶּֿעַר re'em H7358 רֶֿעִם — 胎を開く者（出エジプト13:2、ルカ2:23）です。マリヤの胎は主が最初に開かれた胎であり、墓という胎が二番目でした。主は最初にそこを通り抜けられ、主が開かれた門へと私たちに招いておられます。そしてトーラーは、それ自身の文字でこのことを確証しています。創世記22:4において、アブラハムが目上げたアケダーの三日目に、qum（起き上がる）という言葉がスキップ\$-8\$で節の中に暗号化されており、tequmah（復活）という言葉がスキップ\$-204\$で章全体を包み込んでいます。御子の三日目の復活は、十字架の三千年前に、イサクの三日目の救いの中に織り込まれていたのです。

そして、彼がどうなったかを見てほしい。闇に紛れてやって来て、人はどうして再び母の胎に入ることができるのかと尋ねたあの男は、その闇の中に消えてしまったわけではなかった。数年後、彼はサンヘドリンに立ち、あえて一言こう言い放ったのである。「わたしたちの律法では、まず本人から事情を聞き、何をしたのかを確かめることなしに、罪に定めたりはしないのではないか。」（ヨハネ7:51）—それは、かつて夜にひそかに近づいたまさにそのイエスに対する、小さくも代償の大きな弁護であった。そして、真昼に十字架が立てられ、主の身近にいた者たちが散り散りになったとき、アリマタヤのヨセフと共にやって来たのはニコデモであった。彼は「没薬と沈香を混ぜ合わせたものを百リトラほど」（ヨハネ19:39）—王の埋葬にふさわしい

量一携えて来て、あの遠い夜に自分に答えてくれたまさにそのミクヴェ（洗い）の御体に手を触れたのである。理解できなかった男は、理解し得ないお方によって救われたのである。ヨハネ3章の種は、十字架において花開いた。

这就是重生的含义。不仅仅是一个人在2008年得救的故事。柱石是教义；书的其余部分是骨架上的血肉——一个挪威尼哥底母多年来被带到以色列的Mikva的真实见证。愿这盏灯照亮每一位翻开这些书页的读者。

## Chapter 4

### Haukeland Sykehus (1975)

私は1975年にBergenのHaukeland sykehusで生まれました。体重4.2キロ、身長45センチの赤毛の元気な赤ちゃんでした。生後一年間はDanmarks plassからほど近いSolheimsvikenで過ごしました。一年後、私たちは子供が育つのに素晴らしい場所であるFyllingsdalenのØrnahaugenへ移り住みました。当時の私の名前はJørn André Nynesでしたが、義父が家族に加わった際にJørn André Nese Berntzenに変わりました。その後2005年に、最初の妻と私はVik i SognにあるHalseth農場にちなんでHalsethという姓を名乗るようになりました。

私の祖母の名はJenny Gjertine Johannesdatter Halsethですが、出生証明書に記載されている名はおそらく違うでしょう。彼女は人生の大部分をBergen郊外のAskøyにあるAskで過ごしており、もうすぐ100歳を迎えようとしています。

母の名前はGunvor Neseでしたが、義父と二度目の結婚をしました。彼はどの職場でも献身的に働く有能な人でした。実父の名は以前はBjørn Nynesでした。彼は生涯で様々な仕事に就きましたが、長年機関士や船乗りとして働いていました。私は彼の長男でしたが、弟と私は成長期において、実父を含むNynes家との交流は残念ながらほとんどありませんでした。

私の母方の祖父は、多くの人が臨死体験と呼ぶものを経験しました。彼は光を見て、まだその時ではないから戻らなければならないと告げられたのです。家族の間で公に語られるようなことではありませんでしたが、祖母と私はそれを二人だけの特別なこととして大切にしていました。それは、この世の先にある世界が実在するという静かな確信のように、私たちの心の中にありました。私は、それが言葉を知るよりもずっと前に、私の中に何かを植え付けてくれたのだと信じています。

9歳になるまでの母との夏休みは、祖母や祖父、叔母のIrene、そして私のおじと共にAskøyのAskで過ごしました。彼らはいつも私たちを温かく迎えてくれました。親族の中で私が信仰心のある人物として知っているのは祖母だけです。彼女はいつも私たちのために祈ってくれていましたが（テモテへの手紙 二 1:5）、家族の誰も真のイエス様について私に語ってくれる人はいませんでした。前妻もその家族も、結婚前も結婚後も、私に福音を伝えてくれることはありませんでした。真理に対して生ぬるい態度を取りながら、

その真理が教会を熱くすることを期待してはならないのだと、改めて思い起こされます。

私はAskで幼児洗礼を受け、FyllingsdalenのDen Norske Kirkeで堅信礼を受けましたが、そこで新しく生まれた（ボーン・アゲイン）わけではありませんでした。後になって振り返れば、そのことがよく分かります。また、口でイエスを主、主人であると告白し、自らの**自由意思**によって罪の赦しのために洗礼を受け、古い生活から悔い改めてイエス様と共に歩まなければならないと教えてくれる人もいませんでした。神との契約に入り、養子とされることは、幼児洗礼のように強制されるものではなく、個人的な選択によるものです。地上の父も母も、誰一人として本人の代わりにこの選択をすることはできません。私たちは互いに良い影響も悪い影響も与え合いますが、霊による誕生は神からの贈り物であり、自発的に受け入れなければならないのです。私は2008年、33歳の時にBergen郊外のKnarvikにある敬虔な自由教会「Kristent Felleskap Nordhordland」で新しく生まれました。

# Chapter 5

## 幼少期 (1980-82)

私には二人の弟がいることを述べておくべきでしょう。Tomは私より15ヶ月年下で、Lars Erikは12歳年下です。私たちは、母が義父と再婚したことによる異父兄弟です。Tomと私は、その後のあらゆる出来事、つまり引っ越し、Ørnahaugenの集合住宅での暮らし、新聞配達をしていた時期、そして母の闘病といった経験を共に成長してきました。Lars Erikが家族に加わったのは、すでに家が苦境にあった頃で、母が亡くなったとき彼はまだ12歳でした。今日、二人ともそれぞれ二人の子供の親となっており、私は彼らの存在に感謝しています。

5歳の時、父と母が離婚しました。母は愛情深い女性で、最初の10年間は私たちをよく世話してくれましたが、離婚は深い傷跡を残しました。彼女は次第に負のスパイラルに陥り、それが彼女の人生の最後の18年間の始まりとなりました。私の実の父は長年にわたるアルコール依存症で、それは結婚生活が終わる前も後も、母に大きな負担を強いました。父は当時、一日の大半をアルコールの影響下で過ごしていたため、自分の行動をほとんど自覚しておらず、私たちは彼の依存症を通して多くの困難な経験をしました。要するに、この激動の時期は私たち全員の中に悪い種を蒔き、それは数年後に悪い実を結ぶことになったのです。許しは悪いものを洗い流してくれますが、私たちは往々にして、自分自身の過ちに気づかなかったり、自分を傷つけた人を許したりするには、鈍感であったり、気が進まなかつたり、あるいは独りよがりであったりします。私にとって、そのような癒やしが起こったのは2012年のことでしたが、これについては後ほど触れます。私の父は2021年、71歳の時にイエスを受け入れ、新しく生まれることを選び、現在はキリストにある新しい人となっています。また、彼は2020年に撃たれましたが、奇跡的に生き延びたこともお話ししておきましょう。医師たちは、彼には御使いの守りがあったに違いないと言いました。ですから、彼に洗礼を授けることは決して簡単なことではありませんでした。彼の頑固さは、命以上の代償を彼に払わせたかもしれないからです。

80年代の幼少時代に話を戻しましょう。私たちはベルゲンのØrnahaugenで、基本的にとっても楽しく過ごしていました。そこには子供たちが遊べる遊び場や広い共有スペースがあり、豊かな自然に恵まれていました。私たちはアパートに住んでいました。そこにはいくつかの棟が並んでおり、各棟には2~3の入り口がありました。各棟は3階建てで、いくつかの棟は共有スペースを囲むように半円形に配置されていました。これにより、居住者にと

って自然とプライバシーが保たれる場所ができていました。周囲には子供たちが探検したり利用したりできる、ちょっとした森もありました。私は近所で見つけた廃材を使って、自分自身でいくつかの簡単な小屋などを作りました。だから、釘のついた板が落ちているのを見つけるたびに嬉しくなりました。釘を抜き、まっすぐに伸ばし、小屋を建て、しばらくして解体するのが日課でした。その後、別の場所に新しいものを建て、時には木の上にも作ることもありました。ある時、地上わずか1.5メートルほどの高さの、二股に分かれた枝の上に小さな足場を作ったのを覚えています。母は少し離れた野原で日光浴をしていました。気づいた時には私は地面に座り込み、周りに材料が散らばっていて、母が私を介抱しようと駆け寄ってきました。たいていは大丈夫でしたが、年月とともに多少の衝突や転倒はありました。おそらく一番ひどかったのは、釘を抜こうとしてハンマーを額の真ん中にぶつけた時や、壁を越えてアスファルトの上に真っ逆さまに落ちた時でしょう。40年ほど前のことですが、そういうことはよく覚えているものです。

アパートの外では、よくみんなで自転車に乗ったり、鬼ごっこ(tikken)をしたり、ゴム飛びや縄跳び、その他の集団遊びをしたりしました。これは誰もがコンピュータやタブレットを持つようになる前の時代だったので、子供たちは外で活発に遊んでいました。

母が、翌日の夕食に何が食べたいか私と弟に尋ねてくれたことも覚えています。私にとってはトマトスープが断然お気に入りでしたが、母の手作りのミートケーキにブラウンソース、ジャガイモ、野菜を添えたものも素晴らしく美味しかったです。母の妹である叔母のSonjaはお菓子作りがとても上手で、それも私たちは大好きでした。母自身、天板で焼くチョコレートケーキが大好きで、彼女がそれを作っているとき、私はいつもそばを離れませんでした。ケーキが出来上がると、私は何度もキッチンを出入りして、最初はどんなに熱くても、その都度焼きたての一切れをこっそり食べました。とにかく美味しかったです。自分でそのような天板ケーキを作ったことが一度もないのは少し皮肉なことですが、母の味はよく覚えています。彼女のケーキは、ダークチョコをたくさん使うのではなく、明るい色合いのタイプでしたが、しっかりとした風味があり、ふんわりとしていて素晴らしいものでした。焼きたては格別に美味しく、それは通常、作りたてのものがそうであるのと同じです。

# Chapter 6

## 年 継父

新しい義父が私たちの人生に加わり、母と結婚しましたが、私たち子供を養子にすることはありませんでした。「継父」という存在ができたことで、家族は自由に使える車を持つようになりました。この頃から時々VHSのビデオを借りて映画を観るようになり、中華料理店へも時折行くようになりました。二人の結婚生活の初期、家計は潤っており、最初の海外旅行はスペインのマヨルカ島へ、そして別の機会にはデンマークへも行きました。マヨルカ島でゴーカートを運転した時のことをよく覚えています。カーブを曲がるたびに、タイヤの焦げるような匂いが立ち込めていました。私はそれが大好きでたまらなかったのですが、コースを降りた私を見た義父は、すっかり怯えたような顔をしていました。彼は寡黙な人でしたが、その目は多くを語っていました。そのどちらの経験も私にとっては糧となり、私はそれらを通じて成長しました。私たちはよく泳ぎました。あの夏、私の背中まるで焼き上がった七面鳥のようで、皮が大きな塊となって剥がれ落ちるほどでした。また、当時はお菓子を食べすぎてしまい、歯にとってはあまり良くありませんでした。少し否定的な側面から言えば、後になって振り返ると、これが母にとっての「終わりの始まり」であったことが分かります。

# Chapter 7

## 新聞配達 (1987)

私は12歳で、友人と一緒に「BA (BergensAvisen)」という新聞の配達を始めました。配達区域はFyllingsdalenのØrnahaugenとHjalmar Brantingsveiで、友人と一緒に回りました。その後、FyllingsdalenのBarliaveienで「Bergens Tidende」の配達も始めました。これは高校 (Videregående Skole) を卒業するまで続けました。お小遣いを稼げることや、体を動かせることも嬉しかったのですが、始めた当初、私がBergenで最も若い新聞配達員の一人だったことも、ちょっとした自慢でした。

1987年の秋、家族はØrnahaugenからFyllingsdalenのふもとにあるBjørgedalenへと引っ越しましたが、その後の数年間で金利が上昇したため、家計は圧迫されることになりました。母は今、肉体的にも精神的にも重い病の初期段階にありました。彼女は次第に自分の殻に閉じこもるようになり、薬の服用と過度の就寝という負の連鎖が始まり、それが筋力の衰えを招きました。当時の主治医は、この数年間にわたり母に過剰な投薬を行い、そのために医師免許を剥奪されそうになったほどです。義父は出世の階段を上り、その後数年間は立派な職に就いていましたが、母が「《崩れていく》」中で、子供たちの世話をする余裕も能力もありませんでした。

当時は自分でも理解していませんでしたが、まるで自分の内側で黒い穴が広がっていくような感覚でした。また、どこへ行けばそれが見つかるのかも分からぬまま、心の内では真理を求める切実な思いが募っていました。この頃、私はゆっくりとうつ状態へと陥っていき、それは私の気力を食いつぶしていきました。義父が仕事で帰りが遅くなることが多く、夕食作りを省いては私たちに「《適当に何か食べておきなさい》」と言うのが常であったことも、追い打ちをかけました。彼は職場で食べてきたと言い訳をしていました。この時期、私の体はおそらく部分的に栄養失調の状態にあり、食生活への無関心や、やがて肉食を断つといった、いわゆる霊的な思想を取り入れたことで状況はさらに悪化しました。その後の数年間、学校の成績は落ち込んでいきました。

## Chapter 8

### 砂漠の中で (1990)

1990年頃に場面を移すと、家族の状況は依然として変わっていませんでした。その頃、私は母に「お母さんは死にたがっているように見える」と言ったことがあり、当然ながら彼女はそれに激しく反発しました。しかし、彼女が何ヶ月もほとんどずっとベッドに横たわっていたのは、実のところ私たちの目の前で起きていたことでした。彼女は夕食を作ること、人と交わることもしませんでした。彼女がMargit Sandemoの《Sagaen om isfolket》を読んでいたのを覚えています。後になって、それが彼女にとって決して良いものではなかったのだと分かりました（テモテへの手紙一 4:1、エフェソの信徒への手紙 5:11）。彼女は自分自身を見失い、体は衰えていきましたが、義父は厳しく律することができずにいました。

いずれにせよ、この時期の家族の困難は一つの祝福となりました。それがきっかけで、私はなぜ自分が生きているのかという問いへの答え、つまり人生の目的や意味を探し求めるようになったからです。そんな中、私は絶望から、初めて《宇宙》に向かって《語りかけ》始めました。私が知らなかったのは、神様が私の助けを求める叫びを聞いてくださっていたということでした。私は、内側にある《大きなもつれ》を解いてほしいと助けを求めました。すると突然、何もないところから、まるで最初から存在していなかったかのように、そのもつれが解けたのです。これが、聖霊様が私に語りかけられたのを覚えている最初の出来事です。当時は、どなたが話しておられるのか分からなかったのですが。

「イエスがどなたであるのか、そして主があなたにとってどのような意味をお持ちなのかを見出さなければならない」

— 聖霊様は言われました

この後、真理に対する強い渇きが私を襲い、私はOasen senterやBergen Sentrumの図書館で超常現象に関する本を片っ端から調べました。聖書からは遠ざかっていました。それはより無意識的なものでしたが。私はまた、いわゆる《オルタナティブな本》も探し始めました。皮肉なことに、図書館にはイエスに関する記述がほとんどありませんでした。聖書は世界で最も多くの証拠が残されている書物であり、その事実気づいている人はほとんどいないというのにもかわららずです。

1990年と、私の真理の探求に話を戻しましょう。ブッククラブEnergicaやその類いから出版された「オルタナティブな本」には、どれも偽りのイエス像が描かれています。それらは外見は素晴らしく見えますが、内側では命ではなく死を語っています。そして、それは神秘主義や官能性などのベールの陰に隠されています。その結果、私は真理に対して鈍感になり、無感覚になってしまいました。そのような「霊的な思想」のせいで、神の言葉に対して内に拒絶反応が生じていたのだと、振り返ってみて今ようやく理解できます。今日、私はこの拒絶が、自分の中にある一種の「死」であったことを悟っています。霊において新しい命を得るためには、バプテスマにおいてその死を脱ぎ捨てなければなりません。これは、御霊の実を結ぶためには、イエスと共に死ぬ覚悟が必要であるというのと同じ原理です。

イエスは答えて言われた。「人の子が栄光を受ける時が来ました。まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります。わたしに仕えるというのなら、その人はわたしに従いなさい。わたしのいる所に、わたしに仕える者もいることになります。わたしに仕えるなら、父はその人に誉れを与えてくださいます。」

— ヨハネの福音書 12:23-26

これらの数年間に、私はチャネリング、テレポーテーション、アストラル旅行、テレキネシス（念力）、自動書記といったテーマを扱った本を買いはじめました。これらは心霊主義者や熱心に探し求める人々にはよく知られた事柄です。多くのクリスチャンにとって、これらは未知の領域であり、それは利点でもあり欠点でもあります。利点はそのようなことに手を出していないことであり、欠点はそれについてあまり知らないことです。手短かに言えば、このような関心は、真理や聖霊に対して傲慢になりがちであるというのが私の経験です。本人は自分の人生をコントロールできていると主張するかもしれませんが、実際にはそこには実体がありません。私は数年間、そのような状態にありました。

また、ウィジャボード（西洋版のこっくりさん）のような、一見無害に見える遊びもあります。人々は「霊界」と接触するためにそれらで遊びますが、その背後に本物の危険があることを理解していません。それはアパートの賃貸契約書に署名するようなものです。署名によって契約に縛られるのです。それは考えであれ具体的な行動であれ、行いにおいても同様です。そして、ひとたび一つの障害が取り除かれると、それ自体がドミノ倒しのように連鎖

反応を引き起こすことがあります。私たちは皆この原理を知っています。それはポジティブにもネガティブにも、両方向に働きます。肉体的なことにおいても、霊的なことにおいてもです。私の母自身、否定的な下向きのスパイラルの中にいました。周囲の誰も、彼女の霊の中で起こっている戦いを見分けることができませんでした。

## Chapter 9

### Videregående Skole (1991-94)

Fyllingsdalen Videregående Skoleでの成績が下がっていったこと、そしてある先生が、私の成績があまりに悪いことに驚いていたのを覚えています。私は中学時代、数学を猛勉強し、平均でM (Meget Godt)、数学ではS (Særdeles godt) の成績を収めていました。私は数学を習得できることを、先生に実際に証明したいと願っていました。しかし、家族の状況が深刻になり、私の気力を奪い始めました。高校に進学する頃には、母は子供たちの世話に対してますます消極的になっていきました。

Bjørgedalenに引っ越したことで通学路が長くなり、1991年から Bergens Tidendeが朝刊になったため、私は朝5時か6時に起きていました。Barliaveienにある私の新聞配達区域は、当時住んでいた場所から4.5キロ離れていました。この3年間で私の精神的なパフォーマンスは低下し、帰宅して宿題を済ませる頃には疲れ果てて、午後はベッドでうとうととして過ごすことが多くなりました。そのせいで親友を失いました。母は私のことを心配してはいましたが、当時は自分自身のことも子供たちのことも世話ができる状態ではありませんでした。母が日中、Margit Sandemoによる«Sagaen om Isfolket»のような本を読んだり、イエス・キリストが神の子であることを否定する«いわゆる霊的な人々」に助けを求めたりしていたことも、状況を悪化させました。多くの人にはこれを過酷な言葉だと思えるかもしれませんが、魔術や神秘主義、そして«ロマンチックな»本に誘惑され、自らが崖っぷちに立ちながらも、母が衰えていくのを目の当たりにしてきた私の経験からお話ししているのです。神の働きのために召された聖徒たちにとって、なまぬるい状態は選択肢にはありません。

私が10代の頃にイエス様について読んだ本は、うわべだけを美しく飾った真っ赤な偽りの物語であり、偽りの霊性であったことが今では分かります。世の中の多くが偽りの霊性であると言うと、多くの人には私が傲慢だ、と思うかもしれませんが、それが真実であり、私は新しく生まれて以来、多くのことを見てきました。他の宗教や様々な«霊的な»思想が、イエス・キリストが実際にどのような方であるかという真実を歪めようとするのと同様に、偽りのメシアについて書かれた本も数多く存在します。

私自身のことについて言えば、15歳くらいの頃から、これらのテーマに関する本を片っ端から読んでいました。新しく生まれてはいませんでしたが、それでも何か欠けていると感じていたことをお伝えしておきます。私の

内面は依然として神に対して高慢でしたが、それでも自分の経験の一部を識別していました。2008年になるまで、私には見る目がありませんでした。確かに超自然的なものは実在しますが、真正で清い祝福は神から来るものです。付け加えるなら、私の将来の妻は、魔術を行う知人たちの話を何度かしてくれたことがあります。私自身、ノルウェーである人物が経済的利益のためにこれを行っているケースを目撃したことがあります。私たちが祈ったとき、その人物は神の力がそれを止めるのを感じました。少し先走った話をしてしまったことをお許してください。

1994年に、Statistical Science Magazine (Volume 9, Number 3) が、聖書の創世記に基づいた等間隔文字列 (Equidistant Letter Sequence - ELS) を扱った論文を掲載したことは、非常に喜ばしいことです。その論文は Doron Witztum、Eliyahu Ripes、Yoav Rosenberg によって執筆されました。これは、一般に「聖書の暗号」として知られるものを扱った数少ない科学的研究の一つです。当時の私はこのことについて何も知りませんでしたが、神の言葉の深さと正確さについての驚くべき発見であったことを、皆さんに知っておいていただきたいのです。それでは、1995年へと進みましょう。

# Chapter 10

## Fokhol Gård (1995)

BergenのHøgskolenで機械工学の勉強を始めましたが、うまくいかずに挫折した後、私はHedmarkenのStangeにある有機バイオダイナミック農場のFokhol Gårdへ行くことに決めました。そこで私は一年間、農場の働き手として働き、健康的な食事と質の高い肉体労働に恵まれました。実際、私はそこで一年間を過ごした最初の実習生で、送別会の夕食にミートボール（kjøttkaker）が出たのを覚えています。当時は肉を食べることはあまり一般的ではなかったので、大変なご馳走でした。農家は通常、相当量の肉を食べるものと思われがちですが、少なくとも私がいた頃のFokhol Gårdではそうではありませんでした。この農場の運営はSteiner哲学の一環であり、善意ある探求心豊かな人々を捕らえてしまう、社会における一般的な「霊的」な底流の一部でもあります。人は清らかさや減農薬といった肯定的な側面を考えますが、Steinerがその背後にある「霊」について教えていたことは、あまり公には語られません。その霊はイエスを主、また師として告白せず、彼が私たちのために命を捧げられたことも語りません。また、私たちが新しく生まれるためには、洗礼を通して自らの命を捧げなければならないことも教えません。「形而上学」に関する通俗的な本の中でも、ガイアや母なる大地について語られているのを目にしますが、一部の人々はこれに完全に執着し、目を曇らされています。神の民は、大地の霊から生まれた者としてではなく、神の霊によって生まれた者として自分自身を認識しなければなりません。

実務的な面では、農場は960 målあり、数台のトラクターがありました。その中でもDeutz-Fahrが最も大きく、最も技術が進んでおり、私はトラクターの運転を含め、自分の仕事を楽しんでいました。私がいた頃の生産は、約9割が穀物で、残りが野菜、そして12頭ほどの乳牛がいました。当時は、従来の農業から、より有機的な栽培を目指しつつ野菜生産を拡大しようとする移行期間にあり、転換期間（karenstid）の中にありました。彼らはSteinerメソッドに従って運営しており、それゆえに有機バイオダイナミック経営でしたが、それはSteinerの「霊的宇宙」に基づいたものでした。

私は主屋に住んでいましたが、そこは何十年も前、その農場で働く労働者たちのための貧民救済所だった建物でした。私が過ごした最上階からは、風になびき、野原を渡る風の動きを映し出す穀物畑を見渡せたのを覚えています。それらは風景を横切る波のようで、それ自体が見事な光景でした。鋤の後から深い黒土が現れるのが見えたのですが、それは素晴らしく豊かな土壌でした。

Fokhol Gårdで、私はMaritという一人の若い女性の実習生に出会いました。彼女は農業だけでなく、霊的なことにも関心を持っていました。彼女は家の中で誰かが亡くなったことなどを察知することができ、私はそれに魅了されました。多くのキリスト教徒はこうしたことに少し戸惑うと思いますが、類は友を呼びます。不浄な霊と関わりを持ち、肉体の内側、あるいは外側で霊界のこのような部分を感知したり、弄んだりしている人々は、実は多く存在するのです。

当時、私は霊的なものが現実であることを知っており、それに抵抗を感じるどころか、むしろ歓迎していました。私が理解していなかったのは、不浄な霊が、さまざまな不浄な活動などを通じて人間に結びつくということです。それは彼らと契約を結ぶようなものであり、人生への侵入を許すこととなります。私は後に、目が開かれ神が私を自由に始めてくださった時に、そのことを身をもって経験しました。また、Fokhol Gårdでは、自然な物理現象ではないものを聞いたり感じたりするという奇妙な体験をいくつかしましたが、これについては今まで自分の中に留めてきました。はっきり言って、それは神に仕えるものではありませんでした。ですから、説明のつかない、物理法則を超えた現象は多くありますが、だからといってそれが自動的に神の霊によるものだとは限らないと言えるのです。聖霊の特徴は、清さと光です。暗闇や神秘主義ではありません。

今日、私は、物質的な繁栄への渴望や、自然の摂理を超えた肉体的な心地よさと快樂の追求が、真理に対して人間を鈍感にさせることを知っています。誠に、私たちは狭い道を歩んでおり、滅びに至る道は広いのです。当時、私の新しい友人が私に話さなかったのは、彼女には自分に付き添うある種の霊的な助け手がいて、それが彼女自身をも一部恐怖させていたということでした。周知の通り、イエスは人々から霊を追い出されました。そして、その必要性は今日でも存在します。私たちが通常これを目撃しないからといって、それが現実味を欠くわけではありません。私は数年後になって初めて、この事実を知りました。彼女がこれに対する恐怖に部分的に囚われていたことは、当時も今も明らかです。

# Chapter 11

## Alternativt Nettverk (1996)

1996年になり、私はオスロのDillingøyで代替奉仕（siviltjenesten）を開始することになりました。私は戦争に参加したり他人の命を奪ったりしたくなかったため、代替奉仕活動を選びました。この確信は当時から揺るぎないものでした。オスロのTøyenにあるAlternativt Nettverkを手伝う仕事を得られたのは、幸運なことだと思っていました。

VisionWorks ASは、ホリスティックな思考や代替スピリチュアリティの分野において、講演会、見本市、コース、ワークショップを開催し、雑誌『Visjon』を発行している会社です。この組織は1992年にØyvind SolumとRoald Pettersenによって、Alternativt Nettverkという名称で設立されました。

— Alternativt NettverkについてのStore Norske Leksikonの記述

Alternativt Nettverkは、全国各地でAlternativmessenと呼ばれるイベントを開催していました。残念ながら、ここは汚れた霊たちにとっての蜜壺のような場所であり、ヨガ、パーストーン、エネルギー、ヒーリング、チャネリングなど、主イエス・キリストへの拒絶を強めるようなあらゆる事柄を扱っています。どれほど奇妙に聞こえるかもしれませんが、汚れた霊が清さを生むことはありません。そして、多くの好奇心旺盛な人々が欺かれています。語れることはたくさんありますが、端的に言えば、幸いにもその活動に関わったのはわずか数ヶ月であり、そこから抜け出せたのは幸運でした。あるいは、こう言うべきでしょうか。Oslo Spektrumで運悪く車の一台に大きな傷をつけてしまい、その直後にAlternativt Nettverkから解雇されたのです。あれほど劣悪な住環境や状況で生活したことは後にも先にもありません。私が滞在していた場所には、ネズミやハツカネズミが自由に出入りできそうな穴が壁に開いていました。トイレはこれまでに見たことがないほど汚く、部屋は尿の臭いが立ち込めていました。挙句の果てには、私に性的関係を迫る男にまで遭遇し、私はそれが嫌でたまりませんでした。この期間中、歯の手入れも適切にできていませんでした。人生においてどん底の時期であり、そこから得られたものは何一つ良いものではありませんでした。彼らのすぐ側で働いた者として、彼らが結ぶ実は明らかであり、今日それを振り返ると、口の中に苦い後味が残ります。それでも、当時はまだその背後にある

霊が、私がそれまでの数年間に心血を注いできた思想の背後にいたものと同じであるとは理解していなかったため、すぐには決別できませんでした。

# Chapter 12

## 年 Fagerli Leirskole

時は1997年、私はGeiloのSkurdalenにあるFagerli Leirskoleで残りの兵役代替奉仕（siviltjeneste）を行っており、環境の変化を心から楽しんでいました。結局、そこでさらに半年間延長して働くことになりました。私はあらゆる仕事を手伝いました。それには、スノーボードの指導、山でのハイキングやスキーの引率、客室の掃除、キッチンでスープやパン、ロールパンなどの簡単な食事を作る手伝いなどが含まれていました。このキャンプスクールには、平日は最大80名ほどの若者が滞在し、それに加えて週末の宿泊客も訪れました。私たちは工業用の捏ね機と、蒸気機能や焼き時間・温度を精密にデジタル制御できる、大きくて素晴らしいフランス製のオーブンを使用していました。キッチン当番でゲストのために食事を準備するとき、私は何をやるにも心から主にするようにその仕事に打ち込み、そこに喜びを見出していました。それは調理の仕事においても、ゲストのために働くという奉仕の面においても同じでした。シェフは、同じレシピを使っているのになぜ私の焼くパンがこれほど大きく膨らむのか不思議がっていましたが、それは生地の手捏ね方と扱い方に秘訣がありました。私は理想の焼き上がりを実現するために、オーブンの設定を色々試してみるのが好きだったのです。乗馬の世話も私の役割の一つでした。子供たちに馬のブラッシングや鞍の付け方、厩舎の掃除などを教えたが、こうした経験は彼らのほとんどと同じように私にとっても初めてのことで、それでも非常に楽しい時間でした。生活の場は、敷地内にある小さなログハウス（laftehus）でした。入り口では腰をかがめなければ入れず、中でようやく真っ直ぐ立てるほどの高さしかありませんでしたが、私にとってはまさに「卵の黄身（plommen i egget）」のように、最高に居心地が良く満ち足りた場所でした。この時期、私はGolで運転免許を取得し、フォークリフトの運転講習も修了しました。

# Chapter 13

## 母の死 (1998)

時は1998年。母がわずか48歳で、最後の誕生日を迎えて間もなく亡くなりました。母の誕生日の際、Knarvikにいる彼らを訪ねたのを覚えています。その日、私は母の瞳の光が消えていることに気づき、不思議に思いました。葬儀の直後、私は祖母の家の居間にいましたが、祖母自身はそこにはいませんでした。その時、継父が私に遺産相続の権利を放棄する書類に署名するよう求めてきました。私の兄弟には求めず、私だけにです。長子である私が脅威に見えたのだと思います。彼は、二人がお金をすべて使い果たしたと言い、私のおじの一人が、義父の言うところによればそのことに同意していると告げました。実際には、私は拒絶されました。Ørnahaugenのマンションの売却益と母の貯金から、合わせて約60万クローネをその結婚生活に持ち込んだにもかかわらずです。彼は母の病気の責任を私たちに負わせ、自分自身の責任を認めようとしていなかったのは明らかでした。強引な筆致で、彼は私たちの相続権を抹消したのです。義父は後に再婚し、新しい妻は家の一部を受け取りました。しかし、私と兄弟のTomは、母が結婚の際に持ち込んだものを何も受け取れませんでした。彼はそれを私たちから奪ったのです。Lars Erikが彼の唯一の相続人になるだろうと私は考えています。母と叔母も、父（私の祖父）からAskの土地を与えられませんでした。三人の兄弟にはそれぞれ土地が割り当てられた一方で、今回起きたことは、実のところこの家族の伝統のようなものでした。（2025年に祖母のJenny Gjertineが亡くなった際、母の相続分はわずかな小遣い程度に過ぎませんでした。農場も、不動産も、何もありません。それが彼女の三人の息子で分けられるため、実質的には何の意味も持たないのです。）これは神のあり方を示すものではありません。石の心を肉の心に変えることができるのは、神だけです。私たち一人一人が神の御前に立ち、自らの行いについて申し開きをする日が来るのです。

Fagerli Leirskoleでの仕事もこの年に終わりました。また、ちょうどこの時期、私はオスロの書店で2000ページを超えるUrantia-bokenに出会いました。その後10年間にわたり、この本が私の関心を捉え続けることとなります。そこには、人間の起源とされるものについての複雑な説明や、偽りのイエスについての記述が溢れていました。その本は膨大な労作ではありますが、深く掘り下げてその跡を辿れば、それが真実を偽造したものであることが分かります。私も最終的に、その起源を徹底的に調査することで、その結論に達しました。それは霊媒的な経路を通してチャネリングされた資料であり、自動筆記（オート・ディクテーション）によるものでしたが、その事実は

隠蔽されようとしていました。私自身もその魔力に捕らわれ、時折オスロの読書会に参加していました。私はその内容に没頭しており、それは周囲の目にも明らかでした。グループのリーダーは、明らかに私のその熱心さを喜んでいました。

1998年の暮れ、私はBergen郊外のKnarvikに戻っていました。母は葬られたばかりで、日々の生活は悲しみと向き合い、仕事を探すことの繰り返しでした。私はBergenのManpowerで数ヶ月間働き、KokstadのHansaや、後にÅsaneのToppeにあるSolberg Dekkの倉庫などで働きました。Solberg Dekkでは仕事振りを評価され、正社員の誘いを受けましたが、私はKnarvik Senterで管理人助手として働くことを選びました。義父は相変わらず仕事に追われていました。彼が深い悲しみに暮れているのは明らかでしたが、誰かの助けを借りて心の整理をしようとしているようには見えませんでした。そうすべきなのは明白だったのですが。それでも彼は彼なりに私たちの面倒を見てくれました。そのことには感謝しています。自分の思考がまだうまく機能していないことは自覚していましたが、自分自身に挑戦するために、さらなる教育を受けたいと願うようになりました。通信技術エンジニアとしての道に進むことを決めたため、まずは数学と物理の成績を上げる必要がありました。まだ話していませんでしたが、この頃の私の髪は、母が嘆くほどにここ数年伸ばし放題で、お尻の辺りまでありました。彼女はもともと美容師で、現役の最後の方はHaukeland Sykehusの近くにある「Solei Frisørsalong」で働いていました。息子が髪を伸ばすことは彼女の望みではありませんでしたが、それでも彼女はそれを受け入れてくれていました。工科大学の予備課程が始まるのを機に、身なりを整えるのも良いだろうと考えました。私の「実験」は十分に長く続いたと思ったのです。髪を切ってくれた男性の美容師は、私の長い髪を切り落とすのを心から惜しんでいるようでしたが、私にとっては、ようやくそれを手放し、夜中に寝返りを打っても髪が顔にかかることなく眠れるようになるのは解放感そのものでした。自分の髪を編む方法を学んだのは面白い経験でしたし、全くの無駄ではありませんでした。今日でも、私は将来の妻や娘たちの髪を喜んで簡単に編んであげています。

# Chapter 14

## Polyteknisk Institutt (1999)

1999年のことです。私はBergenにあるPolyteknisk Instituttで、数学、物理、化学などを再び履修し、そこで良い成績を収めました。例外はドイツ語で、相変わらず習得できませんでしたが、それはおそらく関心が持てなかったせいでしょう。この年、私は同じく工学部の予備課程を履修していた Petter Arild Heitman と知り合いました。

# Chapter 15

## HIA Grimstad (2000-02)

BergenのPolyteknisk Instituttでの学年を終えた後、Petterと私は一緒にGrimstadのHøgskolen i Agderへ行き、そこで通信工学の勉強を始めました。そこで私は、Richard Paulsenという良き学友も得ることができました。この頃、私はプログラミングやシステム開発が自分にある程度の適性があり、それを心から楽しんでいるのだと理解し始めました。成績もそれに伴うものでした。

2001年になり、私はほどなくしてHøgskolenの学生会のリーダーを務めることになりました。そして2002年の初めには、自治体からの依頼を受け、Sri Lankaから来た4~5人の未成年の難民申請者たちと一緒に住むことになりました。Grimstadで勉強をしながら、彼らの後見人を務めたのです。それは楽しくも多忙な時期でした。彼らを連れてBergenやTrondheimへ旅行に行ったことは、とても喜ばれました。そこでの務めに対して最高の推薦状をいただきましたが、実のところ、当時の私はまだ分別のないところがあり、時折、運転中にかなりのスピードを出すことを好んでいました。

# Chapter 16

## NTNU Trondheim (2003-04)

2003年、私は将来の妻となる Trønder 出身の女性に出会いました。ちょうどその頃、私は Grimstad で卒業論文を完成させようとしているところでした。私たちは最優秀論文賞を受賞しましたが、共に作業した二人の学友もクラスで最も優秀な部類に入っていました。素晴らしい学友達のおかげで、私は学業を無事に終わることができました。さらに、私は約2年間にわたり学生評議会のリーダーを務め、同時期に大学理事会のメンバーでもありました。この活動は事務局の職員や他の学生たちからも明らかに評価されていたようで、私は学生活動の功績により大学から表彰された3人のうちの1人となりました。数年前に廃止されていた卒業式の再開を提案し、大学理事会に働きかけたのも私でした。

2003年の秋、私は NTNU（ノルウェー科学技術大学）の通信技術修士課程に進むために Trondheim へ移り、恋人の Sølvi Myklebust もそこで教員になるための勉強をしていました。その年、私は彼女が信仰を第一に置いていないことに気づきましたが、私自身がまだ信者ではなかったため、それを危険な兆候とは捉えていませんでした。

当時、私は Lade にある Falkenborg Studentby に住んでいました。2004年、私はオーナーに対し、200の接続ポイントを持つネットワークの構築と運営を提案しました。それはすべて私自身の発案であり、設置、機器、セットアップに関する独自の計画に基づくものでした。機器を注文した際、Telenor ショップの担当者は、個人がこれほどの規模の設置を手掛けるのを見るのは珍しいと驚いていました。Falkenborg Studentby のオーナーは、管理人や助手の若者の助けを借りて私が成し遂げた仕事に満足し、その直後にそこを売却しました。

# Chapter 17

## Oslo (2005-06)

2005年、私は NTNU で修士号を取得すると同時に、Bærum の Jar へと移り住み、Software Innovation にてトレーニーおよびシステム開発者として働き始めました。また同年、NTNU に修士論文を提出した直後に結婚いたしました。これにより、学業の最終段階と並行してフルタイムで働いていたために続いていた、一日12時間から16時間に及ぶ数ヶ月間の激務の日々に終止符が打たれました。2006年末、私たちは Kløfta の Lindeberg へ転居し、私は Element Logic で同じ職務に就きました。私たちは Mohagen 2 という共同住宅に住んでおり、そこで私は理事長を務め、開発業者に対する訴訟において組合を率いました。それは私たちにとって試練の時でしたが、主の御手の中で、私たちはそれを比較的良好に乗り越えることができました。

## Chapter 18

### 救いが扉を叩く (2007-08)

2007年、私たちは第一子の誕生直後にTorvikbuktaに引っ越しました。妻がしばらく親友の近くに住みたいと望んでいたこともあり、また私自身、Element Logicでの開発者としての仕事を続けることに平安を見いだせなくなっていました。私は同社の在宅勤務に切り替え、スカンジナビア全域のサポートを担当しながら、弟の幼なじみが新しい会社を立ち上げるのを手伝っていました。私たちはTorvikbuktaに8か月間住んだ後、Bergen郊外のFrekhaug近くにあるFosseに移動し、2008年8月に家を購入しました。それから間もなく、私は次のような夢を見ました。

私は多くのドアがある廊下を歩いており、どれが正しいのか分からず迷っています。すると、少人数のグループがやってきて、正しいドアを教えてくださいました。中に入ると、天井が見えないほど高く、広々とした開放的な部屋に出ました。右側には、目に見える限り高く伸びるガラスの壁があり、目の前にはその上を歩くことができるクリスタルかガラスの海が広がっています。水面下からは、彫像のような姿をした——生きているようで生きていないような——者たちが、クリスタルの海を壊すことなく通り抜けて現れます。それらは、現代のコンサートで見られるダイナミックな光のショーのように、そこにいる人々を楽しませる生きた芸術のようです。完全に姿を現すと、彼らはさまざまなポーズで静止し、その後静かに再び沈んでいきました。遠くには牛が草を食む山が見え、人々はグループでテーブルに座り、その日を楽しんでいるようでした。私は素晴らしい自由と喜びを感じました。私は目を覚まし、その夢を喜びました。

— 救いの夢

当時は理解していませんでしたが、その夢はこれから訪れる救いの象徴でした。この時点から、事態は変わり始めます。私の人生において、なぜ今私がここに座り、イエスにある新しい契約の下で生きるために神によって救い出されたのかを説明する時期に来たのです。自分の力では私は何者でもありませんが、信じる者には、神とともにあれば、すべてのことが可能なのです (Mark 9:23)。

「『それらの日の後、わたしが彼らと結ぶ契約はこれである、と主は言われる。わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いに書きつける。』さらにこう言われます。『わたしは、もはや彼らの罪と不法とを思い出すことはない。』これらのことが赦される場所では、罪のためのささげ物はもはや不要です。ですから、兄弟たち。私たちはイエスの血によって、はばかりことなく聖所に入ることができます。イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、新しく、また生きる道を開いてくださいました。また、神の家を治める偉大な祭司がおられるのですから、私たちは、邪悪な良心をきよめるために心に血を振りかけられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰の確信をもって、真心から神に近づこうではありませんか。約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺することなく、希望の告白を堅く保とうではありませんか。また、互いに愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人たちの習慣にならって、自分たちの集まりをやめてはいけません。むしろ励まし合い、その日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。もし私たちが、真理の知識を受けた後、意図的に罪を犯し続けるなら、罪のためのいけにえはもはや残されていません。ただ、さばきと、逆らう者たちを焼き尽くす激しい火を、恐怖のうちに待つことだけがあります。モーセの律法を無視する者は、二、三の証言者の言葉に基づいて、容赦なく死刑に処せられます。まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮辱した者は、どれほど重い刑罰に値するか、考えてみなさい。私たちは、『復讐はわたしのすることである。わたしが報復する』と言い、また『主はその民をさばかれる』と言われた方を知っています。生ける神の手に落ちることは恐ろしいことです。」

— ヘブル人への手紙 10:16-31

時は2008年、私の内なる存在は、人生が完全に変わろうとしていることを知っていました。妻と私は Christian Fellowship Nordhordland の集会に通い始めました。集会はKnarvikの体育館で行われており、私たちはそこが長女Oliviaを——バプテスマを授けるのではなく——祝福してもらう場所だと考えていました。この会衆に加わったとき、私は賛美の歌の中に喜びを感じ、信者たちは私たちに対して開放的で温かく接してくれました。私は数年前から霊的な事柄について読み続けていたため、周囲の人々よりも自分の方が知識を持っているという知的な慢心 (Proverbs 16:18) がありましたが、それでも家のように寛ぎ、平安を感じていました。幸いなことに、彼らは

私たちを両手を広げて受け入れてくれたため、聖霊が私の内で働き始めることができました。

Christian Fellowship Nordhordland に通い始めて間もなく、ノルウェーのベルゲン出身の伝道者が訪れました。説教の後、彼は私に近づき、私が誰であるか、そしてイエスを人生の主、主人として受け入れたいかと尋ねました。私は彼の率直さと言葉選びに驚きましたが、自分が何にコミットしているのか完全には理解しないまま、イエスを受け入れることに「はい」と答えました。彼は私に「これらの言葉を復唱しなさい! 」と言いました。そして、まさにその場で私がイエスを人生の主、主人として告白し (Romans 10: 9-10)、私のために命を捨ててくださったこととその恵みに感謝したとき、私は神が与えてくださった新しい霊のビジョンを受けました。

ビジョンの中で、私は自分よりもかなり背の高い、大きな白い卵の底に立っています。見上げると、その卵は人の手で作られたものではなく、生きた有機的な物質と表現するのが最もふさわしいものでした。卵の外側から柔らかな光が差し込み、内部を照らしています。すべてが清らかで、乱雑なものは何もなく、ただ私だけがいると感じました。まるで、私のすべての混乱が短い間取り去られたかのようでした。私は驚きましたが、その伝道者が私に告げたとおりに、他では味わったことのない非常に特別な平安を内側に感じました。

#### — イエスを受け入れた時に受けたビジョン

その伝道者は、私がかつて知らなかった平安を経験すること、そしてこの平安はバプテスマを受けたときに消えるだろうと私に語り、確証を与えてくれました。もちろん、私はその言葉を不思議に思いました。このことが起こったとき、私の頬を涙が伝いました。後日、妻はそれからの数日間、私のことが別人のようだったと言いました。その日の集まりから車で帰る途中、私は聖霊が直接私に語りかけるのを聞き、死ではなく生を語るようにと警告されました (Proverbs 18:21)。聖霊は、自分の言葉を警戒し、発言を慎重に選ばなければならないことを示されました (James 3:6)。聖霊は、現在においても、また将来への預言的視点においても、私たちを親密に知っておられるということを理解することが重要です。振り返ってみると、この経験が私の召命への鍵であり、積極的に育てていくことが極めて重要であったことが今なら分かります。これは、私が常に聖霊が与えてくださる通りに語ることができたという意味ではありませんが、私たちは平和をつくる者となり、行動であれ言葉であれ、破壊や死を撒き散らすのではなく、真理を分かち合うよう召されているのです。

イエスを受け入れたとき、私は人生で初めて神からのビジョンを受けました。33年の人生、1万1千日以上 of 歲月の中で、このような初めての経験がもたらした統計的意義を考えれば、信者の神体験を否定しようとする人々に対して、私はこの二言を贈ります。「**不信仰と疑念**」です。

これから始まるプロセスの中で、神が私たち信者——聖徒たち——に対して、神と共に歩み続け、官能、欲望、神秘主義を伴う世に逆戻りしないよう**戒めておられる**のが分かります。

しかし、民の間には、にせ預言者も出ました。それと同じように、あなたがたの間にも、にせ教師が現れます。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主をさえ否定して、自分の身に速やかな滅びを招いています。そして、多くの者が彼らの色情をあとに追い、そのために真理の道がそしりを受けるのです。また彼らは、欲にまかせて、作り事の言葉をもってあなたがたを利欲の対象にします。彼らに対するさばきは、昔から遅滞なく進んでおり、彼らの滅びも、まどろむことはありません。神は、罪を犯した御使いたちを容赦せず、地獄（タルタロス）に引き渡し、さばきのために、暗闇の穴の中に閉じ込められました。また、昔の世界を容赦せず、不敬虔な者たちの世界に洪水を送ったとき、義を宣べ伝えたノアたち八人を守られました。また、ソドムとゴモラの町を灰にして滅ぼし、のちの不敬虔な者たちへの見せしめとされました。また、無法な者たちの色情に満ちた生き方によって苦しんでいた義人ロトを救い出されました。——この義人は、彼らの間に住んでいましたが、日々、無法な行いを見聞きして、その正しい魂を痛めていたのです。——主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、不義な者たちを、さばきの日まで罰のもとに置く方法を心得ておられます。特に、汚れた情欲に駆られて肉に従って歩み、権威を軽んじる者たちに対して、そうです。彼らは大胆不敵で、わがままで、栄光ある者たちをそしることを恐れません。御使いたちは、力も勢いも彼らに勝っていますが、主の御前で彼らをそしって訴えることはしません。しかし、これらの者は、捕らえられて殺されるために生まれついた、理性のない動物のようなもので、自分が知りもしないことをそしり、その滅びのゆえに、自分もまた滅ぼされ、不義の報いとして罰を受けるのです。彼らは、昼間から遊びふけることを楽しみとし、あなたがたといっしょに宴会をしながら、自分たちの欺きを楽しみ、しみやきずとなっています。その目は情欲に満ち、罪をやめることができません。彼らは心の定まらない魂を誘惑し、その心は貪欲に慣れており、呪いの子らです。彼らは正しい道を捨てて迷い込み、ベオルの子バラムの道に従いました

。バラムは不義の報酬を愛しましたが、自分の不法を責められました。もの言わないろばが、人間の声で語って、この預言者の狂気的な行動をはばんだのです。彼らは水の無い井戸、嵐に吹き払われる霧です。彼らには暗闇が用意されています。彼らは、空虚な大言壮語を吐き、迷いの中に生きている人々から、ようやく逃れようとしている人々を、肉の欲と色情とによって誘惑します。彼らに自由を約束しながら、自分自身は滅びの奴隷です。人はだれかに征服されれば、その人の奴隷になるのです。もし彼らが、主であり救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れから逃れた後、再びそれに巻き込まれて征服されるなら、あとの状態は、初めの状態よりも悪くなります。義の道を知っているながら、自分に伝えられた聖なる命令から背くよりは、それを知らなかったほうが、彼らにとってはよかったです。ことわざにあることが、彼らの身に起こったのです。「犬は自分の吐いた物に返る」、また「洗った豚が、また泥の中に転がる」。

— ペテロの手紙 第二 2章

後になって分かったことですが、この日以来、私は全能の神 (Psalm 91:4) — 私の救出者、救い主、そして創造主 — の翼の陰に入ることになったのです。

彼は言った。「わが力、主よ、わたしはあなたを慕います。主はわが岩、わが城、わが救い主、わたしの拠り所とするわが岩、わが盾、わが救いの角、わが砦です。ほむべき主を呼べば、わたしは敵から救われます。死の綱がわたしにまといつき、滅びの川がわたしを恐れさせました。黄泉の綱がわたしを囲み、死の罾がわたしに立ち向かいました。苦難の中でわたしが主を呼び、わが神に助けを求めると、主はその聖所からわたしの声を聞かれ、わたしの叫びは御耳に届きました。すると地は揺れ動き、山の基も震え、主の怒りによって揺れ動きました。煙は御鼻から立ちのぼり、御口から出る火は焼き尽くし、炭火は主から燃え上がりました。主は天を押し下げて下られ、その足もとには暗雲がありました。」

— 詩篇 18:1-10

それにもかかわらず、あの日に実際に何が起こったのか、そして自分が狂っていたわけではないという理解に達し、平安を得るまでに7年の歳月を要しました。私は、神ご自身が私に与えられた新しい霊について証ししてくださった、あの卵の中に立っていたときのことを思い出します。それは私のバ

プテスマが行われる数日前のことでした。バプテスマでは、良き兄弟である Oddmund Solheim が私を水の中へと導いてくれました。

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。だれでも新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ニコデモは言った。「人は老いていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度母の胎に入って生まれることができますでしょうか。」イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。だれでも、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」

— ヨハネの福音書 3:3-5

2012年に至るまでの数年間、私は霊的な強い体験をしましたが、私の知性はそこで何が起きているのか理解していませんでした。また恐ろしかったのは、新しく生まれたとき、私の目が開かれ、夜中に部屋の中で人間のような存在が見えるようになったことです (Ephesians 6:12)。このようなことは教会の集会ではあまり話題になりませんが、ある日曜日の集会の後、二人の会話を耳にする機会がありました。その会話は、母親と3歳くらいの娘が、夜中にベッドの脇に立っている男を見たというものでした。それは恐ろしい経験でしたが、翌日、母親は「夢だったに違いない」と打ち消そうとしました。すると娘が母親に、「あの夜、部屋に立っていたあの男の人は誰だったの?」と尋ねたのです。私は、もし彼らがそのようなことを経験し、それを証しできるのであれば、自分の経験も捏造や単なる夢ではないのかもしれないと気づきました。これが転機となり、私の人生の歩みをめぐって実際に戦いが起きているのだということを理解し始める鍵となりました。

神の会衆として、私たちは自分たちの仲間が過去に決着をつけ、新しく生まれたときに聖霊の導きを完全に受け入れられるよう、世話し、整えることを意識しなければなりません (Romans 8:14)。私たちは自分の考えや思いを訓練することを学ばなければなりません (2 Corinthians 10:5)。そうして初めて、地上における神の体は、嵐が吹き荒れ、引き裂かれそうな緊張にさらされても耐えることができるのです。私たちは言葉においても行いにおいても一致していなければなりません。教会はこの点に関して、神の御言葉を切り貼りすることで、銀の家宝を売り払ってしまいました。その結果、神が私たちのために用意されている祝福を投げ捨て、神の民は知識がないために滅びています (Hosea 4:6)。会衆が干上がり、若い世代が集まりから姿を消していくのは、私たちが聖霊と共に歩まず、聖霊が与えてくださる恵みの賜物を用いていないからです。神の霊は、生きておらず、神の導きに対して開かれていない会衆の中では働くことができません (1 Thessalonians 5:19)。

ともかく、これらのことについて多くを語るクリスチャンの兄弟が会衆の中に多くはいませんでした。交わりは素晴らしく、私は生き生きとしていました。課題がなかったわけではありませんが、それは常に付きものです。過去の呪縛から自由になるためのプロセスでした。母の胎から生まれる肉体とは異なり、私たちの霊は神の御霊によって生まれなければなりません。私たちの知性や古い考え方は自動的に新しく生まれるわけではありません。しかし、忠実に会衆や交わりに留まり続けることで、一步一步変えられていくのです (2 Corinthians 3:18)。たとえそれが常に容易なことではなくても。

この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えなさい。そうすれば、神の御心は何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかをわきまえるようになります。

— ローマ人への手紙 12:2

聖書はあくまでも本です。それがどれほど祝福されたものであっても、命は本そのものからではなく、神の御霊から直接来ます (2 Corinthians 3:6)。神は私たちを導き助けるために聖書に御言葉を与えてくださいましたが、命そのものは神からのみ——私たちの内におられるキリスト、そしてキリストの内におられる神 (Colossians 3:4) からのみ——信仰に基づいてもたらされます。イエスご自身、厳かに警告されました。イエスを拒む者は永遠の刑罰に入り (Matthew 25:46)、主の御前から遮断され、永遠の滅びという刑罰を受けることになると (2 Thessalonians 1:9)。

私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉体にあって生きているのは、私を愛し、私のためにご自身を捨てられた神の御子を信じる信仰によっているのです。私は神の恵み無しにはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、キリストの死は無意味だったこととなります。

— ガラテヤ人への手紙 2:19-21

しかし、素晴らしいことに、神の御言葉が矛盾することはありません (Psalm 119:160)。私たちは御言葉を学び、それが良く、正しいものであるかどうかを確かめることができます。父なる神が語られたのであれば、神は過去においても未来においても、ご自身の言葉に真実であられます。もし試練に耐えうるなら、その御言葉は嘘と真実を峻別し、私たちがそれを受け入れるなら、私たちのための道具となります。

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやわかりごとを判別します。造られたもので、神の前で隠れおおせるものは一つもありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの方に、申し開きをしなければなりません。

— ヘブル人への手紙 4:12-13

新しい誕生に続く変革は、私たちの知性、感情、そして古い考え方に及びます。新しく生まれる前に身につけたことの多くは、しばしば学び直さなければ（忘れなければ）なりません。神に敵対する知識は良くありません。したがって、神の御霊と調和して歩み、機能するためには、御霊の導きが不可欠です。

私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、あなたがたは自分のしたいと思うことをすることができないのです。しかし、御霊に導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。肉の行いは明白であって、次のようなものです。淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、およびこれらに類するものです。前にも言ったように、今も言っておきます。このようなことを行っている者は、神の国を相続することができません。しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、慈愛、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情欲や欲望とともに十字架につけたのです。もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊によって歩もうではありませんか。うぬぼれて、互いにいらだたせたり、ねたみ合ったりしてはいけません。

— ガラテヤ人への手紙 5:16-26

神についての知識と経験を通じ、自分のやり方を捨てて神が用意してくださっているものと交換する意志があるなら、私たちは一步一步進んでいくことができます。それは必ずしも簡単ではありませんが、正しい道なのです。

こういうわけで、私たちは、これほど多くの証人たちに雲のように囲まれているのですから、いっさいの重荷と、まといつく罪と

を捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり、完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、恥をもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。そうすれば、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまうことはないでしょう。あなたがたは罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことがあります。また、あなたがたに向かって子供に対するように語られた、この励ましの言葉を忘れています。「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて、弱り果ててはならない。主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子をむち打たれるからである。」訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめない子がいるのでしょうか。もし、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、あなたがたは私生児であって、本当の子ではありません。さらに、私たちには肉の父がいて懲らしめてくれましたが、私たちはそれを敬いました。それなら、なおさら、私たちは霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。肉の父は、短い期間、自分が良いと思うままに懲らしめました。霊の父は、私たちの益のために、私たちをその聖潔にあずからせようとして懲らしめられるのです。すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しいものと思われそうですが、あとになると、それによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。ですから、弱った手と、なえた膝を、しゃんとさせなさい。また、足の不自由な人が脱臼することなく、むしろ癒やされるように、自分の足のためにまっすぐな道を作りなさい。すべての人との平和を追い求め、また聖潔を追い求めなさい。聖潔がなければ、だれも主を見ることはできません。だれも神の恵みから漏れることのないように、また、苦い根がはびこって騒ぎを起こし、それによって多くの人が汚されることのないように気をつけなさい。また、だれも、一杯の食べ物のために自分の長子の権利を売ったエサウのように、淫らな者や、神を敬わない者にならないようにしなさい。あなたがたが知っているとおりに、彼はのちに祝福を受け継ぎたいと思ったのですが、拒絶されました。涙を流して求めても、悔い改めの機会は得られませんでした。

— ヘブル人への手紙 12章

振り返ってみれば、2007年に霊によって生まれたものの、天の父は私がこれまでの人生で吸収してきた誤った教えを学び直させる（忘れさせる）手

助けを始めてくださっていました。このプロセスは、Christian Fellowship Nordhordland での神の御言葉を通じて行われました。私は彼らの家庭集会や会衆に歓迎されましたが、私の知性は神に直接敵対する疑似知識で満たされており、周囲の人々にそれを積極的に広めていました。今にして思えば、私はその時すでに一種の伝道者でした。奇妙に聞こえるかもしれませんが、私は自分の心の中に一つの現実を持ち、神が与えてくださった新しい霊とは一致しない汚れとのつながりを持っていました (Colossians 2:8)。経験から、新しく生まれた者であっても、肉と霊は互いに対立し合うことがあるのだということが分かります (Galatians 5:17)。

## Chapter 19

### Frekhaug (2009)

2009年を迎えました。この年、地元の知人が私たちの元を訪ねてきました。彼は Frekhaug の Fosse にある私たちの家のすぐ近くに住んでおり、非常に個性的で、政治に精通した活動的な人物でした。彼は、当時「農業・自然・野外活動区域（LNF）」に指定されていた私たちの土地の一部を購入したいと申し出ました。私たちが所有していた3.2マールのうちの1マールを住宅用地に転用することを望んでおり、諸費用をすべて負担した上で、もし建築許可が下りればその土地を買い取りたいという提案でした。後ほど本書の中でこの件について再び触れることになるため、ここで書き留めておきます。記憶が正しければ、彼の最初の提示額は約350,000クローネほどだったと思いますが、これについては2013年の章で詳しく述べることにします。この出来事が、後の経済的な歩みにおいて重要な鍵となるため、あらかじめお伝えしておきたかったのです。

# Chapter 20

## 年 キリスト教の交わり

2010年は、私の新しい人生の始まりにおける困難な数年間の中間点にあたります。私の内側で御霊が新しい命を証ししている一方で（1 Peter 5:8）、私が福音に反するメッセージを積極的に伝えているのを見るのは、教会のリーダーたちにとって非常に困難なことでした。ついに、どちらの道を進むのか、選択を迫られる時が来ました。

教会の長老の一人である Morten Gundersen が、後に私に語ってくれたことを覚えています。彼は私が内なる戦いの中にいることを理解し、長い間、私と家族のために祈る人を立ててくれていたのです。今、この時期を振り返ると、過去への扉をきちんと閉めていなかったために、古い人生が私を引き戻そうとしていたのだと言えます。私は新しく生まれた時も、その後の時期も、神との素晴らしい体験をしました。しかし、汚れを帯びた霊に対して、扉を開いたり、あるいは開いたままにしたりしてしまう物品、行為、あるいは言葉が存在することを、私は痛切に感じています。これは、自分の人生における聖霊の証しを振り返り、ここ数年でようやく得た経験です。つい数日前、預言の賜物を持つ信仰の兄弟 Arnt-Viktor Pettersen に会いましたが、彼は聖霊が彼自身の人生においてまさにこのことについて語られたと指摘しました。そして彼は、家からいわば「煩わしい霊」をどうしても完全に追い出さずに苦しんでいる一人の信仰の姉妹に対しても、御言葉を授かりました。彼女は繰り返し家の中を回り、家のために祈っていました。まだイエスを受け入れていない彼女の息子も、ある時彼らが霊を追い出した際、何かが動いたのを肌で感じたと言いました。その姉妹が私に語ったところによると、彼らは家全体を祈り、宣言しながら回り、最後にガレージにたどり着いた時、突然何かがガレージから「飛び出して」いくのを感じたそうです。それは、所有物や過去を捨てきれず、それが汚れを帯びた霊の存在を許し、扉を開くことになってしまっているクリスチャンの周囲で起こる、後に私が経験した様々な現象を思い出させます（ヨハネの手紙一 4:1）。

2010年に話を戻しましょう。当時、私は夜になると暗い気配を伴った霊たちが訪ねてくるのを経験していました。その時は何が起きているのか理解していませんでしたが、新しい人生を歩み始めたばかりの人は誰でも、捨てるべきことや断ち切るべきことを学ばなければなりません。しばしば、古いものを死なせるためには、真剣に決着をつけ、真心から新しいものを受け入れる必要があります。いわば、後ろにある橋を焼き払わなければならないのです。これには多くの場合、聖霊に逆らって働く呪いや霊的な絆を断ち切

ることが含まれます。これを成し遂げるためには、神の御前で自らを低くし、自分の行いの赦しを求め（ヨハネの手紙一 1:9）、自分を傷つけたり損なったりした人々を赦し（マタイの福音書 6:14-15）、そして、生き方であれ所有物であれ、病気や問題の入り口となっているものを追い出さなければなりません。

イエスはオリーブ山へ行かれた。朝早く、イエスがまた宮に入られると、民衆がみな、みもとに集まってきた。そこでイエスは腰を下ろして、彼らを教え始められた。そこへ、律法学者たちやパリサイ人たちが、姦淫の現場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせた。そしてイエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。モーセは律法の中で、このような女を石打ちにするよう命じていますが、あなたは何と言われますか。」彼らはイエスを試して、訴える口実を得ようとしてこう言ったのである。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書き始められた。彼らが問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げなさい。」そして、また身をかがめて、地面に書き続けられた。これを聞くと、年長者から始まって一人また一人と立ち去り、イエスだけが残された。女はそのまま真ん中にいた。イエスは身を起こして、その女に言われた。「女の方よ、あの人たちはどこにいますか。あなたを罪に定める者はだれもいなかったのですか。」彼女は言った。「主よ、だれもいません。」イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはなりません。」

— ヨハネの福音書 8:1-11

イエス様の特別なところは、私たちが拒絶するのではなく、愛してくださることです。主は私たちが罪を取り除くのを助けてくださいます。それは、古い人生を死なせ、主と共に永遠の命へとよみがえることを意味します（ローマ 6:4、ヨハネ 8:36）。汚れた霊に関連する持ち物については、パワーストーンやドリームキャッチャーなどの品々を知っている非クリスチャンの探求者たちの間ではよく知られたことです。私たちは神様から、魔術から遠ざかるようにとはっきりと命じられています。ノルウェーで私たちがよく「迷信」と呼ぶものは、これにあたります。

主なる神はこう言われる。災いだ、わが民の魂を捕らえるために、若い者にも年老いた者にも、手首に魔術的な「お守り」を縫い付け、頭に魔法のベールをかぶせる女たち。あなたがたは、自分自

身に破滅をもたらすことなく、他人の魂を捕らえられると  
思っているのか。

— エゼキエル書 13:18

持ち物には過去が宿っており、私たちがそれを自分の家に持ち込むとき、それを感知しているかどうかにかかわらず、私たちはその背景を容認していることとなります。そしてこれは、私たちが罪や悪い習慣をなかなか捨て去ることができないという形で、人生に現れることがあります。今日ではあまり語られませんが、神様と共に歩もうとするならば、罪を悔い改め、「家を清める（大掃除する）」ことは重要です（イザヤ 1:18）。そのような束縛を断ち切るためには、外側だけでなく内面においても同様です。これが、多くの信者が神様と共に歩むことを妨げている障壁であると私は信じています。それは、アルコール依存症の人が、まず自分に依存の問題があることを認めなければならないのと同じです。

しかし、悪人がその犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべてのおきてを守り、正義と恵みのわざを行うなら、彼は必ず生き、死ぬことはない。彼の犯したすべてのそむきの罪は覚えられず、その行った正義のゆえに彼は生きる。わたしは悪人の死を喜ぶだろうか。——主なる神の御告げ——彼がその道から立ち返って、生きることを喜ばないだろうか。しかし、正しい人がその正義から離れて不正を行い、悪人が行うあらゆる忌まわしいことを自分も行うなら、彼は生きるだろうか。彼の行ったすべての正義のわざは覚えられず、彼が犯した不信と罪のゆえに、彼は死ぬ。あなたがたは言う。「主の道は正しくない」と。イスラエルの家よ、聞け。わたしの道が正しくないのか。あなたがたの道こそ正しくないのではないか。正しい人がその正義から離れて不正を行い、そのために死ぬなら、彼は自分の行った不正のゆえに死ぬのである。しかし、悪人がその行った悪から立ち返り、正義と恵みのわざを行うなら、彼は自分の命を救う。彼は自ら顧みて、その犯したすべてのそむきの罪から立ち返ったので、必ず生き、死ぬことはない。イスラエルの人々は言う。「主の道は正しくない」と。しかしイスラエルの家よ、わたしの道が正しくないのか。あなたがたの道こそ正しくないのではないか。それゆえ、イスラエルの家よ、わたしはあなたがたを、各自の道に従って裁く。——主なる神の御告げ——悔い改めよ。あなたがたのすべてのそむきの罪から立ち返れ。そうすれば、罪があなたがたを倒すつまずきとなることはない。あなたがたが犯したすべてのそむきの罪を投げ捨て、新しい心と新しい霊を得よ。イスラエルの家よ、なぜ死

のうとするのか。わたしはだれの死をも喜ばない。——主なる神の御告げ——立ち返って、生きよ。

— エゼキエル書 18:21-32

ここで特筆すべきは、聖徒たちの最も内側の「輪」においてさえ、罪を捨てきれていない信者がいるということです。そして、その罪が彼らを神との活動的な生活から遠ざけ、大きな祝福を奪っているのです。私自身、ある信者の友人であり兄弟との間でこれを経験しました。ある時、親しい兄弟が私に、いわゆる「霊的に助けになる」という呪文（フォーミュラ）が書かれた紙を差し出しました。彼がそう言ったとき、私は自分の中に強い不快感を覚え、断りました。私たち神の子が、権力や富、あるいは単純に魔術といったものに捕らえられたり、惑わされたりしないようにすることが重要です。それは「stronghold」（要塞）と呼ばれ、人を包囲したり、固くつかんだりする城砦のように機能します（第2コリント 10:4）。私の兄弟がここでしようとしたことは、私と私の家族に呪いをもたらすことになりかねないものでした。これについては聖書学校でも教えられました。イエス様が言われたように、口から出る言葉が人を汚す（マタイ 15:18）のと同様に、持ち物もまたストロングホールドへの扉を開く可能性があります。持ち物、言葉、行動が自分自身の内面を映し出し、それが霊的な結果をもたらすというのは、決して不思議なことではないのかもしれない。

再び2010年に戻ります。私の場合、長年霊的な探求者であり、理解しないまま汚れた霊に執着していました（エフェソ 6:12）。私たちは皆、自分の行動に責任があります。私はこれに囚われており、それは内面にも外面にも現れていました。

私は新しきものと古きものの戦いの真っ只中にいました。ある夜、妻の隣でベッドに横たわっていたときのことを、特によく覚えています。私の体は芯まで氷のように冷たくなり、恐怖に圧倒されました。それが霊的な戦いであることを悟り、私は必死の思いで内面から神様に叫び、この戦いにおいて助けてくださるよう祈りました（ヤコブ 4:7）。眠りに落ちる前に最後に覚えているのは、光がやってきて私を包み込んだことです。そして翌朝目が覚めたとき、私は他のどの朝とも違う、エネルギーと喜びに満ち溢れていました。父なる神様が私の声を聞き、前夜私を苦しめていたものから解放して下さったのです。解放は最初は一時的なものでしたが、少なくとも一つの勝利が勝ち取られました（ガラテヤ 5:1）。これは、私が携えている多くの証しの一つです。

わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。  
耳にささやかれたことを、屋根の上で言い広めなさい。体を殺し

でも、魂を殺すことのできない者たちを恐れてはなりません。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。

— マタイによる福音書 10:27-28

戦いは続き、その最中に私は古い頭の知識を友人や同僚、教会の兄弟姉妹に伝えていました。それは神の御言葉に反する知識でした。私の霊は新しく生まれ変わっており、学校で学んだこととは正反対の強力な体験をしていましたが、私は過去に囚われたままでした。霊において新しく生まれていながら、私の思い（マインド）は依然として偽のメシア、偽のイエスに囚われていたのです。

1998年以来、私は Urantia-boken と呼ばれるものを熱心に学んでいました。今日、私自身の経験から分かっていることは、この思想は、その反キリスト的な価値観と霊的な流れによって、非常に巧妙な方法で人々を神から遠ざけるといことです。それはイエス様の教えの一部を模倣しながら、同時に主の神性と、地上における主の生涯の目的そのものを排除することによって行われます。私は、より多くの人々が自由になれるよう、関係する人々にこれについて詳しく伝える本を書くことを長く検討してきました。私自身について言えば、信仰における良き兄弟たち——兄弟 Trond、あるいは兄弟 Thomas といった方々——に助けられ、決別はすぐそこまで来ていました。皆、立派な兄弟たちですが、それぞれに独自の物語と経験があります。私には私の物語がありますが、彼らは皆、私のこれからの歩みと神のための働きにおいて共にあるのです。

# Chapter 21

## 年 選択と兄弟たち

2011年になりました。教会の長老のうちの二人、Magnar AskelandとMorten Gundersenが私たちの家を訪ねてきました。彼らは、私がこれからどの道を進むべきか、選択を迫られていると告げました。私には、自分が直面している葛藤を見抜くことのできる兄弟たちが必要でした。私は新しく生まれていましたが、理性が、御霊が示してくださっていることを認めることができずにいたのです。それでも、私は神様との素晴らしい体験をいくつか重ねており、聖霊様がこの面会のために私を備えてくださったのだと心の内で理解していました。私はその場で妻に、神様に反すると思う本をすべて彼女が選び出していいと言いました。彼女は、私がそのような本をたくさん持っていることを知っていました。その中には、私が当時10年間熱心に研究してきた、金縁の約2000ページに及ぶ大著『Urantiaboken』もありました。彼女は大きく目を見開いて私を見つめ、本当に本気なのかと尋ねました。私はそれを認めました。その後、教会の男性グループが集まり、私たちは本やその他の品物が入った段ボール箱を燃やしました。それは、神様に逆らう霊的な迷いと不浄な物事でした（使徒言行録 19:19）。自分の目をえぐり出すような感覚だったのを覚えています。後になって、あれは解放が行われたのだと分かりました。当時は理解していませんでしたが、これらの本を燃やすことで、神様は不浄な霊の束縛から私を解放し、死から命へと私を造り替えてくださったのです（コリントの信徒への手紙二 5:17）。私は2008年にイエス様を受け入れました。主は忠実であられ、私の内側や周囲に妨害する力があっても、私を主と共に歩む道に留めようと働いてくださいました。私たちの言葉には、命か死のどちらかが宿っています。中間の道はありません（箴言 18:21）。それは最後の審判が下される時と同じです。信仰において中途半端でいることはできないのです。

彼らはわたしたちから出て行きましたが、わたしたちの仲間ではありませんでした。もし仲間であったなら、わたしたちと一緒にとどまっていたはずです。しかし、そうなったのは、彼らが皆わたしたちの仲間ではないことが明らかにされるためでした。しかし、あなたがたは聖なる方から油を注がれているので、皆、真理を知っています。あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っており、また、すべての偽りは真理から出ないことを知っているから、わたしは書いているのです。偽り者とは、イエス

がメシアであることを否定する者でなくてだれでしょうか。御父と御子を拒む者、これこそアンチキリストです。御子を拒む者はだれも御父に結ばれておらず、御子を告白する者は御父にも結ばれています。初めから聞いていたことが、あなたがたの内に、いつまでもとどまるようにしなさい。初めから聞いていたことがあなたがたの内にとどまるなら、あなたがたも御子と御父との内にとどまることになります。これこそ、御子がわたしたちに約束された約束、永遠の命です。

— ヨハネの手紙一 2:19-25

私は、天の父のために働くのであれば、自分自身のものを神様のために捨て去らねばならず、それが必要なプロセスの一部であることを心の内で悟りました。それまでの私は、自覚のないままに神様とその業に逆らって語るサタンの伝道者でしたが、神様はその恵みによって、ご自身のための伝道者となるよう私を召してくださいました（エフェソの信徒への手紙 2:8-9）。そして、私とは何者でしょうか。私は本来、何者でもありません。確かに、良い教育を受けてはきましたが、私には弱さがあり、神様の声とその人への召命に従わなければ、外見的なものは本当に何の価値もありません。なぜ神様が私をお使いになるのかとしばしば考えましたが、すべては恵みによるのだと理解しています。

わたしの愛する人たち、.....恐れおののいて自分の救いを達成するように努めなさい。

— フィリピの信徒への手紙 2:12

信仰の愛する兄弟、兄弟 Thomas が、本が燃え尽きるように残り火をかき回しながら、私を見つめていたのを覚えています。彼は、これから先、私が神様と共に素晴らしいことを体験することになると言いました。その時は、彼が預言的に語っているとは知りませんでした。後になって、兄弟 Thomas が何度か預言の賜物を示しているのを目の当たりにしました。これは彼が自覚し、使い続けなければならない恵みの賜物です。

二人の長老のうちの一、Magnar Askeland は、私が神のために行っていることや、私が下した決断をいつも喜んでくれていました。この時期、兄弟の一人の家で行われていた、兄弟 Thomas、兄弟 Trond、そして数名の人たちによる男性グループが、内部の争いや個人的な未熟さによって解散するということが起こりました。祝福があまりにも強く、グループとして、汚れた霊の個人的な顕現が起こった際に対処できなかったのではないかと私は疑っています。しかも、それは自分自身をグループのリーダーの一人だと考えていた人物が起こったことでした。手短かに言えば、こういうことです。グル

ープの中の「聖徒」の一人が、その内に病の霊を持っていました。私たちは皆、男性グループでそれを目撃しましたし、これは Kristent Fellesskap の牧師の一人によっても確認されました。しかし、私自身も時として物事を混乱させてしまったことがあり、私たちは皆、時には自分自身を振り返り、身近な人々や自分自身さえも赦さなければなりません。私たちが聖徒の一人のために祈った時に起こったこと目撃者は何人もいました。ある日、彼のために強く祈った時、彼は吐き気を感じましたが、それをこらえたというところまで来ました。確かなことは言えませんが、この後、グループがそれに気づくほど目覚めていなかった間に、攻撃が逆転し始めたのだと私は思っています。その人物は、私たちが祈る時、まるでナイフを突き刺されるようだと語り、集会の日である金曜日には、男性集会の前に自分の内側に不安と抵抗を感じることをよくあると言いました。これは彼自身の言葉であり、私のもではありません。全員が直面していた課題を理解していたわけではなく、ある日、グループが霊において誤った立場をとり、出された偽りの告発のために、実質的にすべてが崩壊して最高潮に達しました。聖霊の導きによらずに、誰かが主導権を握ることが何度もありました。私が彼のために祈った時、その同じ人物のもとに天使が訪れ、彼に対する私の言葉を裏付け、痛みを和らげてくれたことさえありました。これがグループに共有されたかどうかは分かりませんが。夜に彼が私に電話をしてきた時、その聖徒自身も、このようなことが起こったことに衝撃を受けていました。起こったすべての良いことにもかかわらず、彼は（悪い面を）顕現させ、自分を抑えることができませんでした。矛盾しているように聞こえるかもしれませんが、人は汚れた霊を持ちながら、同時に新しく生まれていることもあり得るのだということを、私は今、経験から知っています。私はまた、教会の長老の一人、つまり「いつも私のことを喜んでくれていた」彼から、私や私の働きに対して抵抗があったこと、しかし彼自身は私に対して何の反感も持っていなかったという確証を得ました。その聖徒の一人が、当時多くのひどいことを言ったり行ったりしたと告白するまでに、10年近くかかりました。多くの御霊の賜物が、未熟さや不純さの中で語ったり行動したりすることによって台無しにされているのではないかと、私は強く疑っています。しかし、私もその中で無実ではなく、自分の責任を負うことを学ばなければなりません。兄弟 Øivind はある日私に、人格を築くことが重要だと言いましたが、それは素晴らしく正しい言葉でした。これを読んでいるあなたへ。聞くに早く、赦すことに早く、語るに遅くありなさい（ヤコブ 1:19）。目を覚ましていなさい。眠ってはいけません。攻撃は、あなたの最も近い人々からさえやってくるでしょう。教会に頼り、誰かがそこに蒔こうとしている破壊を止めるために、共に祈りましょう。それを公（明るい場所）に出しなさい。神は、何よりもまず心を守らなければならないと警告しておられます。教会もまた、群れをケアするために、何よりもまず自分たちの心を守ることを学ばなければならないのは明らかです。

わが子よ、私の言葉に耳を傾け、私の語ることに耳を向けよ。それをあなたの目から離さず、あなたの心のうちに保て。それらを見いだす者にとって、それは命となり、その全身を健やかにする。何よりも、あなたの心を守れ。命の泉はこれから湧き出るからである。偽りの言葉を口から去らせ、欺きの唇をあなたから遠ざけよ。あなたの目はまっすぐ前を見、あなたのまぶたはあなたの前を直視せよ。あなたの足の歩む道を平らかにせよ。そうすれば、あなたの道はすべて確かなものとなる。右にも左にも曲がってはならない。あなたの足を悪から遠ざけよ。

— 箴言 4:20-27

これと並行して、2008年から2012年にかけて、私は Amazon.com という書店を通じて、牧師や伝道者、その他のクリスチャンによって書かれた多くの電子書籍を購入しました。また、Youtube.com で多くの証しを見、そこで目にしたことについて深く考えました。必要に応じて本の一部を読み、それを聖書と照らし合わせて確認しました。聖徒たちの経験が聖書と一致しているかどうかを確かめたかったのです。それを、私はまるで黄金を掘り当てるとような作業だったと表現したいと思います。私は掘り進め、見つけたものが良いものかどうかをテストしたのです。

ラオデキアにある教会の御使いに書き送りなさい。『アメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方が、次のように言われる。私はあなたの行いを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。そのように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、私の口からあなたを吐き出そう。あなたは、「私は富んでいる。豊かになった。何一つ必要なものはない」と言っているが、自分が実は悲惨で、哀れで、貧しく、盲目で、裸であることを知らない。私はあなたに勧める。火で精錬された金を私から買いなさい。そうすれば、あなたは富む者となる。また、白い衣を買いなさい。そうすれば、あなたはそれを身に着けて、裸の恥をさらさずに済む。また、目に塗る目薬を買いなさい。そうすれば、見えるようになる。私は愛する者をすべて、叱ったり懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。見よ、私は戸の外に立ってたたいている。だれでも、私の声を聞いて戸を開けるなら、私は彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼も私とともに食事をする。勝利を得る者を、私は自分とともに私の座に座らせよう。それは、私が勝利を得て、私の父とともに父の御座に座ったのと同じである。』

— ヨハネの黙示録 3章

イエス様が「勝利を得る者を」と言われ、ご自身の座に共に座らせてくださるといふ御言葉に注目してください。

私たちは2008年から2012年にかけての霊的な幼少期のただ中にいました。聖書を読み、試してみる中で、どれほど深く掘り下げても、聖書の弱点を見つけることはできませんでした。たとえ疑問に思ったり、読んでいる内容が必ずしも理解できなかつたりした時でさえもです。聖霊様が直接教えてくださることもあれば、数年経ってからようやく答えをいただくこともありました。聖霊様は私たち一人ひとりに、ある人には一部を、別の人には別の部分を、ある人には夢を、ある人には幻を与えてくださいますが、私たちは一つの教会として召されているのです。私の内で起こっていたのは、神様において私たちがいかに素晴らしい贈り物を受け取ったかという啓示でした。またこの時期、私は地獄を経験した人々の多くの証しを読んだり見たりし、それは私をひどく震え上がらせました。聖徒たちの証しを聖書と照らし合わせ、自分自身のしるしや不思議の体験と結びつけるにつれ、私は次第に、天国と地獄が本当に存在するのだということを理解するようになりました。イエス様ご自身も、悪魔とその使いのために用意された永遠の火（マタイ 25:41）、泣き叫び、歯ぎしりする火の炉（マタイ 13:42）、うじも死なず、火も消えることのない地獄（マルコ 9:48）、そして炎の中で苦しむ金持ち（ルカ 16:24）について、繰り返し警告されました。これを示す聖句は数多くあります。地獄を見せられたり、そこへ行った経験を持つ人々は、それを強烈に、身を切り裂くような苦痛として描写します。地獄が存在することは疑いようのない事実であり、あらゆる面で天国とは全く異なり、善とは正反対の場所です。神が人間を地獄へ送るから神は残酷だと主張する人々は、自分たち自身の心が石のように硬く、自らの悪から立ち返ろうとしないことを理解していません。魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい（マタイ 10:28）。自らが選んだ場所以外に、どこへ行くというのでしょうか。これは厳しい言葉ですが、死に至るまで自分の命を愛する者たちに対する残酷なまでの真実です。私たちは孤立して生きているのではなく、必要としている周囲の人々と自分にあるものを分かち合うよう召されているのです。

これと並行して、バスの中や他の場所で、聖霊様から言葉をいただくようになりました。それは人々のための言葉であり、神について伝えるための助けや励ましの言葉、あるいはその状況に即した直接的な言葉でした。一度、バスに乗っていたときに、隣に座っている男性に向けられた三、四語の言葉を耳にしたことを覚えています。私は彼に向き直ってその言葉を伝えると、彼は驚いていました。それらの言葉が神の証しとして彼の心に残り続けていることを願っています。また、他の人々が身体的な問題を抱えているのを霊の中で察知し、祈ってもよいか尋ねることもありました。それは彼らがバスの中で静かに座っている時に起こり、目に見える形では何の問題もなさそうな時でもそうでした。これは「御霊の賜物」ですが、パウロがまさにそうす

るように勧めているにもかかわらず、信仰の兄弟姉妹たちが追い求めるのをやめてしまっているように見受けられます。

愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。異言で語る者は、人に語るのではなく、神に語るのです。霊によって奥義を語るのですが、だれも理解できないからです。

— コリント人への手紙 第一 14:1-3

それは根本的に挑戦的な時期でしたが、同時に素晴らしく特別な時でもありました。後になって認めざるを得ないのは、これが真実を知りたいという私の渴望から始まっていたということです。私はたたき、門は開かれました。私は探し、見出したのです（マタイ 7:7）。何よりも重要なのは、自分がふさわしくない者であったにもかかわらず、イエス様を主、そして師として受け入れることを選んだとき、私は新しく生まれたということです。

さて、パリサイ人の中にニコデモという名の人があった。ユダヤ人の指導者であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなされるようなしるしは、だれも行ふことができません。」

— ヨハネの福音書 3章

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。だれでも新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

ニコデモは言った。「人は、老いていてどのようにして生まれることができるのですか。もう一度母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。だれでも、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。『あなたがたは新しく生まれなければならない』と私が言ったことを、不思議に思っはなりません。風は思いのままに吹き、その音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くのかを知らない。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことがあり得るのですか。」

イエスは答えられた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのですか。まことに、まことに、あなたに言います。私たちは知っていることを話し、見たことを証ししているのに、あなたがたは私たちの証しを受け入れません。あなたがたは、私が地上のことを話しても信じないなら、天上のことを話して、どうして信じるでしょうか。天から下ってきた者、すなわち人の子のほか、天に上った者はだれもいません。モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者はすでに裁かれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。その裁きというのは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。悪を行う者はみな光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ない。しかし、真理を行う者は、その行いが神にあってなされたことが明らかになるように、光の方に来る。」

その後、私の霊は成長していきました。それはパウロが語っているように、ゆっくりと乳を飲む段階から硬い食物を食べる段階へと移っていくようなものでした（コリント第一 3:2）。2011年から2013年にかけて、私はバスの中や行く先々で人々に福音を伝え始めました。2013年の中頃、肉に歩み、私に対して不当な扱いをした有名な伝道者に会いました。おそらく、私が福音伝道に非常に熱心で、人々のために祈り、多くの癒やしを目の当たりにしていたからでしょう。はっきり言っておきますが、私はこの伝道者をとても愛しています。当時、私は Hamar への伝道旅行から戻ったばかりで、そこで祈った時に起こった奇跡を目の当たりにしていました。それが一種の嫉妬を呼び起こしたのかもしれませんが。いずれにせよ、自分の働きの模範だと思っていた人物から拒絶され、私は打ちのめされました。私がこれらすべてを記すのは、神様と共に歩む私の道のりと、実際に神と共に歩む時に起こり得る様々な試練について、少しでも知っていただくためです。

当時、私は Haralds plass Diakonale Sykehus（ハラルズプラス執事病院）内にある Norsk Organisasjon for Kvalitetssikring av Laboratorier utenfor Sykehus (NOKLUS) で働いていました。職場でも、無神論者や不信者に対して神の力が働くのを目の当たりにしました。ある時、食堂の従業員のために祈った際、彼女が立っていられなくなったことを覚えています。それはまるで激しい電気ショックを受けたかのようで、目にするののも不思議な光景でした。また、NOKLUS の20周年記念旅行でアイスランドへ行った際、Gardermoen（ガーデモエン空港）でアイスランドのサッカー代表チームに手を置いて祈りました。私は同僚二人と一緒に座っていましたが、彼女たち

に奇跡を見せたいと思い、女子代表チームの選手たちに、足などに痛みや問題はなにか尋ねました。当然、彼女たちは問題を抱えていました。そして私が手を置くと、彼女たちはその反応に驚き、パニックに近い状態になりました。それは喜ばしいことでしたが、ベルゲンに戻って間もなく、私は上司のオフィスに呼び出されました。私は身に覚えのない非難を受けました—女好きだと言われ、決して言っていない言葉を口にしたと告げられたのです。私の直属の上司にそのようなことを伝えた人物は、正気ではなかったに違いありません。同僚のほとんどが無神論者であったことを考えれば、それは驚くべきことではありませんでした。彼らは非常に知的で、高学歴の人々でしたが、神への信仰に関しては、一部の人は懐疑的でした。一方で、私が信仰を分かち合い、オープンに話すことを受け入れてくれる素晴らしい人々もいました。

信仰の兄弟である一人の伝道者が、私が出会う人すべてに福音を伝え、目撃したすべての奇跡について批判したとき、私は深く傷つきました。翌日、仕事に行ってもまともに機能できないほど落ち込んでいた私は、「もしこれが私の進むべき道でないのなら、この重荷を取り除いてください」と神に言いました。その後、職場のトイレに行き、神を賛美していると、突然、油が体の上から流れ落ちてくるような感覚を覚え、その後、完全に解放されました。内側から喜びが湧き上がってくるようでした。言葉では言い表せない経験でした。数日後、その兄弟が再び私のところに来ましたが、彼はなすべき謙遜な態度は見せなかったものの、自分の言葉を後悔していることは分かりました。しかし、彼は完全には悔い改めず、その日以来、彼から連絡もなく、会うこともありません。私は彼を許したのでしょうか。はい、許しました（コロサイ 3:13）。私たちは皆間違いを犯し、時として肉に歩んでしまうことがあります。神が私たちすべてを憐れんでくださいますように。

結局のところ、神は私の「霊的な幼少期」（ヨハネ第一 1:9）において、私の罪を清めてくださいました。そして最後には、神の前にひれ伏し、神の言葉が善であり正しいことを認めるほかありませんでした。神が真実であり、すべてを超越したお方であることを全身全霊で理解した今、もはや思考で父なる神を拒絶することはできなくなったのです。

新しく霊的に生まれた者としての決定的な歳月は、私にとって2008年から2012年の期間でした。この普通ではない変貌を目撃したのは、Haralds plass Diakonale Sykehus の NOKLUS での同僚たち、そして私が通っていた教会 Kristent Fellesskap Nordhordland の兄弟姉妹たちでした。NOKLUS には、公然と信仰を告白しているキリスト教徒はいませんでした。雇用期間の初め、私は多くの同僚に、イエスを神の子として認めないような霊的な考えをオープンに話していました。しかし、在職中に起こったのは、私が死から命へと移されたこと、そして神が私をプロセスの中に入れ、以前学んだことを捨て去るように導き始められたことでした。2011年から2013年

にかけて、私はイエス様が私にしてくださったことをますます分かち合うようになったため、同僚たちにとっては奇妙な混ざり合いに見えたことでしょう。しかし、人生の転換期とは往々にしてそのようなものです。NOKLUSでは、同僚の一人の腰が完全に癒やされるのも経験しました。彼女は横になることも立っていることも困難なほどの大きな問題を抱えていましたが、ある日、彼女が病欠の合間に出勤していた際、私は彼女の部屋のドアを叩き、祈ってもよいか尋ねました。翌年の夏、彼女の腰の問題は完全に消え去っており、彼女自身も驚いていました。その変化は劇的であり、新しく生まれた時に私たちが本来あるべき姿への目覚めの一部でした（マルコ 16:17-18）。祈りはシンプルなものでしたが、手を置いて、ただ神に彼女を癒やして下さるようお願いしました。彼女はいつも、私がかち合うことを熱心に聞いてくれ、接するのにとても素晴らしい方でした。

また、食堂で、私が手を置くと床に倒れそうになり、一瞬意識を失った（ブラックアウト）ようになった人もいました。私が祈った他の人々にも同じようなことが起こりましたし、後に私の妻となる女性のために最初に祈った時もそうでした。私たちはイエスの内におり、イエスは神の内におられます。それは神が私たちの内におられることを意味します（ヨハネ 14:20）。神の力は、罪を清め、癒やし、解放して下さいます（ヨハネ第一 1:7、ヤコブ 5:14-15）。私たちが人々に手を置くと、それが起こるのです。神が私になさったことが彼女にも起こりました。神は彼女の中を整理し、神のための働きの備えを始められたのです。

神が私の人生においていかに重要であるかを理解し始めたこの時期、私の義父もそこにいました。彼は無神論者であり、それまでの数年間、経済的な助けはほとんど、あるいは全くありませんでした。それは学生時代も、その後も同様でしたが、子供たちの誕生日には少しの関心を向けてくれました。私と弟は、基本的には彼にとって負担だったのだと理解しています。外側からは良く見えていたかもしれませんが、彼は私の神への探求を拒絶し、私がイエスを受け入れたことで事態はさらに悪化しました。彼は私に対し、自分の前で神の話をするなどはっきり言いました。また、義父の兄弟からも、もし信仰について話すなら、もはやお前の叔父ではないと明確に告げられました。

# Chapter 22

## 年 神の御座

2012年5月になり、私は神の臨在をあまりにも多く見て体験してきたので、もはや主を否定することはできなくなっていました。それまでの数年間、私はポルノを見るという習慣がありました。神様はこのことを私の心に重い重荷として置かれ、その年、私がそれとの関係を断ち切れるように助けてくださいました(ヘブル人への手紙 12:1)。

私は地下室で父なる神の前にひざまずき、御国のために働くことへのあらゆる抵抗を捨てたことを覚えています(ローマ人への手紙 12:1)。私は父なる神に、主が必要とされる場所ならどこへでも行く準備ができていると伝えました。その時、神様は私に一つの幻を見せてくださいました。数百メートル先にある、かつて Eldbjørg Fosse が住んでいた隣の家が見えました。その上の庭には彼女の義理の姉が住んでいました。その時、神様が私を70歳を超える二人の信仰深い女性のもとへ送ろうとしておられること、そして彼女たちがその後の私の歩みにおいてどれほど重要な存在になるか、私は知るよしもありませんでした。神の導きに従うことで、Eldbjørg は膝の裏と足の裏が癒やされ、後に背筋も伸びるようになりました。彼女はそのことを大変喜んでいました(イザヤ書 61:1)。彼女は信仰の親しい友人となり、私の神への奉仕における大切な励まし手となりました。義理の姉の夫はその当時アルツハイマー病を患っていました。私が彼を訪ねて祈った後、間もなくして、彼は家庭礼拝に参加したいと言い出しました。それは彼が健康だった時でさえ一度もなかったことでした。私が彼を訪問する前に、彼の妻にこう言いました。「私が彼に会い、祈る時、神の霊が彼の内側に語りかけてくださると信じています」。聖徒たちは、涙と共に種をまく時であっても、希望を持って歩むように召されています。最終的な刈り入れは喜びの日となるのです(詩篇 126:5-6)。

Eldbjørg を訪ねるたびに、彼女は熱心に私を見つめ、神のために何をしたらか、何を体験したかを尋ねてきました。私の体験や神様がなさったことを話すと、彼女は喜び、驚いてくれました。残念なことに、彼女は数年前に転倒して頭を負傷し、記憶障害に苦しんでいます。神との親密さは今も保っており、先日電話で彼女のために祈った時も、とても喜んでくれました。

天国とは異なる、苦しみのある墮落した世界に私たちは生きていますが、神は本当に慈しみ深いお方です。しかし、私たちは地上における神の働きと福音に対する「やりたくない」という思いを捨てなければなりません。働

き手が必要なのです。ですから、神がより多くの働き手を送ってくださるよう (マタイの福音書 9:37-38)、そして主の民が彼らを支え、生活に困らないように祈りましょう。正直に言って、助けを必要としているのは貧しい人々だけではありません。助ける余裕のある人もまた、この働きのために捧げることを学び、惜しんではならないのです (ルカの福音書 6:38、マラキ書 3:10)。私の個人的な経験では、残念ながら多くのノルウェーの信者は、アメリカの兄弟姉妹に比べて捧げる額がはるかに少ないという特徴があります。

2012年5月に神の働きへの抵抗を捨ててからわずか数日後、私はクリスチャンの女性グループ «Kvinneforum Nordhordland» とそのハウスフェローシップに出会いました。メンバーの一人である Laila Nygård は、Kristent Fellesskap Nordhordland にも通っており、そこで私を知っていました。私が入っていくと、彼女たちはコーヒーを飲み、編み物をし、共に祈り、神を求めていました。私はウェブサイト作成を手伝うためにそこへ行ったつもりでしたが、手短に言えば、彼女たちは私のために祈ってもよいかと尋ねてきました。その後、彼女たちが語った言葉は、神からの明確な預言的な言葉であり、これから数年間の進むべき道を照らすものでした (コリント人への手紙 第一 14:3)。その時はすぐには理解できませんでしたが、集まりを後にする時、神の霊が非常に強く私の上に留まっているのを感じました。霊において、私はある種の畏敬の念に打たれ、深い厳粛な気持ちに包まれました。神様が私を主の奉仕へと送り出そうとされていることは分かりましたが、経済的にどうやってやりくりしていくのか、どうしても理解できませんでした。「これでシステム開発者としてのキャリアは終わりだ」とも思いましたが、今振り返れば、それらはすべて幼い考えでした。それは 07.05.2012 のことで、彼女たちが書いたメモを見ると、神からの言葉は次のように要約できます。

- ・ あなたは、この時代に使命を果たし、人々に届くために、主からの油注ぎを受けます。
- ・ 神はあなたに道具 (ツール) を与えられます。おそらく、あなたは他の誰も成し遂げなかったことを行うことになるでしょう。一人は、枝が編み合わされたアフリカの木々の幻を見ました。
- ・ 神があなたに託された働きを喜びなさい。
- ・ 主と共に過ごしなさい。主の言葉はあなたの手の筋肉 (力) となるでしょう。
- ・ あなたは備えられた業の中を歩み、あなたの前に扉が開かれます。主の言葉は私の道の光となります。詩篇 119:105。
- ・ 困難に直面した時、主はあなたと共に歩まれます。

- ・ あなたが従順であるゆえに、これから大きな喜びを体験するでしょう!

体験したことすべてを書き記すにはあまりに長くなりますが、ここ数年、神様が私をどのように導いてくださったか、特にいくつかの重要な出来事について、精一杯分かち合いたいと思います。

## Chapter 23

### 年 祝福と裏切り

2012年に、非常に特別なことが起こりました。私は Nordhordland Kristne Folkehøgskole の寮の一室で、7、8人の若者たちに福音を伝える機会を得たのです。私が語り、祈っている間に起こった奇跡や癒やしに、彼らは圧倒されていました（ルカの福音書 10:19）。彼らはまた、ある少年が、夜になると心に不安を感じると私に打ち明けるのを目撃しました。それが単なる肉体的な問題であるとは到底思えなかったので、私は彼に「これを感じなさい！」と言いました。そして彼を指差し、その問題を彼から追い出しました。すると彼は、それが自分の体から出て行くのを感じたと言いました。その小さな部屋のベッドに座っていた一人の少女が、目の前で起きている現実を必死に受け入れようとしていたのを覚えています。彼女はただ、言葉を失っていました。

私は彼らに、自分にはイエス様がおられ、新しく生まれた（ヨハネの福音書 3:3）こと、そしてもし彼らもそれを望むなら、プールで洗礼を授けることができると話しました。しかし同時に、かつてある伝道者が私に言ったのと同じことを彼らに伝えました。「もしイエス様を受け入れたいなら、私の後に続いて祈ってください」と。彼らがそうすると、部屋の中が手に取るようにわかるほどの重み（主の臨在）で満たされるのを感じました。人々がイエス様を救い主、また主として受け入れる時（ローマ人への手紙 10:9-10）、それは常にそうであるように、全く素晴らしい経験でした。しかし、夜警がやって来て、学校の敷地内で若者たちに福音を伝えてはいけないと言ったため、洗礼が行われることはありませんでした。実際、私は敷地内から追い出されてしまったのですが、これは若者たちに対する裏切りのように感じられました。その理由は、学校側が経済的な助成金を得るために、サマースクールに来る若者たちに対して伝道活動を行わないという契約を結んでいたからだと言われました（マタイの福音書 6:24）。その日の学校の責任ある守衛はイエス様を脇に追いやりましたが、神様は、若者たちが一人の告白する信者によるしるしと不思議の直接の証人となったことを通して、このことさえも益に変えてくださいました。ノルウェーの沖合の海は、確かに石油という形での「黒い黄金」をもたらしてくれますが、今の私は、50年前に石油の物語が始まる前よりも、人々が霊的に貧しくなっているのを感じています（マタイの福音書 16:26）。

この年に目撃した奇跡の一つは、IKEA で起こりました。私の次女がちょうどトイレに行っていた時、私たちは二人の若い女性に出会いました。私は

、以前祈ったある人物のビデオを見せました。そのビデオでは、彼女の足が伸びるのがはっきりと見えます。極端な変化ではありませんが、確かに伸びているのです。これは秘密のことではなく、多くの信者が、私がここで話しているようなことを経験しています。ともかく、その女性の一人が、自分の両方の足の長さが同じになるように祈ってほしいと言いました。脚（あし）全体ではなく、足のサイズ（足の長さ）のことです。私が彼女の足に手を置き、イエス様のお名前によって命じると、二、三回祈った後、両方の足は同じ長さになりました。これを個人的に体験することも、祈ってもらった人の反応を見ることも、大きな喜びです。聖書には、信じる者にはしるしと不思議が伴うと記されているので（マルコの福音書 16:17）、私たちはこれを期待することができるのです。その後、彼女が私に頼んだことは、私にとっても少し珍しいことでしたが、おそらく人生で初めての奇跡を体験した直後であったことを考えれば、それほど驚くべきことではなかったかもしれません。彼女は、両方の足のサイズが今よりも短くなるように祈ってほしいと言ったのです。私は少し躊躇しました。通常、このような種類の癒やしを祈ることはないからです。しかし、神様との内なる対話の後、これは彼女の信仰に関わることだと判断し、引き受けることにしました。しかし、祈り始める前に、私は彼女の友人に、彼女の足の上に手を置くように頼みました。その上から私がさらに手を重ねて祈り始めました。すると、彼女の足が収縮し、短くなっていくのを私たち二人は感じたのです。興味のある方のために、当時 [Youtube.com](https://www.youtube.com) にその動画を投稿しました。終わった時には、両方の足は2センチ縮んでおり、彼女自身もそれを認めました。この奇跡は2012年に起こったことの一つで、今でもよく覚えています。このように神様の力を目の当たりにすることは、常に特別なことです（ヘブル人への手紙 2:4）。この回顧録の中で、今までそれほど多くは語ってきませんでした。

## Chapter 24

### 年 1980年からの傷跡

2012年、私はクリスチャンの男性グループに参加し、毎週共に祈り、神を求めていました。ある集まりで、二人の兄弟、兄弟 Thomas と兄弟 Trond が、それぞれ神から私に向けた示し（ヴィジョン）を受け取ったと話してくれました。

一人は通学カバンを背負った私を見ており、もう一人は私が二段ベッド、つまり上下に重なったベッドを使っているのを見ていました。そして彼らは、当時の出来事によって私の内側にできた「*«穴»*」のようなものを塞ぐ必要があると言いました。彼らの言う通りでした。それは両親が離婚した後の時期のことです。その数年間、私は精神的に大きな傷を負いました。父は酒に溺れ、ある時は私を車に残したままバーへ入っていったこともありました。こうした出来事は子供の心に傷跡を残し、私はその時負った内面的なダメージを、長年抱え続けることになりました。私は、それが私たちの家に二段ベッドがあった唯一の時期であり、弟と同じ部屋を共有していたことを認めました。一人は、私が二段ベッドの下段で寝ていたと言いましたが、それも事実でした。弟が上段で寝ていたのです。それから彼らは、私の内なる穴を塞ぐと言い（使徒の働き 8:17）、私の上に手を置いて祈った時、私はすぐにヒートポンプのようなブーンという音に気づきました。私は心の中で思いました。「誰かヒートポンプを取り付けたのか?!」それは奇妙な感覚でした。しかし、彼らが手を離すと、その音は消えました。そして、私の内に新しい平安が与えられたように感じました（マルコ 16:18）。

— 2012年、二人の聖徒が私のために祈る

神が私たちの痛みを見ていてくださることに感謝します（詩篇 56:9）。聖徒たちとの交わり、神の御言葉を読み、主の臨在の中で賛美を捧げることなしには、乳を飲む段階から堅い食物を摂る段階へと進むことはできません（ヘブル 5:12-14）。パウロは、困難が訪れた時に容易に揺るがされないよう、キリストにあって成長し、神にあって成熟することの重要性を強調しています。私たちは種まきのたとえ（マタイ 13:18-23）を思い出します。そこ

では、ある人々はすぐに喜びをもって神の御言葉を受け入れますが、試練の時を耐え抜くための根が張っていないのです。

## Chapter 25

### Reinhard Bonnke (2012)

2012年の終わりに、私は聖霊様から、よりによってフロリダの伝道学校へ行くようにと言われたのを感じました。妻は、私たちが自分たちの蓄えからその費用を支払うことを望みませんでした。そこで私は Eldbjørg と義理の姉に、フロリダの Christ For All Nations への旅を助けてくれる可能性や意思があるかどうかを尋ねました。

CFAN は当時、アフリカで大規模な伝道集会を主導し、数千万人がイエスを受け入れたと記録されている（ローマ人への手紙 10:9-10）、有名なドイツ人伝道者 Reinhard Bonnke によって率いられていました。その年の初めに神様が私に隣人の幻を見せてくださったとき、神様は彼らが助けてくれること、そして妻がそれに反対することを明らかに知っておられました。以前にアメリカへ行ったことは一度もなく、自分でも特に興味はないと思っていましたが、神様に対して「ノー」と言うことは、私には耐え難いことでした。Gerd は、イエス様が来られて「その贈り物はわたし（イエス）のためである」と言われる夢を見ました。それは私を大いに喜ばせ、彼女たちに頼んで良かったのだという平安を与えてくれました。その時、私は神様が私の働きのために計画を立てておられること（エレミヤ書 29:11）、そして私が天の父とその働きに対する最後の抵抗を捨てた直後のこの年からすべてが始まるということ、まだほとんど知りませんでした。

天の父は、私が2008年にイエス様に「イエス」と言い、2012年に主への抵抗を捨てることをご存知だったに違いありません。神様が私を導いてくださったこと、そして過去と未来の両方について預言的に語られたことを見る時、私たちの造り主がどれほど素晴らしく、同時に忍耐強いお方であるかを理解します。神様が私にどのような働きを任せようとしているのか、薄々感じてはいましたが、今では自分が伝道者であることを確信しています。私の奉仕は、キリストの体を建て上げ、福音を分かち合うことです（ルカの福音書 4:18）。

こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師や教師としてお立てになったのです。それは、聖徒たちを奉仕の仕事に整え、キリストの体を建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、神の御子に対する信仰と知識の一致に達し、全き人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するためです。こうして、私たちはもはや子どもで

はなく、人の悪巧みや、人を欺くための狡猾な策略によって、教えのあらゆる風に振り回されたり、あちこち漂わされたりすることがなくなります。むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、頭であるキリストに向かって成長するのはです。キリストによって、体全体は、あらゆる結び目によって供給を受け、各部分はその分に応じて働くとともに、組み合わせられ、結び合わされ、愛のうちに建てられて成長していくのです。

— エペソ人への手紙 4:11-16

残念ながら、妻が神様のための私の働きに反対していたのは事実であり、それが時として奉仕を非常に困難なものにしました。私たちが70歳を超える姉妹たちから経済的な支援を受けたとき、妻は自分たちの金を使うことを拒んでいたにもかかわらず、彼女たちに頼んだ私を強く非難しました。

今日のノルウェーには、一部の女性が自らを家族のリーダーと見なすという悪しき風潮があります。イエス・キリストへの信仰を告白しながら、行いにおいてそれに反する働きをすることは、自分自身を台無しにすることです。クリスチャンが、夫の願いに反して子供の教育を正当化するためにさまざまな無神論的な本を用いるとき、それは神の知恵だけでなく、愛する者をも拒絶していることになります。これは結婚の契約に対する背信行為です。私たちは今日の社会において、「女性解放運動」を通じて、このような底流を目にします。皮肉なことに、その運動自体が家庭という結婚関係において支配的な男性のようになってしまいました。両方の極端さは間違っています。私たちは妻を愛し、敬うように召されていますが、同時にまず神の国を求めなければなりません。

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。労苦はその日その日に十分あります。

— マタイの福音書 6:33-34

今日の福祉社会におけるもう一つの傾向は、一部の女性が育児書などのあらゆる本を読み漁り、夫に対してどうあるべきか、どう振る舞うべきかと圧倒してしまうことです。まず神を求めることをしなければ決して満足することはありません。夫を自己啓発コースなどに通わせようとしませんが、根本的な問題は神を第一に求めていることにあります。これは一部のノルウェー人女性に見られる共通の特徴であり、神が私たちに与えられた本来の姿ではありません。結婚とは、互いに異なっているけれども愛し合おうと努める契約です

。相手をできるだけ自分と同じような人間に変えようとするのではないのです。

フロリダでの伝道学校 (Evangeliseringsskolen) の午後の講義が終わると、私たちはよく街に出て、人々のために祈りました。それは形式張らない、組織化されていない活動でしたが、通常は2人から4人の小グループで行われました。特に覚えているのは、ある売春婦に出会った時のことです。彼女は刑務所に入っていたことがあり、足には追跡チップが付けられ、さらに手術で取り除かれていない弾丸の破片が足に残っていました。少し現実離れした光景でしたが、私たちが彼女に福音を伝えると、彼女は自分の夫が、彼女が神に出会えるようにと熱心に祈っていたことを話してくれました。私たちが彼女のために祈り、私が彼女の足に手を置いた (マルコによる福音書 16:18) その瞬間、彼女は破片が足から出ていったような感覚があったと言いました。実際にそれが起こったのかは分かりませんが、私はアメリカで多くの喜ばしい経験をしました。そこでは、他の西洋諸国よりも人々が代祷に対してはるかに心を開いており、神を求めていると感じます。なぜそうなのかは分かりませんが、若者たちは例外です。ノルウェーでも若者たちに福音を伝え、祈ることは比較的容易であり、グループで彼らに会う時、一人の身に起こった癒やしや証しを、その場にいる全員が目当たりになることとなります。

Reinhard Bonnkeによるフロリダの伝道学校に参加できたことは素晴らしい機会でした。今でも覚えているのは、そこで聖霊が私に示してくださった事柄であり、何年も経った今でも感謝しています。私たちは素晴らしい癒やしが起こるのを目の当たりにし、私たちを奮い立たせ、鼓舞する証しを聞きました。手短かに言えば、この一週間は私の神と共に歩む道において、極めて重要な役割を果たしました。

私は気づいていませんでしたが、神は翌年、伝道学校にいた数名の方々を用いて、2013年から2014年にかけて私を Colorado Springs へ送り出すための確信を与え、助けてくださいました。神には計画があり、後になって、なぜ主がこのような方法をとられたのかを理解しました。

この時期、私の周りの一部の聖徒たち (De Hellige) の間で争いの影が見え始め、私の陰口が叩かれるようになりました。私は生粋の伝道者であり、至る所で人々と話をします。正直に言えば、私はかなりハイパーアクティブ (多動的) になることがあり、内側で神への情熱が火のように燃えるのを感じることがあります (エレミヤ書 20:9)。

特にある時、Oslo Sentralstasjon (オスロ中央駅) へ行き、人々に福音を伝えて祈り、神の力が数名の人々に流れるのを目の当たりにした時のことを覚えています。しかし奇妙なことに、Knarvik に戻った後、私はこれに対して後ろめたい気持ちを抱いていました。そんな時、男性グループの兄弟が

、Oslo Sentralstasjon で天使たちに囲まれている私の姿を神が示してくださったと言ってくれました。そのヴィジョンは、当時一部の聖徒たちから受けていた心苦しい反対の棘を、本当に取り除いてくれました。

もし私が神の力を持って歩み、神のために働いている時に目撃した事柄のゆえに批判を受けるならば、それは、誰かが自分の心を守ることができず、私たちが聖霊から異なる賜物を与えられていることを認めていないことを意味します（コリントの信徒への手紙一 12:4-7）。私自身も、周りの兄弟姉妹が自分にはない賜物を持っていることを喜ぶことができなければなりません。与えるのは聖霊であり、私たちではありません。しかし、私たちは授かったもので神を崇めるべきであり、それを権力や金のために悪用してはなりません。信仰の仲間に対する嫉妬や怒りは、私たちの心の周りに脂肪層のように蓄積し、私たち自身と神の教会を鈍感にさせてしまいます。

眠り込んでしまい、霊において目覚めていないことについて（テサロニケの信徒への手紙一 5:6）。神のために働くべく選ばれた聖徒たちに与えられるはずの祝福を、神の民自身が食い尽くしてしまうのを見るのは、時に試練でした。

悪しき者の道に足を踏み入れるな。邪悪な者の道を歩むな。それを避けよ、そこを通るな。そこから離れて通り過ぎよ。彼らは悪事を行わない限り眠ることができず、誰かを躓かせない限り、眠りにつくことができない。彼らは不義のパンを食べ、暴力の酒を飲む。正しい者の道は曙の光のようであり、いよいよ輝きを増して真昼となる。悪しき者の道は暗闇のようであり、何に躓くかも彼らは知らない。わが子よ、私の言葉に心を留めよ。私の語ることに耳を傾けよ。それを見失うことなく、あなたの心のうちに守れ。それを見出す者にとって、それは命となり、その全身を健やかにする。何を守るよりも、あなたの心を守れ。命の泉はこれから湧き出るからである。欺きの口をあなたから遠ざけ、曲がった唇をあなたから遠ざけよ。

— 箴言 4:18-24

そして、これは私たちの創造主であり、神の御子であり、父から私たち人類へと遣わされたイエス・キリストによって与えられたものです。ヨハネによる福音書にはこう書かれています。

初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の

中で輝いている。暗闇は光を克服しなかった。神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをし、彼によってすべての人が信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。まことの光があり、すべての人を照らしながら、世に来ようとしていた。言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言を受け入れた者、その名を信じる人々には、神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の意欲によってでもなく、神によって生まれたのである。言は肉となって、私たちの間に宿った。私たちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

— ヨハネによる福音書 1:1-14

イエスは私たちの創造主です。燃える柴の前に立つモーセについて読むとき、そこに現れたのは実に神の使いであり、同時に彼に姿を現した Yahweh でもあります。「使い（天使）」とは神から遣わされた者を意味し、イエスが遣わされた者であったのと全く同じです。イエスは、彼を見た者は神を見たのだと言われました。ヘブライ語聖書において、モーセに語りかけているのは Yahweh であることが分かります。また、エデンの園でアダムとエバと共に歩まれたのも Yahweh です。

主の使いが、柴の間に燃え上がる炎の中に彼に現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているが、柴は燃え尽きない。モーセは言った。「道を逸れて、この不思議な光景を見届けよう。なぜ柴は燃え尽きないのだろうか。」主は、彼がそれを見届けようと近づいて来るのをご覧になった。神は柴の間から彼を呼び、「モーセ、モーセ」と言われた。彼は「はい、ここにおります」と答えた。

— Yahweh からモーセへ - 出エジプト記 3:2-4

**Yahweh とは誰でしょうか？** それはイエスです。エマオへと向かう弟子たちに対してその姿を隠されたのと同じように、エデンの園で地上を歩まれ、その後も何度か現れたのはイエスであり、父なる神ではありませんでした。なぜなら、私たちは肉体の目で父を見て、生き延びることはできないからです（出エジプト記 33:20）。イエスがたとえ話で語られたのは、ご自身の民が聞き、理解するためであり、その言葉が意図されていない者たちのためではありませんでした。

弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえを用いてお話しになるのですか。」イエスはお答えになった。「あなたがたには天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。だから、彼らにはたとえを用いて話すのだ。彼らは見ていながら見ず、聞いていながら聞かず、理解もしないからである。こうして、イザヤの預言が彼らにおいて実現した。『あなたがたは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じている。彼らが目で見、耳で聞き、心で理解して、立ち返り、私が彼らを癒やすことがないためである。』しかし、あなたがたの目は見ているから幸いであり、耳は聞いているから幸いである。はっきり言うておく。多くの預言者や正しい人たちが、あなたがたが見ているものを見たいと切に願ったが見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたいと切に願ったが聞くことができなかったのである。」

— マタイによる福音書 13:10-17

しかし、イエスは旧約聖書と預言書の中で、ご自身について何と言っておられるでしょうか？ ご自身の復活の後、もし私たちが聖書に対して心を開いているならば、旧約聖書の中で預言者たちが語ったことを信じるのに愚かで鈍い者ではないということ、主は確証しておられます。

同じ日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、起こったすべてのことについて話し合っていた。話し合い、論じ合っていると、イエスご自身が近づいて来て、彼らと共に歩み始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。イエスは言われた。「歩きながら、互いに論じ合っているその話は何のことですか。」二人は暗い顔をして立ち止まった。その一人、クレオパという名の者が答えた。

— ルカによる福音書 24:12-32

「エルサレムに滞在していながら、近ごろそこで起こったことを知らないのは、あなた一人だけですか。」

「どんなことですか」とイエスは言われた。

「ナザレのイエスのことです」と二人は言った。

「この方は、神と民全体の前で、言葉にも行いにも力ある預言者でした。ところが、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑の判決に引き渡し、十字架につけてしまったのです。私たちは、この方こそイスラエルを解放してくださる方だと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、今日で既に三日目になります。さらに、仲間の数人の女たちが私たちを驚かせました。彼女たちは朝早く墓へ行きましたが、その遺体が見当たらないので、戻って来て、『天使たちが現れて、あの方は生きていたと言った』という幻を見たと言うのです。そこで、仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、女たちが言ったとおりで、その方は見えませんでした。」

そこで、イエスは言われた。「ああ、愚かな者たち、預言者たちの語ったすべてを信じるのに、心の鈍い者たち。メシアはこれらの苦しみを受けて、その栄光に入るはずではなかったのか。」

そして、モーセから始めて、すべての預言者にわたり、聖書全体に自分について書かれていることを説明された。二人は目的の村に近づいたが、イエスはなお先へ行こうとされる様子であった。

しかし二人が、「一緒にお泊まりください。もう夕暮れですし、日も既に傾いていますから」と言って熱心に勧めたので、

イエスは彼らと共に泊まるため中に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱え、それを裂いて彼らに渡された。

すると、二人の目が開かれ、イエスだと分かった。そのとき、イエスは彼らには見えなくなった。

二人は話し合った。「道々お話しくださるとき、また聖書を説明してくださるとき、私たちの心は内で燃えていなかったか。」そして、二人はすぐさま立ち上がり、エルサレムに戻った。

すると、十一人とその仲間が集まっていて、「主は本当に復活して、シモンに現れた」と言っているのを見出した。

そこで二人も、道で起こったことや、パンを裂いていただいたときに自分たちに分かった次第を話した。

こういうことを話していると、イエスご自身が彼らの中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

彼らは驚き恐れ、霊を見ているのだと思った。しかし、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのか。どうして心に疑いを抱くのか。私の手や私の足を見なさい。まさしく私だ。私に触って、よく見なさい。霊には、あなたがたが見ているような肉も骨もない。」

こう言って、イエスは手と足をお見せになった。彼らは喜びのあまり、まだ信じられず、不思議に思っていたので、イエスは「ここに何か食べ物があるか」と言われた。彼らが焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを受け取り、彼らの前で食べられた。

イエスは言われた。「私がまだあなたがたと一緒にいたときに話した言葉は、こうだった。モーセの律法と預言者の書と詩編に、私について書かれていることは、すべて実現しなければならない。」

そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて言われた。

## Chapter 26

### 年 アメリカでの聖書学校

2012年から2013年にかけて、聖霊は私たちが聖書学校に通い始めるべきだと、私たちにはっきりと語られました。私は父なる神に安息年を求めて祈ったことを覚えています。そして、これが私に対する主の答えでした。それは全く予期せぬ答えでしたが、唐突に降って湧いたような話でもありませんでした。その時まで、私の妻も、私たちがアメリカで聖書学校に通い始めることが御心であると悟っていました。具体的には、Colorado Springs の Rocky Mountains 山脈にある Woodland Park の Charis Bible College でした。これは、私が Denver への短期伝道旅行でアメリカに滞在していた際、父なる神から直接告げられたことでした。フロリダの伝道学校を卒業した一組の夫婦が、そのイベントを主催していました。私は航空券を予約したものの、本当に正しいことをしたのか不安でしたが、今回は妻も反対しませんでした。こんなに急な知らせで、しかもわずか数日間の滞在のために2度もアメリカへ行くなんて、自分でも少し狂っているのではないかと思いましたが、幸いなことに、出発前に確信を得ることができました。それは少しペテロ（マタイの福音書 14:29-31）のような体験でした。舟から一歩踏み出したものの、沈みそうになったところで、神が手を取って引き上げてくださるのを感じるのです。

あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に願いなさい。そうすれば与えられます。しかし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く海の大波のようです。そのような人は、主から何かをいただけたらと思っただけではありません。二心を抱く人で、その歩みのすべてにおいて定まりがないのです。

— ヤコブの手紙 1:5-8

聖霊が示してくださったことに従って進むとき、もちろん、本当に正しく聞き取れたのか不安になることもあります。確信が与えられると、通常はその選択に対して平安を感じます。今回の確信は、滞在先の人々の名前の一部を聖霊が教えてくださったことでもたらされました。政治家の Kaci Kullman Five という名前が頭にこびりついて離れなかったのですが、後に彼らの名前が Kaci Robbins だと知り、それが聖霊からの導きであったこと

を理解しました。私は彼らのことを知りませんでした。彼らもまた CFAN と Reinhard Bonnke の学校に通っており、Colorado Springs に住んでいました。それだけではありません。以前、同じ伝道学校の兄弟である Mike Sanchez が Daniel のために癒やしの祈りをするよう私が促した際、彼が Daniel のために祈ってくれたことがあり、彼らは間接的に私を通して祝福を受けていたのです。そして神は、この夫婦が住んでいる街に聖書学校があるように計画しておられました。それは私たち全員にとっての祝福となりました。

Colorado Springs の Daniel Robbins とその妻は、私がそこへ行くまで私のことを知りませんでした。私たちは2012年に CFAN と Reinhard Bonnke の同じ学校にいたにもかかわらずです。しかし神は、私に学校を示し、翌年何が起こるのかについての理解を開くために彼らを用いてくださいました。

聖霊がそう言われたので、私は Denver へ行くことを知っていました。そして、アメリカの信仰の姉妹を通して、主はそのことを裏付けてくださいました。彼女が神に尋ねたとき、神はこの伝道集会の主催者である Anh Le と Michelle の夫妻を彼女に示されました。彼女は、神がすでに私に Denver という場所を教えてくださいましたことを知りませんでした。

私は Denver での伝道集会に参加しました。そこにはオープンステージがあり、私は参加者のために分かち合い、祈るグループに加わりました。実務的なリードをしていたのは Bryan Schwartz 牧師でしたが、突然彼は私に向かってこう言いました。「あなたは深い人ですが、深いかそうでないかは重要ではありません」。彼は私のことを知りませんでした。数年後の2014年にも Marcus Wick が同じようなことを私に言いました。それは、私が聖書を深く掘り下げ、真理を求めて神を求めているのを神が見ておられたということですが、同時に、そうしない他の人々を裁いてはならないということでもありました。聖徒たちは皆、神の家においてそれぞれの場所を持っており、自らの信仰の著者であるイエスに従う責任があります。ともあれ、2008年から2012年にかけてのすべての本や経験が、私をある一点へと導きました。それは、私が神への抵抗を捨てた時であり、それは2012年5月のことでした。私たちはまだ Denver におり、Colorado Springs の家と会場の間を、片道1時間半ほどかけて往復していました。

私たちには少し自由な時間があり、その時に Daniel Robbins がコロラドスプリングスを案内してくれることになりました。そこが神への活動が盛んなバイブル・ベルト（聖書地帯）であることは理解していました。ある交差点で赤信号を待っていた時、神が私の悟りを開き、私たちが Charis Bible College に通うべきであることを示されました。即座に、その学校を率いていた Andrew Wommack に対して心の平安を感じ、心の中で父なる神に「

ノー」と言うことはできませんでした。もっとも、帰国してからそのすべてを消化するには苦勞しましたが。それでも、私は何と言えればいいのか、少し呆然としたようになり、車を運転していた兄弟にそのことを話すと、彼は神を賛美しました。すべてが少し現実離れしており、Frekhaug の家の売却ですでに10万クローネの赤字を出していたため、経済的な面をどう工面すればよいのか全く分かりませんでした。そこに私の挑戦、つまり聖書学校に行くための資金繰りという課題があったのです。

この時点では、私たちは Galtenesveien の突き当たりにある賃貸アパートに住んでいました。それは、私たちがそこを借りる前に神が妻に確信させてくださった通りでした。大家さんは彼女の以前からの友人で、Loddefjord にある Den Norske Kirke の牧師でした。1年前に家を売った理由が、その後の数年間のために神が道を備えてくださっていたからだとは、その時の私は知る由もありませんでした。だからこそ兄弟 Thomas は、家を売るのが正しいことだとあんなにもはっきりと語っていたのです。

私たちは Frekhaug の Fosse にあった家を売る前に、家財道具の多くを人に譲りました。その際、ステレオセットを譲り受けに来たある男性がいました。私は彼に心を開いて話をしましたが、彼が語ったのは、自分の家が悪霊に取り憑かれているということでした。後日、私は彼の家を訪ねることにしましたが、行く前に神から実際にお叱りを受けました。神は私に**従順**であるよう命じられましたが（サムエル記上 15:22）、私の未熟さゆえに、その厳粛さを真剣に受け止めませんでした。私は家の中に汚れた霊がいるその人を訪ねましたが、それが間違いであると理解すべきだったのに、その人が抱えていた問題を過小評価してしまいました。彼の枕には髑髏が描かれ、壁には大量の武器が掛けられていました。夜になるとその気配は非常に強く、掛け布団さえもベッドから引き剥がされそうになると彼は言いました。神は私を戒められましたが、私は未熟でした。私が言うべきだったのはこうです。「汚れた霊は休み場を求めているので（マタイ 12:43-45）、家の中から死にまつわるものをすべて処分しなさい。神の前で自分の罪を悔い改め（ヨハネの手紙一 1:9）、イエスを受け入れ、新しく生まれ変わらなさい」。私の働きにおいて役割を果たすためには、人ではなく父に従わなければならないことを認めざるを得ません。この数年で、私はそれが以前よりできるようになってきました。多くの人が福音や神の御業に対して、自分の罪や頑なな心を言い訳しようとしませんが、父はこの点において私を研ぎ澄ましてくださいました。

合計5人の人が、アメリカでの聖書学校について私に預言的に語りました（コリント人への手紙第一 14:3）。それに加えて、神が私の悟りを開いて示してくださったことがありました。それは、おそらく使徒ルカに起こったことと少し似ていたかもしれせん。

そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて...

— ルカの福音書 24:45

私に語った一人は、信仰の姉妹である 姉妹 Amy でした。彼女は既婚者で 4人の子供がおり、アメリカに住んでいます。彼女には伝道者の召しがあります。二人目はフルタイムの伝道者である Ikem Grigsby でした。また、私の所属していた教会の信徒である 兄弟 Trond も、「聖書学校」という言葉が聞こえると直接私に語り、さらに、以前にも訪れたことのある同じ伝道者も、私たちの家に来た際、聖霊がそう言っておられるようだと話してくれました。アメリカの Robbins 一家も、フロリダで Reinhard Bonnke の伝道学校に参加していました。姉妹 Amy も以前、私の家族全員が荷物をまとめてアメリカにいる姿を神が見せてくださったという経験をしていましたが、当時の私はそんなことはあり得ないと思っていました。これはコロラドとデンバーへの伝道旅行の少し前のことでした。

短い伝道旅行の後、私がアメリカへ行き聖書学校に通うことを確信しただろうと思われるかもしれませんが、神は私に学校を示してくださいました。しかし、父なる神に御言葉を学ぶための安息年を求めていたにもかかわらず、最後の確信が得られるまで、私は完全な一步を踏み出すことができませんでした。私に直接語りかけたもう一人の人物は、同じくアメリカ出身の John Natele でした。最初は偶然だと思っていましたが、ある電話会議に参加するように言われ、そこで John Natal は神からの知識の言葉をもって私たち全員に語りました。そして John には確かに預言の賜物があることが、伝道学校の別の参加者によって裏付けられました。私自身もそのことを理解するようになったのです。

「ここでのあなたの仕事は終わりました。飛行機に飛び乗りなさい。」

— John Natale は私に預言的にこう言いました

John は私のことを何も知りませんでしたし、神が私にアメリカの聖書学校へ行くよう命じておられることも、もちろん知りませんでした。ですから、何と云えばよいか、私は動悸がするのを感じました。これまでのすべての経験を経て、こうしたことに冷静に対処できるだろうと思われるかもしれませんが、実際はそうではありませんでした。仕事を辞め、神を信頼するということは、当時3人の子供がいたことを考えると、非常に大きな一步だったのです。

私と妻は、私たちが本当にアメリカの聖書学校に行くべきなのか、神様に確信を求める祈りを捧げることにした時期がありました。すると、そのわず

か数日後のことです。Ikem GrigsbyがFacebookを通じて初めて私に連絡をよこし、意味の分からない夢を見たと伝えてきたのです。彼は、その夢の真ん中に私がいて、おそらく私へのメッセージではないかと思うと言いました。彼自身は、2005年にハリケーンKatrinaがフロリダを襲い、家も財産もすべてを失う直前に神様に召されたフルタイムの伝道者でした。

Ikemは家と車の間を行き来しながら、車を荷物でいっぱいにしていきます。すると、彼に私からの電話が入りますが、彼がそれに出ようとすると、突然、発信者である私との通信が切れてしまいます。その後、彼と妻は飛行機へ向かいますが、出発に遅れそうになります。着陸したとき、彼の携帯電話には私から1ダースものテキストメッセージが届いていましたが、それらはすべて空（空白）でした。

#### — Ikem Grigsbyの2013年の夢

Ikemはその夢が何を意味するのか分からず、2012年にフロリダの伝道学校で私のことを知っており、同じFacebookグループのメンバーだったため、私に連絡をくれたのです。彼はまた、一人で旅行するときには考えられないほど大量の荷物があったとも述べていました。私はすぐにその夢の意味を理解しましたが、妻は「あなた、その件で一体何をしたの?!」と怪訝そうにしました。神様が語られたことはすでに妻に伝えていましたし、申し込む前にはまず夫婦で合意しなければならないと思っていたので、私は少し困惑しました。正直なところ、当時はお金がなかったため、私の不信仰こそが申し込みを躊躇させていた理由でした。しかし、私たちはその学校に申し込むことで合意しました（ヘブル人への手紙 11:1）。学校側からの回答は、アメリカでの滞在費を賄えるという銀行の証明が必要だというものでした。そんなものは持っていなかったため、私は「神様から申し込むように言われたのです」と答えました。すると、神の言葉が成就することを信じて、出願を処理するという返事もらったのです。2009年に私たちのところに来た「地元の起業家」が、ちょうどその頃、市議会から建築許可を取り付けていたとは、私は知る由もありませんでした。銀行からの証明書を送る期限が切れる少し前、彼から電話があり、「契約書に署名しに来てもいいですよ」と言われました。私は少し単純なのかもしれませんが、これほど長くかかった案件ですから、ここからお金が入ってくるとは、ほとんど驚きでした。打ち合わせに向かう途中、私は急に不安になり、「売却した後の残金で、子供3人と大人2人でアメリカに行くなんて絶対に無理です」と神様に向かって叫びました（箴言 3:5-6）。それは、FlatøyとKnarvikの間にかかるHagelsundbruaを渡る直前だったのを覚えています。ところが、会議の席で彼は、土地の残りの部分も買いたいと言い出したのです。結局、住宅用に転用された部分だけでなく、まだLNF地域（農林漁業・景観保全地域）だった残りの土地も彼が

買い取ることで合意しました。また、支払いを3回に分けること、もし期日までに支払いがなければ1日につき1,000クローネの遅延損害金を支払うことにも同意してくれました。最終的に約110万クローネを手にするようになりました。それは驚くほど楽しく、神様がすでにあらかじめ知っておられた祝福でした。私たちは、体と霊における奇跡だけでなく、経済的な奇跡によっても、真に神様に祝福されました（ピリピ人への手紙 4:19）。これは否定できない事実です。なぜもっと早く「はい」と言ってすぐに申し込まなかったのかと振り返ると、その原因は私自身の不信仰にありました。

私の頭の中ではこう考えていました。「だってお金がないじゃないか」。しかし、問題は経済的なことではなく、神の言葉に対する私の不信仰にありました（マルコの福音書 9:24）。これが解決するという信仰を持って歩んでいなかったのが、聖書学校への申し込みを始めていなかったのです。神様が語られ、それが確認されたなら、それは信仰の問題であり、他の言い訳をして逃げるべきではありません。

#### — 聖書学校について神様が語られた時の私の不信仰

学校への準備がすべて整い、私たちはBergenでの仕事を辞めました。私はNoklusのシステム開発者、妻は教師としての仕事です。そして2013年10月、私たちはColorado Springsにある Charis Bible College を目指してアメリカへ出発しました。Ikem Grigsbyが飛行機に乗り遅れそうになった夢の話ですが、実際に末娘のEngeline のビザが届いたのは出発のわずか3日前でした。本当にギリギリのところまで間に合ったのです。アイスランドを経由して、アメリカのDenverへ飛びました。山のような荷物を抱え、空港では子供たちが荷物でいっぱいのカートの横に立っていました。それはそれで見ものだったと思います。私たちはColorado Springsに到着し、聖書学校での生活をスタートさせました。初日から1年生全員にメダルが授与されました。「ここまで辿り着いたこと自体が一つの達成である」と言われましたが、まさにその通りでした。Colorado Springsの Charis Bible College は、Andrew Wommack の学校の中で留学生を受け入れている唯一の校舎であったことも後で知りました。もちろん、神様はすべてをご存知でした（ローマ人への手紙 8:28）。

2013年の年の瀬、学校がWoodland Parkの新しい校舎に移転する直前で、クリスマスが近づいていました。授業は通常通り行われており、ちょうど休憩時間のことでした。私たちはまだColorado Springsの古い校舎にいました。

来年、あなたはここにはいないでしょう。

## — 学校で座っていると、聖霊様が言われました

私は心の中で、これは絶対に聖霊様であるはずがないと思い、その言葉に激しく抵抗しました。時として、私はそのように子供じみた反応をしてしまいます。残念なことです。しかしながら、それが神様の慈しみであったことを、私は後の2014年になってから理解することになります。私たちは学校で素晴らしい時間を過ごしました。妻は夜間コース、私は昼間コースに通い、交代で子供たちの面倒を見ました。

この時期、アメリカの高速道路を時速100キロで走行中に起きたあるトラウマ的な出来事については、ここでは詳しく話さないことにします。ただ言えるのは、その当事者は責任を取ることを拒んだということです。その人物は謝罪の一言もなく、その行為がどれほどの被害を引き起こした可能性があるのかを理解しようとしませんでした。

# Chapter 27

## Charis Bible College (2014)

2014年になり、Charis Bible CollegeはWoodland Parkに新校舎をオープンしました。1年生の授業はそのメインホールで行われていました。建物は、私たちの頭上高くにそびえ立つ見事なアーチを描いた木の梁による、開放的な木造構造でした。アメリカ人は一般的に内装のデザインに長けていますが、ここも素晴らしい木造建築で、部屋の片側は海拔4302メートルのPikes Peakを望む巨大なパノラマウィンドウになっていました。Woodland Park自体が海拔2580メートルの場所に位置していたため、そこは少し特別な環境でした。私たち自身も標高2300メートルの場所に住んでいたため、滞在の最初の数ヶ月は、階段の上り下りなどで少し息切れがしたものです。

学校では聖書を主な教材としていますが、テーマごとに分けられた学習資料の冊子が配られ、各テーマの終わりには、内容を理解できたかを確認するための簡単なテストが必ず行われます。定期的にカンファレンスも開催され、Charis Bible Collegeでよく繰り返されるテーマは「癒やし」と「神の恵み」です。それは罪を犯し続けるための恵みではなく、十字架のもとに来て、自分自身や神への抵抗を捨てる罪人のための神の恵みです。これまであまり触れてきませんでしたが、私は人々のために祈る中で多くの奇跡を目にしてきました。Andrew Wommackも、私たち人間に対する神の御霊の賜物や、聖徒たちにとって癒やしを期待することがいかに自然なことであるか（ヤコブの手紙 5:14-15）について語っています。神はこのことをご存じでしたし、その意味で私はこの聖書学校にいてとても居心地の良さを感じていました。一方で私の妻は、旅行や計画、そして新しい友人や活動に囲まれた新しい場所での生活といった実務的な面を楽しんでいたようです。当時の警告信号としては、彼女が私と一緒に聖書を読むことを好まず、私が聖書の御言葉について話したり、神が私に与えてくださったことや目にした癒やしについて語ったりすると、すぐに焦燥感を募らせ、苛立ちを見せるようになったことでした。

学年度が進むにつれ、家族は日曜日にWoodland Parkの、子供向けの集まりもある教会にも通い始めました。学校の授業中、聖書講師の一人であるGreg Mohrが、講義の最中に私の前妻に直接語りかけました。幸いなことに、すべての講義は録音されていました。私と当時の妻が抱えていた葛藤を知る人はほとんど、あるいは全くいませんでしたが、彼女は神のための働きにおいて、繰り返し私を批判したり反対したりしていました。彼女もその家族も信者であると認めていたため、それは根本的な矛盾でした。しかし

、Greg Mohrは私が自分では口にしたくないと思っていたことを語ったのです。Greg Mohrは私の前妻のことを全く知りませんでしたから、これはまさに「青天の霹靂」のような出来事でした。

神はあなたの中から不信仰を吹き飛ばし、あなたを大きな慈しみと祝福、そして経済に対する信仰へと導こうとしておられます。神はそれを完全にあなたの中から打ち砕き、経済の分野だけでなく、癒やしの分野においてもあなたを力強く用いようとしておられます。もしあなたが神に委ねるなら、神はあなたを力強く用いられるでしょう。もしあなたが、神がそうされることを許可するなら。そして私は、あなたに対する敵の策略と、あなたを道から逸らそうとしたあらゆる否定的な経験を退けます。あなたの父なる神はあなたを愛しており、あなたの人生に祝福を注ぎたいと願っておられます。あなたはこれを体験し、また他の人々がこれを体験するのを助けることになるでしょう。アーメン。アーメン！

— Greg Mohrは私の妻に語った

数ヶ月後にMarcus Wickが、神は私たちが切り離されると言ったとき、彼女がすでに別れる決心をしていたことが明らかになりました。私たちは一つの体として（エペソ人への手紙 5:31）、共に機能するはずでした。しかし、神は事態がどのように進んでいるかを見ておられたのです。この世の誘惑に惑わされている人々に、神の慈しみがありますように。

まことに、あなたがたに言います。悔い改めて子どものようにならない限り、決して天の御国に入ることはできません。ですから、この子どものように自分を低くする者が、天の御国で一番偉いのです。また、だれでも、このような子どもの一人をわたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。しかし、わたしを信じるこの小さき者たちのひとりをつまづかせる者は、大きな石臼を首にかけられて、海の深みに沈められる方がましです。つまづきを与えるこの世はわざわいです。つまづきは必ず来るものですが、つまづきを与える人間はわざわいです。もし、あなたの手か足があなたをつまづかせるなら、それを切って捨てなさい。両手、両足がそろったままで永遠の火に投げ込まれるよりは、不自由な体や不具の足でいのちに入る方が、あなたにとって良いことです。また、もし、あなたの目があなたをつまづかせるなら、それをえぐり出して捨てなさい。両目があるままで火の地獄に投げ込まれるよりは、片目でもいのちに入る方が、あなたにとって良いことです。

— マタイの福音書 18:3-9

人が心理的な操作を用いて、相手に自身の判断力や認識、あるいは記憶を疑わせようとするとき、それはガスライティングとして知られており、本来非常に深刻な問題です。

学年度の終わりに、私はサマースクールに通わなければなりませんでした。私たちは秋ではなく冬学期から入学していたからです。2014年の夏、妻と子供たちはノルウェーへ休暇に出かけ、次の新学期には戻ってくるつもりでいました。しかし、私の内側では、何かが違っているという感覚がありました。その時は、学年度の初めに聖霊様が私に語りかけ、来年はここにいないだろうと言われたことを思い出せませんでした。また、それを素直に受け入れてもいませんでした。

私たちは二年生には進まないことで合意しました。その後、彼女の希望で Levanger へ移り住むことになりました。一年で辞めてしまうことを、私は悲しく思っていました。ところが、アメリカから帰国するわずか2、3週間前に、四人の聖徒たちが私に語りかけてくれたのです。一人は、その年に通っていた教会の人でした。そこでの最後の礼拝で、彼らはちょうど私のために祈ってくれたところでした。私が会場の後ろへ行こうとした時、聖徒の一人である預言者が立ち上がり、出し抜けに、私が神様のために行くことになる様々なことについて語り始めました。語られたことの一部は、私がヨーロッパのいくつかの国々を旅すること、そして私の働きが自分自身の予想をはるかに超えて大きなものになるということでした。彼自身も Charis に通っており、フランス出身の彼の妻も同様でした。それは力強い言葉で、私はこれに完全に不意を突かれました。彼の言葉は、後に他の神の人々によって確証されることとなります（コリント人への手紙 第二 13:1）。

次に私に語りかけてくれたのは、Marcus og Sharon Wick 夫妻でした。彼らも私と一緒に Charis に通っていました。私はその時、聖書学校の仲間数人と共に、偶然にも彼らの家での家庭集会に参加していました。彼らの家庭集会に行ったのは、それが最初で最後のことでした。お互いに顔は知っていましたが、それ以外は他人同士でした。しかし、彼も彼女も、神様からの言葉を私に語ってくれました。

神様は Marcus に、私が神の御言葉を深く掘り下げてきたこと、しかし身近な家族が、私が神様のために下した決断を批判していたことを示されました。神様はこのことを喜ばれていませんでした。その預言者が見た光景は、私が先頭にいる列車でした。そして神様は、私の後ろの車両を切り離し、その重荷を取り除いて、私が主のために働き始めることができるようにしてくださいと言われました。この働きのシーズンがまもなく始まると告げられました。Sharon もまた、これからの時期が非常に困難なものになり、まるで完全に停滞してしまったかのように感じるだろうが、偉

大きなことが勢い（モメンタム）を増すには時間がかかるのだという確信を与えてくれました。Marcusはまた、神様からの祝福の川が私の上に流れているのが見えると言いました（詩篇 46:4）。これも後に確証されました。

— 2014年のMarcusとSharon Wick

最後の人物はJeffrey Hardwickで、彼も以前Charisに通っていました。私はピザに招待されており、彼も招待客の一人でした。私の背景を知らないまま、彼は神様からの言葉を分かち合ってもよいかと尋ねてきました。彼は、神様が私に「創造的な奇跡」（ヨハネの福音書 14:12）という賜物を与えてくださったと語りました。以前には書いたことがありませんが、私は骨などが数秒で成長したり伸びたりするのを目の当たりにしてきたので、彼が何を言っているのか十分に理解していました。彼はまた、私が独創的であること、そして重要な決断を下す前に私が確証を求めていることを神様がとても喜んでおられると言いました。

私は神様を失望させてしまったと思っていましたが、私の働きがまだ終わっていないことを理解した今、その悲しみは喜びに変わりました。神様が私を引き留めていた問題を取り除いてくださる（ローマ人への手紙 8:28）ことは理解しましたが、まさか三年後に神様が実際に私を分離されるとは思いませんでした。これほど短期間に、神様が四人の信者を通して私に語りかけられたのは、この時までで初めてのことでした。また、アジアの国から来たJangiliと知り合ったのもこの年で、私たちの働きと兄弟のような友情はこの年から始まりました。

## Chapter 28

### 年 ノルウェーへの帰国

2015年になり、私は失業中でした。もしあともう一年滞在しようとしていたら、失業手当の受給資格を失っていたところでした。実際、NAVは当初、私の申請を却下しましたが、異議申し立てをしてようやく受理されました。その時の私には、確かな学歴と素晴らしい経験がありましたが、仕事を見つけるのに苦労していました。雇用主たちも、私が聖書学校に通っていたことには感銘を受けていないようで、むしろ普通の非信者であることを望んでいるかのような様子でした。彼らの目には、私の履歴書に単なる技術的な空白だけでなく、別の意味での「穴」があるように映っているのだと悟りました。そのことは、間接的にも直接的にも告げられました。

仕事がないことへのもどかしさから、私はこの年、父なる神（Far）がどのようなお方であるか、そして私たちに何をしてくださったかについて分かち合う文章を書き始めました。それは、私が想像していたよりもずっと大きなものへと発展していくこととなります。そんな中、私たちにはさらに二人の息子が授かり、アパートの中はいっそう賑やかになりました。男の子と女の子は、そういう意味で少し違いますね。部屋の中だけでなく、壁の中でも物音がしていました。大家さんがネズミの問題を抱えていたからです。衛生面では少しイライラしましたが、子供たちにとっては刺激的でもありました。流しの下収納扉を開けて、ネズミ捕りを確認する時の彼らの表情は、恐怖と喜びが混じり合ったものでした。子供たちとの素晴らしい時間はたくさんありましたが、「仕事」がないという状況は初めてで、困難な挑戦でした。この時、2012年にKvinneforum Nordhordlandで言われたことは、おそらく私がここで始めたことについてだったのではないかという予感がしましたが、確信はありませんでした。今の私と同じように、書くことに喜びを見出していました。また、この年は初めてアジアの国へ宣教旅行に行き、人々が癒やされ、苦しみから解放され、イエスを受け入れるのを目の当たりにした年でもありました（使徒言行録 1:8）。素晴らしい旅でしたが、常に受動的でいることができなかつた私にとっては、試練でもありました。私は時を問わず分かち合うのが好きなのですが、ホテルの支配人の一人が奇跡を目撃し、その妻が癒やされたりすると、当局との間に少しばかり問題が生じる可能性も否定できません。私は宗教ビザで入国したわけではなかったので、ある意味スリリングでした。私は二人のスタッフ（二人ともクリスチャンでした）と一緒に、ホテルの隣のガレージに住んでいる女性とその娘さんのところへ行きました。娘さんは以前は異言を話していましたが、それを失ってい

ました。彼女には異常なまでの急激な成長が見られ、母親は私たちに祈ってほしいと頼みました。私たちが祈っていると、突然、娘さんが力強い異言を話し始め、私は鳥肌が立ちました。一言で言えば、多くのことが起こりましたが、少し神経をすり減らすようなところはあっても、本当に素晴らしい経験でした！

わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成するように努めなさい。神は、御心のままに望ませ、行わせてくださる方だからです。何事も、不平を言わず、疑わずに行いなさい。そうすれば、とがめられるところのない清い身となり、よじれ曲がった世代の中で、非のうちどころのない神の子として、命の言葉をしっかり保ち、世にあって星のように輝くでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったことが無駄でなく、苦労したことも無駄ではなかったと、キリストの日に誇ることができるでしょう。たとえ、あなたがたの信仰の供え物といけにえに、わたしの血が注がれるとしても、わたしは喜びます。あなたがた皆と共に喜びます。同様に、あなたがたも喜びなさい。わたしと共に喜びなさい。

— フィリピの信徒への手紙 2:12

私が新しく生まれてから、七年が経っていました。その間に多くの経験をしたにもかかわらず、私は自分の霊的な誕生に確信が持てないでいました。神様はこのことを最初からご存じだったに違いありません。なぜなら、私が卵の中に立っているという幻を見た経験は、神の中にある私自身の霊の姿だったからです。しかし、その経験以来、私は自分が見たものを疑い続けていました。時は2015年、神様は私が経験したことへの答えをくださろうとしていました。私たちは聖徒（De Hellige）のグループでTrondheimの街頭で福音を伝えていました。二人の兄弟と一緒に歩いていた時、Trondheim Torgにいる人々のグループに引き寄せられるのを感じました。一人の兄弟は、露出の多い服を着た三人の若い女性と一人の若い男性が立っているのを見て、同行を拒み、すぐに立ち去ってしまいました。私たちが彼らの周りを回り、彼らの方に向き直った時、私の右腕と肩に痛みというか、妙な感覚を覚えました。私は彼らの中に右腕や肩に問題を抱えている人はいないかと尋ねると、即座にその若い男性が認めました。若い女性たちは少しパニックになっていましたが、私たちは彼女たちを落ち着かせました。私たちはイエスと共に来たこと、福音を伝えていること、そしてこれは聖霊様から聞き、感じるという神からの賜物であることを話しました。その後、私たちはその若い男性のために祈りました。彼は名前をAzariahといい、ここTrondheimにある国際教会Betelのユースパスターをしていると教えてくれました。また、彼

は人生で初めて、聖霊様が自分にはっきりとした声で語りかけるのを聞いたと話してくれました。

三つの卵を持って、(Trondheimの) 中心街へ行きなさい!

— 2015年、聖霊様がAzariahに語られた言葉

「オーディブル(可聴的)」とは、霊においてではなく、耳で聞くということの意味します。そして、このことはAzariahだけでなく、私たち全員を驚かせました。彼は何が起ころうとしているのか、なぜ中心街へ行くべきなのか分からなかったため、聖霊は彼が実際に三つの卵を持って中心街へ向かうまで、そのメッセージを二度繰り返さなければなりませんでした。彼はそこでは何も見つけられませんでした。帰り道にいつも通る道とは少し違う道を通ったと話してくれました。そして、私たちが彼に出会って話しかけたのは、まさにその時だったのです。私は「卵は新しい命を意味する」と言い、彼のその出来事を共に喜びました。私がLevangerへ戻る列車に乗った時、ようやく実際に何が起こったのかという衝撃が走りました。天の父が七年の時を経て、2008年に見た「卵の中にいる自分」の幻が何を意味していたのか、私の問いに答えてくださったのだと理解したのです。

主は、ご自分の羽で、あなたを覆われる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実は、大盾であり、手盾である。

— 詩篇 91:4

そして、このことはイエス様もマタイによる福音書の中で裏付けておられます。

エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。めんどりがひなを翼の下に集めるように、わたしは何度、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。

— マタイによる福音書 23:37

私たちが父と子と聖霊の御名によって洗礼を授けられることを忘れないでください(マタイによる福音書 28:19)。三位一体の神は共に働いておられます。もし、私たち人間に対する父の御心を言い表す一文があるとするならば、それはこれに尽きます。死ではなく、命を!

前述したように、卵は神からの命を象徴しており、私自身の幻も、聖書でそれを読んだり、周りの人から聞いたりする前に、そのことを裏付けていま

した。私は今、自分が神の霊によって新しく生まれた（ヨハネによる福音書 3:3）ことを知っています。私の業もまた、しるしと不思議を伴うものであり、聖霊と共に歩むならば、それはこれからも続いていくでしょう。世界は金銭や物質的な豊かさに固執しており、神からの言葉を携えて行く時、多くの人から嘲笑されることを覚悟するのは当然のことです。これは見知らぬ人からだけでなく、自身の家族や、本来は神の言葉に燃えているべきでありながら、生ぬるい状態にいる他の「信者」たちからも来るかもしれません。父と共に歩んできた長年の歳月を経て、私が確信していることが一つあるとすれば、それは、神の命への扉、命の水、死からの解放者、私たちの造り主、そして主でありマスターであるイエス・キリストを受け入れたことが、いかに信じられないほど幸運であるかということです。ハレルヤ！ YES!!

2015年、私は2008年に救われたあの日、神様が本当に私を憐れんでくださったのだということをやや理解しました。そして、神様がご自分の民をエジプトから解放された時にモーセに与えられた言葉に、私は驚きを禁じ得ません。

主はモーセに仰せられた。「イスラエル人の間で、最初に生まれる初子をすべて、わたしのために聖別せよ。人間でも家畜でも、すべて胎を開くものは、わたしのものである。」」モーセは民に言った。「奴隷の家、エジプトから出て来たこの日を覚えなさい。主が力強い御手をもって、あなたがたをそこから連れ出されたからである。パン種を入れたパンを食べてはならない。あなたがたはアビブの月のこの日に出発する。主が、乳と蜜の流れる地をあなたに与えると、あなたの先祖たちに誓われたその地へ、あなたを導き入れられるとき……」」

— 出エジプト記 13:1-5

Den Norske Kirke（ノルウェー国教会）には神を恐れる会衆がいないと私は思っているのでしょうか。残念ながら、大部分において、その通りです。しかし、そうであるのは彼らだけではありません。そして、私が自身の青年時代に個人的に経験したことは、40年以上前にMøre教区の主任牧師であるMorten Gravdalによっても裏付けられています。MortenはオスロのMenighetsfakultetetの学生だった頃、異言によるメッセージの後に神から一つの示しを与えられました。

それは列車の光景でした。列車は猛スピードで風景の中を走り抜けていました。その線路には長い間列車が通っておらず、木々や大きな岩が線路に崩れ落ちていました。しかし、機関車の前方には大きなプラウ（除雪板）が付いていました。このプラウは、線

路上にあるすべてのものを脇へと掃き除けていきました。土砂崩れが起きていて危険に見える場所でさえ、プラウは線路をきれいに掃除し、列車は少しも速度を落とさませんでした。すると、そのプラウが一冊の開かれた本であるのが見えました。蒸気機関車からは煙が出ていなかったの、列車を前進させているのは機械の力ではないことが分かりました。列車を前進させていたのは、列車に乗っている人々がその本を読み、そこに書かれていることを信じていることでした。人々は窓から身を乗り出し、風に髪をなびかせ、その風の強さに目に涙を浮かべていました。彼らはあまりの速さに歓喜の声を上げていました！次に、別の光景が見えました。列車は駅に止まっていた。プラウ（本）は取り外され、客車の一つの上に置かれていました。そこでは、機関士や車掌、そして星や縞模様のついた制服や鉄道帽をかぶった人々が歩き回っていました。彼らは本を少し読み、切り貼りをし、自分たちに合わない部分は取り除いていました。彼らは本のページを丸ごと破り捨て、プラウを元の場所に戻そうとは一切しませんでした。何人かの人々は、なぜ列車が動かないのか不思議に思っていました。しかし、ほとんどの人は列車が止まっていることに満足しており、自分たちの都合に合わせて乗り降りしていました。この列車はもちろん、教会でありキリスト者の集いです。本は聖書です。聖書の力は、キリスト者が聖書を読み、そこに書かれていることを信じることにあります！キリスト者がそうするとき、教会は前進します。教会には猛スピードで前進するポテンシャルがあり、それはキリスト者が聖書を読み、聖書に書かれていることがキリスト者の人生を形作るときに起こるのです。これは私が40年近く前に受けた幻です。もし当時それが真実であったなら、今はなおさら真実です！中心的な、影響力のある神学者や司教たちは、神の言葉を切り貼りし、何も残らないようにしてしまいました。リベラル神学は、聖書をもはや聖なる書物とは見なさなくさせました。神様は嘆いておられると私は信じます！おそらくそれ以上に、神様は憤っておられます！そして神様は、列車の前方に再びプラウを装着するよう、私たちに挑んでおられます！神の言葉のすべてを、教会の側の人々やキリスト者の集いの目の前に置かなければなりません。そして、それが私たちの人生を形作り、私たちを清め、聖別しなければなりません！そうして初めて、ノルウェーの教会は再び動き出すことができるのです！おそらく、この光景は現代への預言だったのでしょくか。ノルウェーの線路を列車が走らなくなってから久しいです。私たちがリバイバルを経験してからも、長い月日が経ちました。多くの岩や木が線路に落ち、何度も土砂崩れが起きました。これほどまでに荒れ果てた

線路の上を列車が走ることなど、不可能に見えるかもしれませんが。しかし、聖書は、私たちに不可能なことは何一つない神を信じていると教えているではありませんか。さあ、プラウを元の場所に戻しましょう！

— Morten Gravdalに与えられた異言の解き明かし

彼がこれを共有しているYouTubeビデオのタイトルは、「Han fikk et syn, om hvordan det ville gå med Den norske kirke」（ノルウェー国教会がどうなるかについて、彼は幻を見た）です。

旧約聖書は神の約束の影のようなものであり、私たちの救い主イエスは御言葉を解き明かし、真の約束の地である天国への道しるべとなりました。イスラエルの民がエジプトから解放されたとき、神は意図的に彼らを罠に誘い込み、死から逃れるために紅海を真っ向から渡らなければならないようにされました。これはイエス・キリストによる救いの影でした。私たちは皆、新しい命へのバプテスマ（ローマ人への手紙 6:4）であり、古いものからの清めである紅海を通らなければなりません。神はまた、簡単に引き返すことができる道を閉ざされました。エジプトは死、すなわち世の運命の象徴でした。神を選んだ人々は、神の家族へと養子に迎え入れられ、オリーブの木に接ぎ木されます（ローマ人への手紙 11:17）。これらの方々こそが、確信を持って、万軍の主（Herren Sebaot）をアバ、父（Abba, Far）という名で呼ぶことができる聖なる祝福された人々です。

ですから、兄弟たちよ。私たちは、肉に従って生きる責任を、肉に対して負ってはいません。もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬこととなります。しかし、もし御霊によってからだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子です。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父よ」と叫びます。御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちは神の子どもであることをあかししてくださいます。もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストとともに苦しみを分かち合っているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人なのです。それは、私たちがキリストとともに栄光をも受けるためです。

— ローマ人への手紙 8:12-17

今年分かち合いたい証しの一つは、私たちの姉妹 Anne-Gro Fjellingsdal が Laberget で癒やされた時のことです。Levanger Vineyard の集会があり

、その最中に首の一部がチクチクするような感覚を覚えました。なぜだか分からず周りを見渡し、「いつものように、これは自分自身の感覚なのか、それとも何かが起きているのか」と考えていました。後で夕食を食べていたとき、私は偶然にも Anne-Gro の隣に座ることになりました。会話の途中で、集会の時に不思議な感覚があったけれど、なぜだか分からなかったという話をしました。すると Anne-Gro は、自分も同じ場所に数年間問題を抱えており、常に痛み止めを使っていると言いました。手短かに言えば、私たちが祈ると、彼女は痛みのある場所にすぐにしびれるような感覚を覚え、癒やされました。それ以来、彼女は痛み止めを使うのをやめました。その後何年もその状態が続いています。Anne-Gro には霊を見分ける賜物があり、これは教会が活用していくべき賜物です（コリント人への手紙第一 12:9-10）。

同じ年、聖霊はこれから出る出版物についてだけでなく、私が自分の本を出版することになるとも語られました。私はアパートの奥、洗濯機の上に乾燥機が置かれているすぐそばに立っていたのを覚えています。あろうことか、ヒートポンプ内蔵の Miele の乾燥機でした。しかし、これを聞いたときは驚きました。

あなたは自分の本を出す前に、聖書を出版することになります！

— 2015年に聖霊が私に語られたこと

私はまた反対したのを覚えています。出版エンジンを作ることは一つのことでしたが、それを使って聖書を出版することについては、非常に自信がありませんでした。私は、本の中で聖書箇所を引用し、それを付録の聖書にリンクさせるための、本に付随する「付録」として聖書を作るためにエンジンを構築したのであって、単体の聖書を作るためではありませんでした。その考えに慣れるまでには時間がかかりましたが、出版エンジンの技術面と自分自身のルーチンが成熟していくのと並行して、まさに聖霊が言われた通りになりました。それだけでなく、私はロシア語、日本語、ベトナム語、中国語などの個別の聖書のほか、スタディ・バイブル、並行訳聖書、King James Strongs、さらには単体の聖書辞典も出版しました。言うなれば、良い意味で少し度が過ぎるほど (go bananas) のことになりました。そして、聖霊が考えておられた本とは、まさにあなたが今読んでいるこの本のことです。この回想録は手紙として始まり、本へと発展し、今では福音の道具として機能しています。

また、2015年に Levanger の小学校で代用教員をしていたとき、神様との素晴らしい体験について生徒たちに話したために、私は解雇されました。生徒たちが私に「あなたは誰？」とか「どんな人生を送ってきたの？」と聞いてきたので答えたのですが、学校側はこれを非常に嫌がりました。信仰のために仕事を断られるということは、ノルウェーでは公に語られることはあま

りありませんが、事実です。信者は神について分かち合わないよう圧力をかけられ、代用教員としては解雇されるのも簡単だったようです。聖なる人々が最前線に立つ人々をサポートすることを控えるとき、イエス様ご自身が後にその人と対峙されることになる私は信じています。2011年から2012年頃、Frekhaugの良き兄弟 兄弟 Øivind が、「個人的人格（キャラクター）を築くことが重要だ」と話してくれた言葉を思い出します。これは働きを先導する人々だけでなく、すべての聖なる人々に当てはまることです。

さらにこの時期、Levanger中学校で若者のグループに出会うことができました。そこには私の娘の一人もいて、私は彼らにイエス様について少し分かち合いました。そして、体に痛みや他の問題があって祈ってほしい人はいないかと尋ねました。一人の少年が私を見て、長い間腰に問題を抱えていると言いました。私は彼に手を置いて祈ってもいいかと尋ねました。祈った後、彼はもはやそこに違和感を感じるができなくなり、少し驚いた様子でした。私は彼に、トランポリンに行って飛んでみるように言いました。戻ってきたとき、彼はさらに驚いた顔をしていました。痛みが消えていたからです。私は彼に、誰にもこの奇跡を否定させてはいけないこと、今体験したことを信頼すること、そして神様が彼らを愛しておられることを伝えました。通常、私は新しく生まれなければならないこと、イエス様が道であり、真理であり、命であること（ヨハネの福音書 14:6）も分かち合いますが、世の人々はしばしば神を求めません。さて、家に帰ると、長年私の神のための働きを批判してきた妻から厳しい視線を向けられました。彼女は、人々がイエス様の方に来るのであって、その逆ではないなどと言いました。しかし、イエス様ご自身がイスラエル中を巡り歩き、人々と分かち合い、バプテスマを授けておられたという事実は、少し奇妙なことではありませんか。また、主は弟子たちを遣わして人々に福音を伝えさせ、彼らもまた人々のために祈り、しるしと不思議が伴うのを見ました。これらすべては、主が十字架にかかり神のもとへ上げられる前に、イエス様ご自身の命令と権威によってなされたことです。聖霊が人々に降る前でさえ、弟子たちは実際に聖霊のバプテスマを受ける前から、イエス様が与えられた権威によって働いていたのです。

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。「時が満ち、神の国が近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」すると、彼らはすぐに網を捨てて従った。また少し行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。イエスがすぐにお呼びになると、彼らは父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスに

従った。それから、彼らはカペナウムに入った。イエスは安息日にすぐ会堂に入って教え始められた。人々はその教えに驚いた。イエスが律法学者のようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。すると、そのとき会堂に、汚れた霊に憑かれた人がいて、叫んで言った。「ナザレのイエス、私たちとあなたに何の関係があるのですか。私たちを滅ぼしに来たのですか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」イエスは彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。すると、その汚れた霊はその人をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。人々はみな驚いて、互いに論じ合った。「これはどういうことか。権威のある新しい教えだ。汚れた霊にさえ命じられる。すると彼らは従うのだ。」こうしてイエスの噂は、たちまちガリラヤの周辺地域全体に広まった。

— マルコの福音書 1:15-28

自分の家族からさえ、福音に対するこのような抵抗に遭うことは予想外のことでしょうか。このようなことが起こるとき、家族は神のための人の行動を非難するために、あらゆる言い訳を見つけ出すのではないかと私は疑っています。これは往々にして、人々が自分たちのことをどう思うかという、彼ら自身の不安に基づいています。イエスを宣べ伝える者として、人々が陰口を言ったり見下したりして面目を失うことは、予期すべきことです。それは神のために働くことの一部です。素晴らしい喜びもありますが、時には悲しみもあります。そして、街角で福音を分かち合うには多くの障害があり、その中には家庭内の個人的な葛藤から生じるものもあります。

わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思ってはなりません。平和ではなく、剣をもたらすために来たのです。わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たのです。こうして、自分の家族がその人の敵となるのです。

— マタイの福音書 10:34-36

福音を分かち合ったことで非難されたり批判されたりした経験がない人は、本来、その状況をよく理解することなしに、伝道者の個人的な事柄について発言する権利はありません。何人かの人々は、良かれと思って、時には戒めの言葉を私にかけてくれました。助けようとしてくれることには感謝しています。私が間違ったことをしたのも事実です、絶対に。しかし、私は沈黙を守り、静かに苦しんできたこともあります。そこでは神様だけが何が起きたかをご存じです。また、教会のメンバーが背後で悪口を言うこともあるで

しょう。しかし、あなたに言います。あなたを批判する人々を許しなさい（コロサイ人への手紙 3:13）。福音を分かち合い続け、毎日受けている祝福を喜ぶことができるように、あなたの心を守りなさい。

そういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私がいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて、志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。

— フィリピ人への手紙 2:12-13

# Chapter 29

## Asia (2016)

2016年、私は二度目の東洋への旅路にありました。Jangiliと共に牧師たちのグループに会えたことを、心から嬉しく思います。私たちは様々な教会で御言葉を取り次ぎました。当時、妻が息子の一人を妊娠していたため、ノルウェーを離れるのは決して簡単なことではありませんでしたが、これが正しい道であるという確信がなければ、出発を躊躇していたことでしょう。しかし、旅もその後の出産も、すべては守られ、守り通されました。今回の旅で特に異例だったのは、誰かが地元の当局に賄賂を贈ったか密告したかして、Jangiliが家を不法に建てたという訴えを起こしたことでした。私たちの活動に対する反応だったのかもしれませんが、真実は分かりません。私が去った直後、彼らのもとに集団が押し寄せ、家族が路上で見守る中で家を破壊し、彼らを追い出したのです。それは残忍かつ迅速に行われ、牧師はショックのあまり入院してしまいました。彼はやがて回復し、後に地元の当局は自らの過ちを認め、全面的に謝罪しました。

Jangiliとその家族は当局から新しい建築資材を提供され、私たちも彼らが教会堂を併設した自宅を再建できるよう支援しました。それだけでなく、その場所で聖書学校を開くための公的な書類も整えられました。困難を通り抜けはしましたが、結局のところ、これらすべてが彼らにとって祝福となったのです。また、アジアの地で彼らを訪問し、すべての聖徒たちの信仰を強めるような奇跡や不思議を目の当たりにしたことは、素晴らしい経験であったと付け加えなければなりません。その一つが、食物の増し加えの奇跡でした（ヨハネの福音書 6:11-13）。私は食事が始まる前、牧師が話し始めるよりも前に、聖書にある食物の奇跡について霊の中で聞いたことを覚えています。その後、牧師は私にはっきりとこう言いました。「Jorn、私はこんなにたくさんのチキンを買った覚えはない一目に見えている量は、私が買った量ではないのだ。」彼には聖書の学生たちのための食料も必要でしたが、本来あるべき量よりもはるかに多くの食料がありました。それと同時に、Levangerにいる私の愛する人も、同じように食べ物が増え広がるという経験をしました。それはまさに驚くべきことでした。

また、ノルウェーに帰国した際、あるアジア人のクリスチャンが私に連絡をくれたことも記しておくべきでしょう。彼は私の妻とその両親について話してくれました。彼が実質的に私に告げたのは、私の妻は自分を私よりも賢いと思い込んでおり、彼女の両親は神のための宣教師であったが、彼らには何かが付きまとしており、それが神のために適切に働くことを困難にさせて

いるということでした。最初、私はそのようなことを口にする彼は無礼だと思いましたが、よく考えてみると、それが真実であることを理解しました。ここ数年、彼らの周囲で経験してきたことを否定することはできなかったのです。夫は妻を愛すべきですが（エペソ人への手紙 5:25）、妻が最大の敵となり、そのように振る舞うとき、彼女は不信者のようになります。この状況は過去5年間変わっておらず、子供たちとの間でも様々な課題が生じています。それは私が彼女に対して悪く接していいという意味ではありませんが、離婚後の今も、家族に関しては人生が少し困難であることを認めざるを得ません。そして神は、結婚するまでは将来の妻と結ばれてはならないと、私に明確に示されました。信者であり神を愛していると言いながら、結婚していないことは矛盾しており、愛の本質に関する神の御心にかなうものではありません（ヤコブの手紙 2:17）。これは前妻にも伝えたことです。行いと信仰は密接に関連していなければならず、少なくともそうあるために戦わなければなりません。話を2016年に戻すと、私は依然として求職中であり、アメリカでの聖書学校の旅を終えてノルウェーにいました。

2016年、私はLevangerにある Helseundersøkelsen Nord-Trøndelag (HUNT) 研究センターのシステム開発者の職に応募しました。応募者リストを見る限り、自分こそが最も適任な候補者だと思っていましたが、採用されませんでした。これには非常に驚きましたが、明らかにすべてに意味がありました。自分の中の何かが、理屈では分からなくても「これは私の仕事だ」と告げていたのです。その1年半後に、彼らが私をプロジェクト職で採用することになるとは、当時の私は知る由もありませんでした。それでも、この年に聖霊は、自分の本を出版する前に、聖書を出版することになると私に告げられました。私はそのことに自信が持てず抵抗しましたが、結局はその通りになり、次第にその考えに馴染んでいきました。

妻も出産休暇中であり、家計に余裕はありませんでしたが、私は失業手当の受給をやめました。古い聖書や、ヘブライ語・ギリシャ語辞典を含む聖書辞典をデジタル化するための出版エンジンを開発するために、昼夜を問わず働きました。これは、2012年5月に Kvinneforum Nordhordland のハウスフェローシップにいた時に受けた預言の通り、まさに織り合わされたのです。この出版エンジンは標準的なデジタルテキスト形式の書籍も作成できますが、教育目的以外ではまだ使用していません。聖書や辞書の資料は、著作権が失効しているものをインターネットから無料で収集しました。私がノルウェー語と英語で執筆した序文を翻訳するプロセスでは、計約40名の翻訳者を雇いました。2016年6月のうちに、自分でも驚いたことに、Amazonで30以上の出版物を出すことができました。売れ行きは極めてわずかでしたが、号砲は鳴らされたのです。ある朝、目覚めると、私の霊の中に次のような言葉が聞こえてきました。

私を遠く離れないでください。苦難が間近に迫っており、助けてくれる者がいないのです。

— 詩篇 22:12

この時、私は出版エンジンの開発に打ち込むあまり、体を酷使しすぎていました。さらに、世界の情勢についてのインターネット動画を見すぎており、それが何を意味するのかについて過度に神経質になっていました。「これで世の終わりだ」と私は思っていました。今思えば信じられないような話ですが、当時はあまりにも疲弊していて、冷静に考えることができなかったのです。神と共に過ごす時間を取らず、神以外のあらゆることに目を向けていました（マタイの福音書 6:33）。いずれにせよ、詩篇 22:12は、その後の2年間に起こる出来事に対処するための鍵となる聖句となりました。神が私に警告を与えてくださったことに深く感謝しています。全く新しい時代の幕開けが目の前に迫っており、事態が好転する前に困難な時期が来ることを、神は完全にご存知だったのです。

その年の後半に起こったもう一つの出来事は、夜中の3時に神が私に語りかけられたことです（詩篇 63:7）。私は休むことなく働いており、朝の5時や6時に就寝し、数時間だけ眠ってから起きて子供たちの世話をすることも珍しくありませんでした。妻も当時は仕事を持たず、末の息子二人の出産休暇中だったので、素晴らしいと同時に多忙な時期でもありました。私は少し子供のような心でいることが好きで、5人の子供がいることはその意味で祝福でした。

その夜、私は3時頃に横になりましたが、あらゆる作業と精神的なストレスで体はボロボロでした。ベッドに入ったちょうどその時、神が私に直接語りかけられました。今回は聖霊ではなく、父なる神が語られたのです。その言葉が与えられたとき、私の内側は震え、父なる神は英語で私にこう言われました。

As if I do not love to hear your voice.

— 2016年、夜中の3時に神が語られた言葉

父がその言葉を発せられたとき、同時にある種の充満と力が私を通り抜けるのを感じ、私は崩れ落ち、涙が溢れ出しました。El Shaddai（エル・シャダイ）が、直接「あなたを愛している」と言ってくださることを知ったのは衝撃でした。そして、神はご自身の子らが共に時間を過ごさず、神を求めないことを寂しく思っておられるのだと理解しました。これは私に対する神の計画の一部ではありませんでした。私は将来を思い煩うのをやめなければなりません。仕事は信じられないほど刺激的でしたが、私は不安を捨て

なければなりません。また、体を壊してしまうような、睡眠不足のまま夜通し働くこともやめなければなりません。

私が神に対して「El Shaddai」という言葉を使ったのは、これが初めてであることに気づかれたでしょうか？ この文章を書いているとき、私は霊の中で探求しており、その時に「El Shaddai」を使うべきだという思いが与えられたのです。その後調べてみると、これは主エホバが、アブラムに対して初めて名乗られた名前であり、聖書の中で「シャダイ」という言葉が初めて記された箇所であることが分かりました。それは、神がアブラムにご自身を現された時のことです。

アブラムが九十九歳になったとき、主はアブラムに現れて言われた。「わたしは全能の神 (El Shaddai) である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。わたしは、わたしとあなたとの間に契約を立て、あなたを大いに増やすであろう。」アブラムはひれ伏した。神は彼に告げて言われた。「見よ、これがあなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。あなたの名は、もはやアブラムと呼ばれず、その名はアブラハムとなる。わたしがあなたを多くの国民の父とするからである。」

— 創世記 17:1-5

El Shaddaiのヘブライ語を見ると、「El」は「神」を意味し、「Shaddai」は3つのヘブライ文字、Shin、DaletとYodで構成されています。**Shin** (シン) は焼き尽くすもの、飲み込むもの。**Dalet** (ダレット) は扉であり、しばしば物理的な世界と霊的な世界の境目や通路として用いられます。最後に**Yod** (ヨド) は、ヘブライ文字の中で最小の文字であり、ユダヤ的な考え方では原子のようなもの、最小のもの、神の爆発的な力と創造の力を象徴しています。すべてのヘブライ文字はその中にyodを含んでいます。文字の意味からすると、Shaddaiは神を次のように描写しているようです。「霊から世界への創造の力、創造と破壊の両方であり、一つの言葉にまとめるなら「全能」」。ヘブライ文字の象形文字 (ピクトグラム) は、それ自体が独自の理解の世界を内包しています。イエスが「わたしはアルファでありオメガである、最初であり最後である」(ヨハネの黙示録 22:13) と言われたとき、それはギリシャ文字の最初と最後の文字です。しかし、ヘブライ文字で見ると、それはアレフ (Alef) とタヴ (Taf) です。アレフは統一、強さ、指導者、第一の象徴です。**Taf** (タヴ) は横たわった十字架のような形をしており、意味としては印、記号、前兆、あるいは封印を指します。イエスが十字架にかかれたとき、主は「完了した」と言われました。それゆえ、主は始まりであり終わりなのです。これは、聖書のヘブライ語に隠されている氷山の一角にすぎません。

あの夜、神の声を聞き、このように私への愛を感じたことは、言葉で表現するのは難しいですが、今日に至るまで私に刻み込まれています。いずれにせよ、これは私だけのためではなく、だからこそあなたと分かち合っているのです。私は、私たちに対する神の愛の数え切れない証人の一人です（ヨハネの手紙第一 4:19）。たとえ私たちが目に見えない点のような存在であり、結局のところ無に等しい存在であっても、神は私たちを顧み、ご自身を現してください（詩篇 8:4-5）。それだけでなく、主はご自身の霊を私たちに与えてくださいます。私たちが経験する試練や拒絶にもかかわらず、私たち聖徒が経験する良きことは、根本的に全くもって理屈を超えた素晴らしいものなのです。

Levangerのわが家の近くに住んでいた若い女性の目に触れたのも、ちょうどその頃のことでした。彼女の幼い息子は夜になると苦しめられているようでしたが、ある時、彼女が私を見た瞬間、彼女の瞳の奥からまるで霊や悪魔が私を見つめ返しているかのように感じました。私は深い衝撃を受け、悪魔は時に、自らが苦しめている者の目を通してその姿を現すのだと、その場で悟りました（Mark 5:9）。その後、道で彼女とすれ違っても、彼女は決して私を認めたり挨拶をしたりすることはありませんでした。私はその理由の一部がそれにあるのではないかと思っていますが、彼女には自分が何を見たのかを伝えることはありませんでした。それは、霊的な戦いが現実のものであり、私たちが考えるよりもずっと身近にあるということ、厳粛に思い起こさせる出来事でした（Ephesians 6:12）。

# Chapter 30

## 年 Bønnesenteret i Levanger

2017年のことです。私は、アジアで数年間活動してきたアメリカからの宣教師夫妻に出会いました。彼らは、Håkon Fagervikが設立したLevangerにあるBønnesenteretにゲストスピーカーとして招かれていました。彼らは私のことを知りませんでした。私のために祈ってくれました。彼らが語ったのは、私が神のために多くのことを書くようになるということ（エペソ人への手紙 2:10）、そして時計を見るのを（時間に追われるのを）やめなければならないということ（マタイの福音書 6:34）でした。また、自分に必要のない物質的なものを神に求めてはならないとも言われました。少なくとも、私はそのように理解しました。そして、私の人生において予期せぬことが起こり、それは私が喜べるようなことではなく、自分の性格とは全く相容れないものだけけれども、それでもそれに対して「はい」と言うべきだと感じると告げられました（ヤコブの手紙 1:2-4）。これは、2017年8月に妻が私と別居するほんの少し前の出来事でした。

# Chapter 31

## 年別離

妻は、私から離れている間に連絡を取るつもりで、子供たちを連れて旅行に出かけていました。彼女から電話があり、電話越しに、私たちは二度と一緒になることはなく、私と別れると言われました。この時点で、神から与えられたMarcus Wickの言葉はほとんど忘れ去られていました。私は裏切られたと感じ、体はショック状態に陥りました。その後の夜は、これまでの人生で最悪の夜の一つであり、一晩中ひどい汗をかきました（詩篇 34:19）。私の体は、壊れずに夜を乗り切ろうと必死でした。まるで崩れ落ちてしまいそうな感覚でした。朝、神は私がこの状況を突き破るのを助けるために、一つの夢を与えてくださいました。

L' Oréalという文字が背景に見える中、二人のプロフェッショナルな女性が見えます。彼女たちは化粧品やそれに類する製品を販売しているようで、プロフェッショナルにスタイリングされています。すると、舞台セットが回転するように、画像全体が回転します。目の前に、西洋出身の、肌が白くブロンドの、驚くほどハンサムな男性が現れます。あらゆる細部が完璧で、彼は独特で印象的な服装スタイルと、これまで見たことのない髪型をしていました。彼の髪は片側が短くカットされ、もう片側はミディアム丈でした。彼は満面の笑みを浮かべて言いました。「私はこの国で4番目の大富豪だ！」

— 別離の翌朝の夢

私は彼の洗練された装いに完全に魅了されていましたが、夢が終わる直前、彼の外見は内面を反映していない、むしろその逆であるということを理解しました。神は、今起きていることに騙されてはならないということをはっきりと示してくださっているのだと気づきました。しかし、起こったことの必然性を真に理解するまでには、それから数ヶ月の時間を要しました。

別離は耐え難いものでしたが、それはあらかじめ定められていたことでした（ローマ人への手紙 8:28）。結婚、離婚、再婚について神の御言葉が何と言っているかについて、ギリシャ語とヘブライ語の原典を通して調べた詳細な研究については、姉妹書であるThe Case for Marriage ([junifye.publifye.pro/the-case-for-marriage](http://junifye.publifye.pro/the-case-for-marriage))を参照してください。その出来事から距離を置くにつれ、聖霊があらかじめ私に与えてくだ

さっていた警告を、よりはっきりと確信を持って思い出すようになりました。聖霊は預言的な言葉を通して、これから起ころうとしていることは私の本性に反することだが、それを受け入れるべきであると語られました。破壊的な出来事が起こる前に真実を語る預言的な証人がいることは、私たちが活動的で生きた教会を必要とする重要な理由です（コリント人への手紙 第二 13:1）。教会として、私たちは神が与えてくださった御霊の賜物を用いることを求め（コリント人への手紙 第一 12:7）、それを抑えてはなりません。聖徒たちへの警告として言いますが、教会の一部であり続けてください。それを拒絶しないでください。また、特定の教会に導かれたり、あるいはそこから離れたるように導く聖霊に対しても、私たちは心を開いていなければなりません。変化がいつ訪れるかを見極めるのは必ずしも簡単ではありませんが、それこそが御霊に導かれるということです。何よりも、私たちは自分たちをコントロールしようとする個人に対してではなく、神に対して自分の人生の責任を負わなければなりません。この点において、見分ける能力は不可欠です（ヘブル人への手紙 5:14）。内側に揺れ動くものを感じたときに祈りの中で神を求めるなら、私たちは導かれるでしょう。私の頭は分析的な思考や論理で一つのことを告げているのに、御霊はそれとは正反対の方向に導くということを、私は何度も経験してきました（箴言 3:5-6）。神の子供は、自らのコントロールを手放し、聖霊の導きに従うために信仰のうちに歩む勇気を持たなければなりません（ローマ人への手紙 8:14）。後になって確信が与えられることもあります、それには時間がかかることもあります。

夢の話に戻りますが、驚くべきことに、目が覚める頃には体の中のショックは消え去ってしまいました（詩篇 30:5）。私は、自分の周りで起きていることの外見に危うく騙されそうになっていたことに気づきました。数年間にわたり、妻は神のための私の働きを拒絶し、子供たちの前で様々な方法で夫としての私を卑しめてきました。私は冷静さを保とうと苦心していましたが、私が怒り、議論に走ることは状況を改善させませんでした。彼女は子供たち、家、車、食べ物、そして様々な活動を好んでいました。彼女は確かに新生していましたが、それでもそうだったのです。私に弱点があるのは事実ですが、彼女が長年にわたって私の過ちや欠点を分析し続けてきたことは、私には愛に根ざしたものだとは思えませんでした。そこには私が認識するようになったパターンがあります。自分の欠点に間接的に直面した配偶者は、責任を逃れるために180度転換し、非難を外に向けることがあります — それは現在 *gaslighting* と呼ばれるものです。私は何年もそのような状況の中で暮らしてきました。そのすべてが彼女の側で意識的であったかどうか、知っているふりをするつもりはありません。私の責任は、彼女のために祈り、彼女と話し合うことでした。私は祈りにおいて失敗し、コミュニケーションは本質的に一方通行でした。その事実は彼女も繰り返し認めていました。親しいおじは、ある時、子供たちの目の前で、私が彼らの誕生日を覚えているかどうか尋ねました。これは私の弱点の一つです。良く言えば「選択的記憶」ですが

、他の人はそれをADHDと呼びます。もっとも、それは大きなストレスによって引き起こされることもあります。私たちは皆、弱点を持っていますが、私たちの多くにとって最大の弱点は愛の欠如であると私は信じています。技術的な素晴らしさや有能さは、しばしば成功の外的な尺度となりますが、私の能力はおそらく「創造性、決断力、そして忍耐強さ」にあるのでしょうか。また、私は性格的に非常に子供っぽいところがありますが、それは私のパーソナリティタイプの特徴でもあります。

2017年は特別な年でした。別離の後になって初めて、2012年に「Women's Forum Nordhordland」で与えられた預言が、聖書と聖書辞典を「織り合わせる」私の働きに関するものであったことを理解したからです。その年、出版活動は飛躍的に加速し、Amazon、Google Play、Apple iTunesにおいて、TruthBeTold Ministryの名の下で2,000タイトルを数えるまでになりました。Amazon.comで検索して、ご自身で確かめてみてください。Google Playは、私の資料が独自のものではないことを証明できなかったにもかかわらず、ガイドラインに適合しないと主張して、2019年にそれらの出版物のほぼすべてを削除しました。巨大企業とはそういうものです。複数の支えを持っていない小さな会社は脆弱なのです。

キリストにある一人の兄弟が、別離の数ヶ月前に連絡をくれたことに触れておくべきでしょう。彼は、毎日電話で一緒に祈れるよう、神から電話するように言われたと言いました。神は明らかに、私たちが二人とも困難な人生の状況に陥ることをご存知でした。この特定の日に、私は彼に電話し、今見たばかりの夢について話しました。彼は完全に沈黙しました。しばらくして、彼は、自分の家主の父親がベルゲンで4番目の大富豪であることを告げました。その家主は、この兄弟が借り終えたばかりの家の敷金を没収した際、何の書類も提示しなかったため、私はこれをあの「満面の笑み」の裏付けとして理解しました。外見がいかにも完璧に見えても、それが神の前に正しく立っていることを意味するわけではないということを悟りました。夢の中の男は反キリストを象徴しています。彼は、非の打ち所のない完璧な外見を保ちながら、聖徒たちに敵対して働く者です（コリント人への手紙 第二 11:14）。

当時、末っ子の娘エンジェリンは4歳半でした。別離の数ヶ月前、彼女は夜にイエス様が自分のところに来られるのを経験していました。イエス様は彼女に、私たちの家族を愛していると言われ、彼女は翌日それを私に話してくれました。神はこれから何が起こるかについて、預言的な言葉を通して私に警告してくださっていましたが、別離が起こる前に、明らかに私の末の娘に彼女自身の平安を与えたいと願っておられたのです。別離の後、私は彼女に、誰がお父さんを家から追い出したのかと尋ねました。すると彼女は「神様」と言い、それから自分の答えに驚いたように首を横に振りました。それから彼女は不思議そうな顔をして、「ううん、ママだった! 」と言い直しまし

た。私は神が彼女を通して語っておられるのだと理解しました。それ以来、そのことは何度も私を喜ばせてくれました。

8月から12月までの5ヶ月間は過酷なものでした。この時期、良い友人だと思っていた人々が距離を置くのも経験しました。また、元妻側の親しい家族の友人の舌が蛇のように二つに割れているのを見る夢も見ました。その時は夢の意味が分かりませんでした。後になって、それが預言的であったことが分かりました。その時点で、2014年に預言者が別離について語っていたことを知る人は周囲に誰もいなかったと思います。神が実際に何を語っておられたのかが分かり始めたのは、それから数ヶ月後のことでした。驚くべきことに、私は幸いにも、2014年に3人の聖徒によって語られた内容の録音を持っていました。

その年、いくつかのことが重なり、私はヴェルダルのForbregdsmyra 9 0Aにあるシェアハウスに入居し、2018年3月まで部屋を借りました。養育費のために車を売らなければならず、最終的には生活費がほとんどなくなりました。私は生活保護を受けないほど頑固でしたが、別離から約1ヶ月後、アメリカへ旅行に行きました。そこで、聖書学校で出会った友人としばらく一緒に過ごしました。それは特別な時間でしたが、彼はこの旅行中に私が人々に神の祝福が注がれるのを目撃するたびに、その場から離れていきました。実は、私は元妻の勧めで、サウスカロライナ州マートルビーチにあるVineyardを訪ねるためにアメリカへ行ったのです。そこでは、Shiloh Place Ministriesが「父の愛の力 (The Power of a Father's Love)」というカンファレンスを開催していました。初日に入場したとき、私はKnobby Noblesから頬にキスを受け、心地よい驚きを覚えました。母はいつも寝る前に頬にキスをしてくれましたが、あのようなキスで迎えられたことは今まで一度もありませんでした。まるで家に帰ってきたような感覚でした。寝る時に継父に対しても同じようにしたことを思い出します。彼の家族にはそのような習慣がないことは明らかでしたが、私はそれでも続けました。

最後に、兄弟たちよ。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和に暮らしなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共におられてくださいます。聖なる口づけをもって、互いに挨拶を交わしなさい。すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています。主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にありますように。

— コリント人への手紙 第二 13:11-13

マートルビーチのカンファレンスで、二つの家族に出会ったことも記しておかなければなりません。一つ目の出会いは、私が浜辺に立ち、打ち寄せる

波と、水が岸を洗う中を行ったり来たりする鳥たちを眺めていた時に起こりました。突然、背の高いアフリカ系アメリカ人の男性が私の隣に立ちました。最初は気づきませんでしたでしたが、彼の妻も後ろに立っていました。二人とも主への喜びに満ちており、会話の中で彼らの体のいくつかの箇所が癒やされました。彼らがどこで苦しんでいるかを私が内側で感じ取ったからです。これまであまり語ってきませんでしたでしたが、聖霊が私たちに与えてくださる賜物の一つは、癒やしの権威です。これは、すべてが簡単であるとか、常に癒やしが起こるのを見るという意味ではありませんが、聖徒たちが御霊においてそのような賜物を携えているのは事実です。しかし、だからといって、誰もがその賜物を用いたり、それに関して信仰のうちに歩んだりしてはなりません。主にある喜びに溢れている聖徒の一人に、フレクハウグの姉妹 Elise がいます。彼女は街頭で多くの人々に神と共に歩むインスピレーションを与えており、主にある祝福された姉妹です。出会ったもう一つの家族は、イエス様との素晴らしい体験をしていました。ある日、彼らは私を迎えに来て、自宅に招待してくれました。彼らはまた、私に祈ってほしいという老夫婦も招いていました。私は、少し大きな声で祈っても大丈夫かと尋ねました。私が祈ると、その男性は顎の中で何かがパキッと鳴るのを感じました。通常、私は祈る際、特定の必要箇所だけでなく、その人の体全体に祝福を宣言します。彼は足が麻痺していましたが、祈りの後、再び足を動かすことができるようになりました。数ヶ月後、彼が教会に来る聖徒たちを立てて迎えていたと聞きました。起こったことは私たち全員にとっての祝福でした。アメリカの聖徒たちはまた寛大で、伝道者が神のために働く際、「空気と愛」だけで生きているわけではないことを理解しています。私はこのことについて何も言いませんでしたが、彼らは返礼として私を祝福することを選んでくれました。祝福が双方向に行き交うのを経験するのは、常に素晴らしいことです。

カンファレンスで一人の男性を見たとき、私は即座に自分に死の霊を感じました。まるで彼が死にかけているかのような感覚で、私はそれに威圧されましたが、何も言いませんでした。その直後、彼が亡くなったと聞かされました。これらが、近年に私が御霊において経験してきたことです。

このアメリカ旅行中にはいくつかのことが起こりましたが、そのすべてが容易だったわけではありません。友人は、その当時、神との歩みにおいて葛藤していました。私は神が彼の真の状況を彼に明らかにしてくださるように祈りました。その後、彼が見た夢がこれです。

夢の中で、彼は発展途上国にある建物の中にいて、中には人々がいました。その建物の中には何か邪悪なものがありました。普通の体を持ちながら、頭から大きな角が生えている邪悪な男がいました（ヨハネの黙示録 13:1）。彼は歩き回り、人々を殺していま

した。逃げ出せた者もいましたが、誰もが彼を真面目に受け止めたり、気にかけてくれたわけではありませんでした。これが、彼が夢から覚えていたすべてです。私はこの録音を持っていたので、このように詳細に書き留めることができました。

— 2017年の彼の夢

彼は最終的に、校内に武器を持ち込んでいたために聖書学校を退学処分になりました。それは校則違反でした。私は彼を助けようと時間を割きましたが、彼はそれを受け入れず、代わりに暗闇の中に引きこもり、私が差し出したものを拒絶しました。

2017年、私はヴェルダルのForbregdsmyraにある、他の二人の若者とのシェアハウスに部屋を見つけていました。仕事を見つけない私を愚かだと思ふ人もいたかもしれませんが、それが私の現実でした。私には教育もありましたが、多くの人々が聖書学校を履歴書の空白期間と見なす中、仕事を得るのは困難な闘いでした。しかし、私は忠実であり続け、神と共に過ごし（イザヤ書 41:10）、多くの作業が必要だったため、その半年間を出版エンジンの構築に捧げました。また、この時期にこの兄弟が私を裏切り、私たちの友情を悪用しました。それについて聖霊は私に警告してくださっていました。

彼はあなたを裏切ろうとしている。私はあなたを愛している。

— 聖霊 2017年

私はすでに彼に対し、父なる神と過ごす時間を疎かにすれば何が起こり得るかを警告していました。彼はそれを続け、別の女性と交際を始めました。彼は私が良い友人だと思っていた親しい兄弟であり、彼が生き延びるために神が必要であると知っていた危機的な局面で、私は彼を助けました。彼はその恩義に報いることはありませんでした。たとえ私が彼を悲惨な状況から救い出したとしてもです。

もしあなたが助けてくれなかったら、私は今日生きていなかったかもしれない。

— 2017年、一人の兄弟が言う

その年、神は私に、頑丈だが低い幹を持つ木を見せてくださいました。その頂には、みずみずしい緑の葉が茂る丸い樹冠がありました。葉の間には、ラズベリーとイチゴを掛け合わせたような、新鮮な赤い果実がなっていました。数は多くなく、木の頂に均等に広がっていましたが、その果実が良いものであることは分かりました。その木は私が取り組んでいたコンセプトを象

徴していたのだと信じています。太い幹は深い根を示唆しており、それは大きな成長の可能性を示しているとして私を勇気づけました。今になって、幹がいかにか木の年齢を象徴しているかを考えると、それは核となるアイデアの成熟度を示していたのかもしれませんが。そのイメージは、聖霊からの励ましであり、私の働きに対する承認であったと信じています。またその年、私はアメリカの老夫婦を通して神からの言葉を受け取りました。私がアメリカにいた間に共に働いた聖徒たちは、私のことを喜んでくれていました。神は彼らに、私に警告を与え、神の働きを続けるように求めるべきであることを示されました。

今は2017年12月です。子供たちの訪問を受けるのは困難でした。結婚生活から私に残されたのは、主にダブルベッド、机、コンピューター、いくつかの工具、そしてもちろん服だけでした。私は家族の所有物をこれ以上持っていきたくなかったので、元妻と子供たちがそれらを保持することを選びました。私は車を一台受け取っていましたが、収入がなかったにもかかわらず、養育費の要求を満たすためにそれを売却せざるを得ませんでした。元妻は、私が本来の能力を下回る収入しか得ていないと主張しました。それは事実であると同時に完全に間違いでもありましたが、その結果、ノルウェー政府は架空の収入を算定したのです。幸いにも、最終的に彼らは私の不服申し立てを認めましたが、その時にはすでに車は売却されていました。元妻は自分の行動を世間知らずのせいだと弁解しましたが、その後の数年間で同様の行動が繰り返されるのを見るにつれ、それが意図的であったことは明らかになりました。

あまり語ってきませんでしたが、それらの月日は恵みにも満ちていました。私は子供たちから10キロ離れたヴェルダルのシェアハウスに住み、持ち物はほとんどありませんでした。しかし、朝、私はお茶を片手に暖炉のそばに座り、父なる神と時間を過ごしました（詩篇 46:10）。この時期、私は小さな備えの奇跡を目にしました。

まだ2017年ですが、私は毎日忠実に神を求めています。隔週で行われる教会の礼拝に加え、週に一度のVineyardの家庭集会にも出席しています。この時点で出版エンジンは成熟しており、2018年までにAmazon、Google Play、Appleで2,000タイトル以上を出版することになります。私は、神の恵みを何度も何度も経験してきたことを謙虚に認めなければなりません。そして、主の慈しみに対して、何度も何度も主を賛美する以外に何もできません。

2017年は、レーヴァンゲルのKari Jartveitに出会った年でもありました。彼女は70代で、素晴らしい祈りの女性でした。彼女はレーヴァンゲルのStaupヘルスセンターに入院しており、そこで彼女の娘である姉妹 Hildeと共に彼女を見舞いました。カーリーは素晴らしく親切でしたが、話し方は率直

で、間違いなく神に愛されていました。病気であるからといって、新生していないとか神に愛されていないということではありません。もちろん違います。私が神が人の上に「喜びの油」を注がれるのを見たのは、これが二度目でした。それはカーリーが、全くの前触れもなく、また不随意に、喜びの笑い声を上げながら両腕を上げ始めた時に起こりました。悲しみと痛みの中で、神は彼女に喜びの油を与えられたのです（詩篇 45:7）。全くもって信じられないことでした！彼女自身は少し恥ずかしがっていましたが、私は目撃者でした。それはただ神の愛が起こっていたのです。祈り始める前でさえありましたが、主はそれほどまでに慈しみ深いお方でした。私は、数年前に自分自身が経験したのと同じように、それが彼女の上に注がれた喜びの油であるとすぐに理解しました。当時、私はNOKLUSで働いており、それが起こった時はバスルームに立っていました。カーリーにこれが起こったとき、彼女は首に巻いていたスカーフで自分を覆おうとしましたが、無駄でした。それが起こったとき、神の愛は目に見えるようでした。娘の姉妹ヒルデもまた、神からの預言的な賜物を持っており、それを用いることを恐れませんでした。母と娘は共に多くの時間を祈りに費やしてきましたが、私たちが一緒にいるとき、それははっきりと分かりました。彼女たちは二つの豆が鞘に入っているように（瓜二つで）、霊において親密であり、お互いを補い合っていました。カーリーは、自分が間もなく去ることを知っていたので、別の意味で悲しんでいました。

後になって、カーリーはある強力な事例について話してくれました。ポルノを見ることで配偶者を裏切った人物にどのような報いがあったかを、彼女は目撃したのです。私自身も2012年までこれを行っていましたが、その時に元妻に告白してやめました（ヨハネの手紙 第一 1:9）。カーリーは、その被害者である結婚生活における妻が、驚くべきことに霊に憑かれた時のことを話してくれました。起こったことは以下の通りです。夫と妻は互いの手を握り、夫はポルノなど見ていないと誓いました。その後、妻はカーリーのところへ行き、彼女の前で床に倒れ込みました。カーリーは何が起きているかを理解し、即座にその霊を追い出しました。被害者は後でそのことを何も覚えていませんでした。いずれにせよ、カーリーはその全過程の目撃者であり、私に打ち明けてくれました。カーリーはそれから間もなくして亡くなりましたが、私は彼女の輝きを覚えています。彼女は私が神のために働いていることを理解してくれた数少ない一人でした。当時の私には生活の糧があまりありませんでした。私が自分の状況について多くを語らなかつたにもかかわらず、彼女は私に食べ物をくれました。また、カーリーがある日話してくれたことを覚えています。理容師を職業としていた彼女の夫が、ある時、頬を涙が伝う中、突然リビングルームの真ん中に立ったことがありました。

カーリー： どうしたの！？ 夫： イエス様が私たちのリビングルームの真ん中に立っておられるのが見えるんだ。

## — Kari Jartveitと彼女の夫

残念ながら、カリーの夫は彼女よりもずっと前に亡くなっていました。もし当時の彼らの教会が活気にあふれ、注意深かったならば、彼の死は回避できたのではないかと私は推測しています。カリーも、妻を裏切った男があらかじめ預言的に警告されていたにもかかわらず、その警告が同じ教会内で「否定的だがユーモラスな」方法で拒絶されたことに言及した際、間接的にこのことを裏付けていました。

その秋のある日、外に立っていたことを覚えています。体の周りに奇妙な暖かさがあり、風が通り過ぎるのを感じるのが心地よく感じられました。いつもの自分とは異なり、シンプルなシャツかセーター一枚で十分でした。そこに立っている間、ふと下を見ると、5つの四つ葉のクローバーを見つけました。「5」という数字が、その日の残りの時間、私の心に刻まれました。なぜかは分かりませんでした。

今は2017年12月です。ある晩、レーヴァンゲルから10キロほど離れたヴェルダルの自室で、私はベッドに横たわっていました。悲しみと、物事がうまくいくことへの切望を感じていました。まさにその時、私は天の父に、自分なりにドアを開け閉めしようとしたけれど、何もかもうまくいかないのだと告げました。すると神は、すべてが好転すること、そしてこれから2年間の成熟期間があることを示してくださいました（エレミヤ書 29:11）。それは別離からちょうど5ヶ月目のことでした。クローバーの数と同じです。私はこれに非常に勇気づけられました。具体的に何が起こるかは分からなくても、眠りにつく前に、喜びが内側から湧き上がるのを感じました。神が意図されていたのは、私がすぐに新しい仕事を得て、約3ヶ月後に未来の妻と出会うということでした。神が2年間の成熟期間と言われたのは、具体的には Publifye という会社の立ち上げのことを指していました。それについては後で詳しくお話しします。

## Chapter 32

### 年新しいプロジェクトの仕事

2018年1月、LevangerにあるHUNT ForskningscenterのOddgeir Holmenから電話がありました。OddgeirはIT部門の中間管理職で、私がこれまで仕えた中で最も素晴らしい上司です。2016年に私の代わりに採用されたシステム開発者のAnders Smedegaard Pedersenが、ちょうど退職することになっていました。そのため、Oddgeirは彼の後継者として働ける人を探していたのです。プロジェクトは2019年5月に完了する予定だったので、Andersの跡を継ぐ人が必要でした。Oddgeir、Anders、そしてPer Bjarne Løvsettenとの面談が行われ、私はその年の1月15日から働き始めるようオファーをいただきました。おそらく、出版エンジンに関する私の仕事が説得力を持ったのでしょう。少なくとも、単一のデジタル出版物の中に100万件以上の内部参照を含み、数千ページに及ぶ出版物を構築できる出版エンジンを完成させたばかりだと話したことは、強い印象を与えたのだと思います。最大の出版物の一つは1000万件の参照と約15万のデジタルページがあり、この時点で私は20以上の言語で聖書を出版していました。これらの数字を出すのは少し大げさに聞こえるかもしれませんが、決して間違いではありません。物事がこれほど上手くいったことは、本当に素晴らしい喜びです。まさに、2012年5月にKvinneforum Nordhordlandの小さな女性グループに会った際、神様がすでに預言的に語っておられた大きな祝福でした。

私は自慢するためにこう言っているのではありません。神様は本当に、私が使うことを心から喜べるツールを私に与えてくださったのです（ペテロの手紙第一 4:10）。新しい時代が始まり、私はLevangerのHUNT Forskningscenterでの仕事を心から楽しんでます。これと並行して、私はマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書を、1冊につき2〜3言語の並行訳（1節ごとに各言語を並べる形式）で2000冊出版できるよう、2000枚の表紙画像を作成する人を雇いました。中国語、日本語、ロシア語もその中に含まれていました。出版エンジンがほとんどの作業を行うため、私の方の労力は驚くほど少なくて済みました。2000以上の出版物を出したと人に話すのは奇妙な感じがしますが、それが事実なのです。楽しくもあり、少し常軌を逸したこともあります。

私はこれらの出版物によって、雇用主に依存せず、より積極的に福音を分かち合えるような経済的基盤ができることを願っていましたが、どうやらまだその時ではないようです。

2018年は、後に私の妻となる女性と知り合った年でもあります。彼女を「将来の妻」と呼ぶのは、単純に私がこの文章を書き始めたのが2022年であり、過去を振り返って書いているからです。3～4年前に教会で彼女のことをわずかに知っていましたが、彼女のノルウェー語がまだ十分ではなかったため、当時はほとんど話したことがありませんでした。そんな彼女が、Levangerの難民収容所での夕食に私を招待してくれました。彼女のノルウェー語は明らかに上達していました。その時、彼女は私が別居中であることを知りませんでしたが、以前私が彼女のために祈った時に癒やされた経験があったため、喜んで私を招待してくれたのです。彼女はアジアの国出身で、神様を愛しており、イエス様がボートを使って危険な地域を導いてくださるなど、力強く救い出される体験を重ねてきました。私たちは自分たちの経験や神様と共に歩む道、そして聖書が何を記し、私たちに何を分かち合っているかについて語り合い始めました。私は彼女のノルウェー語を助け、聖書を教え始めました。私たちはすぐに親しい友人になり、神様が彼女は私の将来の妻であると示してくださった時、私は衝撃を受けました。何度か、聖霊様が彼女について私に語られるのを体験しました。神様は夢の中で彼女の過去の断片や、おそらく20年先にある私たちの未来を見せてくださいました（使徒の働き 2:17）。前の結婚は悲しみの章であったため、新しい妻を迎える計画などはなく、ただ神様のために一人で働こうと思っていました。しかし、神様は明らかに、私が独りで生きることを計画されてはいなかったのです（エレミヤ書 29:11）。私は通常、夜に神様が見せてくださる映像をその場ですぐに理解できるわけではありません。将来の妻の人生における重要な局面の短い場面を見せられた時も、同じように後から理解することになりました。

夢の中で、あるいは夜の幻として、一台の車が走ってきて道端に停車するのを見ます。すると、森の端から数人が出てきて、車の方へ歩いていきます。彼らが泥棒ではなく、車から何かを取り出しに来たのだと私は知っています。それが夢であり、いつものように私は自分が見ているものの意味を理解してはいませんが、それでも一人の目撃者なのです。

#### — 服を積んだ車の幻

私はこの夢のことを誰にも話さず、単なる偶然か、あるいは日中に見た何かの断片が夢に出てきただけだろうと思っていました。それから間もなくして、私が Leira Asylmottak の共同キッチンに座り、将来の妻となる女性が料理をしていた時のことです。彼女が唐突に、自分が12歳の時にどのように祈りを受け、それが彼女の人生をいかに変えたかを話し始めました。彼女が語ったのは、9歳から12歳の間、自分がいかに「手に負えない」子供だったかということでした。その原因は、ホメイニ（Khomeini）が権力を握った時に起こった激動の混乱にありました。彼女の父親はついに彼女に愛想を尽か

し、車いっぱい衣類や靴を詰め込みました。そして彼女を連れて、彼女のために祈ってくれる貧しいクリスチャンたちのところへ行ったのです。そのお礼として、彼らは靴や服を受け取りました。その時、私は神様がすでに夜の幻の中でこの光景を私に見せてくださっていたのだと理解しました。神様が、ある人の人生にとって決定的な過去の出来事を見せてくださったと言えるのは、これが初めてのことでした。それは、将来の妻となる女性がいる難民センターの共同キッチンに立っていた、ある日のことでした。

なぜ彼女はこれほどまでに神を愛しているのか？

— 内側から突き上げる問い

私の将来の妻は多くの苦難を通り抜けてきました。彼女が私の妻になることは理解していましたが、同時に神様は警告も与えられました。聖霊は、彼女が何度も私のもとを去るだろうということを示されました。それは、いわば「一点の狂いもなく」的中しました。肉体的にではなく、精神的にです。あらかじめその警告があったことで備えができていたので、私は感謝しています。これは、彼女の出身地の近親者からの深刻な脅迫によって芽生えた恐怖によるものでした。信仰のゆえにクリスチャンに死刑を宣告するアジアのある国で、信者として過ごした彼女にとって、それは極めて困難な時期でした。死の脅迫を受けることは、私の将来の妻にとって未知のことではありませんでした。「時がすべての傷を癒やす」と言われますが、自ら進んで赦しに取り組まなければ、自動的に癒やされるかどうかは疑問です。傷が広がるのをいくら防ごうとしても、予期せぬ体の部位にさらなる影響を及ぼすことがあります。神様が「赦されるためには赦さなければならない」と言われるとき、それはしばしば肉体の癒やしをも意味していると私は信じています。赦しは肉体的な傷を清めるようなものであり、それが体に自浄能力を与えてくれるのです。

もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してください。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちを赦して下さりません。

— マタイによる福音書 6:14

私の将来の妻は15歳で強制結婚をさせられましたが、結婚式の直前、彼女は疲れ果てていました。そこで彼女の母親は、彼女と姉を連れて、預言のギフトを持つクリスチャンの女性美容師のところへ行きました。

あなたは二人の男の子を授かります.....そして困難な時期を通り抜けますが、何年も経った後、遠く離れた国へ行くことになりま

す。そこで、あなたは一人の男性に出会います。彼は、沈みかけているのかろうじて留まっている船のように、あなたが人生を取り戻すのを助けてくれるでしょう。あなたの人生は最初の50年間は困難ですが、その後、好転します。

— 将来の妻への預言的な言葉

しばらくして、私は数年前に聖霊が語られた言葉を思い出しました。それは2015年にレヴァンゲル (Levanger) にあるヴィンヤード (Vineyard) 教会の集会に参加していた時のことでした。

彼女を得る者は幸いである。

— 聖霊は将来の妻についてこう言われました

私はこれに反応しました。なぜそんなことを知る必要があるのか分からなかったからです。それが理解できたのは2018年に入ってからで、聖霊が私のことを「幸いな者」として語っておられたのだと気づき始めました。このことは、私が将来の妻に対して抱いている喜びが単なる自分自身のものではなく、神の御前で正しいことなのだと受け入れ、理解する助けとなりました。結婚は人間同士だけでなく、神様との間でも尊重されるべき重要なものであり、実際には神様との関係こそがより重要です。私たちはすべてのことにおいて父なる神を敬うよう努め、誰に対しても不義を行ってはなりません。この年には多くのことが起こるはずであり、私は教会や信仰の近い友人たちが私を疑い、「女たらし」ではないかと思っているのを感じていました。それでも、私は確信を持っていましたし、彼女も同様でした。同時に神様は、私たちが結婚していない以上、結婚の喜びを分かち合うことはできないと言われました。結婚を汚し、神のからだに対して罪を犯しながら、どうして神のために働くことができるのでしょうか。

「すべてのことが許されている」と言いますが、すべてのことが益になるわけではありません。「すべてのことが許されている」と言いますが、私は何ものにも支配されはしません。食物は腹のため、腹は食物のためです。しかし神は、そのどちらをも滅ぼされます。からだはみだらな行いのためではなく、主のためであり、主はからだのためです。神は主を復活させ、その力によって私たちをも復活させてくださいます。あなたがたのからだはキリストの肢体であることを知らないのですか。キリストの肢体を取って、娼婦の肢体としてもよいのでしょうか。決してそんなことがあってはなりません。あるいは、娼婦と交わる者は、その女と一つのからだになるということを知らないのですか。「二人は一つ

のからだとなる」と言われているからです。しかし、主と交わる者は、主と一つの霊になります。みだらな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、みだらな行いをする者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。あなたがたのからだは、神から受けた聖霊が宿っておられる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないということを知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。

— コリントの信徒への手紙一 6:12-20

結局のところ、私たちは神に従い、自らのからだをもって神を敬うことを選び、今日に至るまでそうし続けています。起こった出来事について語り、分かち合えることはたくさんあります。いずれにせよ、私と将来の妻は数年後に大きな贈り物を授かることを知っています。聖霊はそれが何であるかを語り、見せてくださいました。こう言えるのは、私の将来の妻に預言を語った女性が彼女の姉についても語り、その言葉がすべての的中し、正しかったからです。聖霊が最初にこのことを語られた時、正直なところ、私は気が狂ったのではないかと思いました。しかし、神様がおよそ40年という期間にわたって語られたことには4つの証拠があります。少し前に、私がもどかしさから神様にこのことの裏付けを求めて祈ったとき、信仰の姉妹が、これが神様からのものであることを明確に示す夢を見ました。なぜ、自分が実際に何を言っているのか完全には明らかにしていないのに、あえて分かち合うのでしょうか。それは、未信者の方々に、天におられる神様が素晴らしく善い方であり、すべての人に希望があることを見始めてほしいからです。私たちの何人かは暗い谷を歩んでいます。私は自分が見聞きしたことをただ自分の中に留めておくのではなく、証ししたいのです。もちろん、プライベートなことで共有すべきでないこともあるため、常にすべてを話せるわけではありません。それは当然、バランスの問題です。いずれにせよ、神様は素晴らしい世界を創造され、御言葉と聖霊を通して私たちに愛を示してくださっています。私たちが神様に委ねるなら、神様は人生の浮き沈みの中で私たちを守ってくださいます（詩編 23:4）。神様は嵐の中で私たちの心を守ってください、私たちの全き献身と賛美を受けるにふさわしい方なのです。

私の将来の妻と話した預言者は第3の証人であり、彼女は35年前に同じことを語りました。第2の証人は私の将来の妻自身であり、彼女も私たちが受け取る贈り物を見て衝撃を受けましたが、神様は真に私たちに慈しみ深くあられました。これを書くにあたって私は少し秘密主義ですが、すべてを公にすることが正しいわけではないのです。

私には5人の子供がいますが、神はこの点に関しても私の前にあるものをすでに示してくださっています。この証が実際に起こるまでは、誰もがそれ

を受け入れるわけではないでしょう。しかし、後になって誰も私に反論できないよう、その一部をここに記しておきます。聖霊が示されたことがあまりに強烈で、それゆえに自分自身の救いさえ確信が持てなくなったほどで、実は私はこのことについて聖霊に抗ってしまったのです。神が未来の出来事を示されるとき、それが非常に個人的で身近なことである場合、時にショックを受けることがあります。その時、私は自分の救いに疑問を抱きました。いづれにせよ、神は善なるお方です。日々の生活の中で自分の子供たちとの近さを失うことは悲しみでしたが、私は神に深く感謝しており、これから起こることを喜んでいきます。これは私の婚約者自身、彼女が置かれている状況のためにあまり話したがらないことですので、そういうことにしておきましょう。ただ、神が私たちに求めておられることを、これからも私たちが成し遂げていけるようお願い、祈っています。

ノルウェーで11年間も亡命（アジール）を待つ間、人は多くの試練を通り抜けます。神は彼女に対して非常に慈しみ深くあられました。数年前、Levanger の Bønnesenteret で手を置いて祈ってもらった際、彼女の足の病が癒やされました。また、10歳頃から生理のたびに感じていた下腹部の痛みも、約3年前のとりなしの祈りの後に消え去りました（ヤコブ 5:16）。そして、彼女は精神面でもますます良くなっています。彼女は活動的で社交的な女性であり、地域社会に多大な貢献をしています。彼女の息子は2022年6月13日に、6年間の学業を終えて医師として卒業しました。

当初、私の婚約者の一人の息子は私のことを快く思っていませんでした。ちょうどそのことについてですが、ある日、彼女が10年以上前に神からどのように励ましを受けたかを話してくれたのを覚えています。その時、彼女は息子の一人が髭を蓄え、白い衣を着て、医師として廊下に立っている姿を見たのです。これは彼らが Tyrkia にいた時に示されたもので、当時はその息子が学校に通い、教育を受けることなど不可能な状況でした。今でこそ簡単に話していますが、当時の彼らの人生において、それは決して簡単なことではありませんでした。ですから神には、彼女を励ます正当な理由があったのです。このようなことが実現していくのを見るのは特別なことですが、後になって、なぜ聖霊が「彼女を妻にできるお前は幸運だ」と言われたのかを理解しました。聖霊の御言葉は、実際にそれが起こるのを見て初めて理解できることが多く、それは数ヶ月後、あるいは数年後になることもあります。皮肉なことですが、私の前妻は私の欠点を見つけ出すことばかりに執心し、私の行動が実際に神を喜ばせているかどうかには無頓着でした。私は、聖霊から叱責されるよりもずっと多く、人々からその振る舞いについて批判されてきました。しかし、はっきりさせておきますが、聖霊からも叱責されたことはあります。しかも、何度もありました。

婚約者と共に過ごす時間の中で、私は彼女が伝道者であり、福音を分かち合うことに対して神からの炎と愛を持っていることを見ています。彼女は非

常に社交的で、周りを助ける力のある人です。私が Øygarden を去る1週間ほど前、Sotra の Sartor Senter にある Tremorkirken på Sartor Senter på Sotra にいた時、神が最後に彼女に語りかけられました。そこで神は、5ヶ月後に私たちが共に働き始めることを彼女に示されました。それは2022年6月19日のことでした。父なる神が彼女に直接語りかけ、日付を与えられたのはこれが初めてのことでした。それは、その数日前に私たちが一緒に祈り求めていたことそのものでした。父は私たちの祈りを聞いてくださいました。全く素晴らしいことです！それは、物事が常に簡単であることを意味するわけではありませんが、これから来るものに対して、私は大きな平安と喜びを感じています。ともかく、少し先走りすぎてしまいましたね。しかし、私の婚約者がどのような人かを知ってもらうために、少し彼女について分かち合いたいと思ったのです。

私と婚約者の交際が始まって間もない2018年頃、聖霊は彼女が må på gulvet (床にいななければならない) と私に示されました。私はその意味が分かりませんでした。その直後、私が彼女のために祈っていると、彼女は倒れ込み、床の上で私の腕の中で眠りにつきました。私は祈りが終わるまで祈り続けました。彼女がやがて目を覚ました時、それはまるで赤ん坊の目を見ているようでした。私はその体験を忘れることができません。それが何であったのか、正確には分かりませんが、彼女がある種の清めを通らされたのだと信じています。それが預言されていたことであり、必要なことだったのだと分かっていました。彼女が眠っている間、私は彼女の上で異言で祈りました。なぜなら、その時は私たちの知性ではなく、御霊が祈ってくださっているのだと分かっていたからです (ローマ 8:26)。

付け加えたいのは、その年、聖徒のうちの二人である彼女の息子と 兄弟 Ole Martin が私のところに来て、私を damejeger (女たらし) になぞらえたことです。人々は私の背後で私と婚約者について事実無根の噂を流しており、彼らは起こっていることが正しいことなのか不安に思っていました。また、彼女も私と知り合う前に行っていたすべてのことにおいて、神の御前で正しいことをしていたわけではなく、この面会もその結果でした。彼女の息子は彼女のことを心配していたのです。私たちは皆、過去の結果として生きており、真理に至ったとき、恐れや戦慄を捨て去ることを学ばなければなりません。これは私の兄弟姉妹と同様、私自身にも当てはまることです。自分たちの身内に対して告発をする場合、それは正当なものでなければならず、愛をもってアプローチしなければなりません。ここではそうではありませんでした。しかし、私は彼を良き兄弟として知っていますし、彼が少し踏み込みすぎたことも、今では全く気にしてはいません。ただ、それは全く不必要なことでした。私の婚約者は、実際問題として、その後6週間にわたり私から遠ざかるよう圧力をかけられました。このように告発されたことはショックであり、その期間、私はエネルギーを完全に使い果たしていました。その

時、聖霊が私に語りかけ、非常に具体的な「名前」を私に与えてくださいました。その名前は、今日に至るまで私の喜びとなっています。それだけでなく、聖霊は私に警告も与え、私と婚約者が後に rote det til (しでかしてしまふ) ことになるだろうと言われました。そして実際に私たちはそうなってしまい、後にそこから立ち返ったのです。それは聖霊からの慰めであり、同時に戒めでもあったと言えるでしょう。この時期の少し面白い話として、皮肉なことに、私は毎晩9時間から10時間も眠っており、それが HUNT Forskningscenter での仕事に良い影響を与えていました。夜に脳がしっかりと休息できたため、仕事でのパフォーマンスは実に素晴らしいものでした。これまで私が仕事で力を発揮できていなかったのではないかと問われるかもしれませんが、そんなことはありません。私のしたことはすべてうまく機能しており、Oddgeir も私の仕事に非常に満足していました。私は彼らが必要とするすべてのことを吸収し、私の以前の時期に導入されていた重大なエラーを見つけて修正し、ツールを開発し、求められた以上のことを成し遂げました。また、Folkehelseinstituttet のプロジェクトも完遂し、後にも同様の成果を上げました。技術面ではすべてが完璧に機能しており、HUNT で働いている間に Golang も習得したため、仕事は非常に充実していました。

# Chapter 33

## 年 研究センター

2019年半ば、私はレヴァンゲルのHUNT研究センターでのシステム開発者としてのプロジェクト任期を終えました。その後、私はアジアへ旅立ち、一人の牧師と共に山地へと向かい、現地の牧師グループと共に分かち合い、活動しました（マタイによる福音書 28:19）。

そのアジアの国での滞在中、聖霊が特定の場面で私に語りかけ、私は主の口となって人々に勧告を与える役割を担わされました。一度は、教会の長老の一人が主に対して罪を犯した時でした。私はその事実を知りませんでした。自分の目で見ると、霊の内ですべてを強く感じていました。二度目は、あるクリスチャンの医師が病に伏し、地面すれすれの担架の上で完全に麻痺して横たわっていた時でした。彼は尿の臭いがしていました。聖霊は、その状態が自業自得であることを私に告げ、私はそれに従って彼にそのことを伝えなければなりません。彼の目からは涙が溢れ、私の言ったことが正しいと告白し、自分の行いを認めました（ヤコブの手紙 5:16）。私たちが彼のために祈ると、その時から癒やしが始まり、数ヶ月後には再び自分の足で立てるようになりました。彼は高齢であったため、麻痺からは回復したものの、残念ながらその後間もなく亡くなりました。

宣教旅行から戻った後、私は仕事探しを始めました。いくつかの面接に呼ばれましたが、結果は得られませんでした。8ヶ月が経過し、私は少し諦めかけて、温めていた新製品のアイデアを試すプロセスを開始しました。私はヴェルダルにある、自治体から委託を受けた第三者機関 Proneo AS を通じて、このアイデアを評価してもらいました。私は、すでに開発していたものの完全なレポートと、新製品のアイデアを持って彼らを訪ねました。リーダーは驚いた様子で、彼が用意していた質問の答えは、すでに私のレポートの中に書かれていました。

Proneoはそのアイデアに賛成してくれ、私はNAV（労働福祉局）に支援を申請しました（箴言 16:3）。その内容とは、デジタル書籍の作成を支援し、それを自作または購入した辞書と統合させ、すべてをオンライン販売やデジタル配信できるようにする新しい製品についてです。今日、私が知る限り、市場にこのような同様のツールは存在しません。振り返れば2012年、Kvinneforum Nordhordland が「あなたが誰も成し遂げたことのない新しいことをするだろう」という預言的な言葉を語ってくれました。それは物事

を織り合わせる（統合する）ということでした。これは、かつての出版エンジンともよく合致しています。

数週間の審査期間を経て申請が通り、私は自宅オフィスで1年間の開発をスタートさせました。以前書いたように、2017年12月に神様は、2年間の成熟期間があると私に言われました（伝道者の書 3:1）。申請プロセスを開始した時、ちょうど2年が経過していたことに、私はその時気づきました。そしてNAVからの支援が始まったのは、ノルウェーがロックダウンされたのと同様の日でした。新しいツールの開発開始時期が、失業手当の受給期間が延長され、さらに失業手当に休暇手当が付与されるようになった時期と重なったことに、私は衝撃を受けました。

政府が失業者への追加支援を導入する中、私は1年間自宅で仕事をしていました。そして、NAVから12ヶ月間の在宅ワーク支援の承認を受ける直前、私は自分の部屋の一つを片付けている夢を見ました。同じ頃、私の婚約者（現在の妻）も、私のリビングにたくさんの段ボール箱があるのを見る夢を見ました。私はその意味がわからず、少し奇妙に思っていました。婚約者は、寝室の一つをホームオフィスとして使おうと提案し、私たちはそこを片付けていました。私はベッドをリビングに移動させ、同時にリビングと屋根裏の収納スペースを整理しました。リビングの床にすべての段ボール箱があり、寝室が片付いているのを見た時、神様が何をされたのかを悟りました。天の父は2年前にこのプロジェクトについて語られ、同時にその開始の様子を私たちに示してくださっていたのです。神様が共におられないのにこのようなプロジェクトを引き受けるのは不安でしたが、後になって、父なる神がこれを示してくださったことに安堵しました（フィリピの信徒への手紙 1:6）。

この年、私は父のことで強い不安を感じていました。父が私を訪ねてきた時、何かが決定的に間違っていると感じたのです。私は、自宅のすぐ近くにある川で父に洗礼を授けたいと言いました。しかし、彼は残念ながらそれを即座に拒否し、フィリピンへと旅立ちました。この時、私の心に父に対する平安はありませんでした（ローマの信徒への手紙 9:1-2）。

# Chapter 34

## Forskningscenter (2020)

2020年の年明け、私は自社製品のパイロット版を完成させるべく働いていました。物事はうまく行き始めていましたが、同時にNAVからの支援が切れた後、仕事もお金もない状態でどうなるのだろうかという不安もありました。そんな時、米国で夫と共に牧師夫妻として活動している信仰の姉妹が、Facebookを通じて私に連絡をくれました。彼女は、私がFacebookに投稿した内容の中に正しくないものがあると教えてくれました。私は感謝してその投稿を削除しました。彼女は私の謙虚さに驚き、その時、聖霊が彼女に語りかけ、私に経済的な突破口（ブレイクスルー）が訪れることを示されたのです。また、彼女は、これからの主のための私の働きに関する祈りを、神様が聞いてくださったとも告げてくれました。これが何を意味するのかと思いを巡らせましたが、これから起こることに意識的に冷静でいようと努めました。それは必ずしも簡単なことではありませんでした。今後どのように生計を立てていくか、いくつかのシナリオを検討していたと言わざるを得ませんが、神様は私に与えられた二つの夢を通して、私を諭してくださいました。一つ目の夢では、Vasaskipet（ヴァーサ号）が出航直後に急速に沈没するのを見ました。二つ目の夢では、私は天井の高い細長い部屋の中を飛び回り、その内側で愚痴をこぼすスーパーマンのように振る舞っていました。私は、神様が「これからの計画を立てようとすることは無益であり、私は今この時のためにここに置かれているのであって、主が私を置かれた場所について不平を言うべきではない」と示しておられるのだと理解しました（イザヤ書 55: 8-9）。このことは私を安心させてくれました。

NAVからの支援が終わる直前、私はOddgeirに連絡を取りました。すると、この年にはHUNTから確かなコンサルティング業務の依頼があり、さらに出版した出版物の販売ロイヤリティも入ることになったのです。言い換えれば、経済的な問題はすべて解決しました（フィリピの信徒への手紙 4:19）。付け加えるなら、この年に私がForskningscenteret（研究センター）のために構築した製品は、現在彼らのAldring i Trøndelag (AiT) および2年間続く予定のCOVIDプロジェクトで使用されており、期待通りに機能しています。

完璧に機能しています。

— Oddgeir Holmen からのフィードバック

子供たちは元気にはしていますが、私たちは皆、いつか神様の御前に立ち、自分の人生や、配偶者、そして聖徒たちに対して取った選択について申し開きをしなければなりません（ローマの信徒への手紙 14:12）。元妻や子供たちに関してもっと違う見方をすべきだった点もありますが、離婚はこのことの一部ではありません。

この年、Levangerの難民収容施設が閉鎖されました。私の婚約者は新しい収容施設に移ることになりましたが、神様から「これからしばらくの間、状況が少し難しくなる」と警告されていたため、彼女は少し不安を感じていました。同時に、神様は「待機期間は終わった」とも仰いました。具体的な時期については示されませんでしたでしたが、私たちは忍耐強く待たなければなりません（ヘブライ人への手紙 10:36）。今年の初め、私は彼女のノルウェーでの福音伝道活動の書類を集め、記録にまとめました。これはNorsk Organisasjon for Asylsøkere (NOAS) に送られました。そこには、彼女の活動を保証する5組の夫婦とSharonの息子からの手紙が含まれています。予定されていた審査期間は最長12ヶ月で、9ヶ月程度と予想されていましたが、現在、UNEからの連絡がないまま18ヶ月目に入っています。

2019年に感じていたBjørnに対する不安が、この年、的中しました。彼はフィリピンに滞在中、不慮の事故で撃たれたのです。医師たちは、もし弾丸が肋骨に当たって体内で方向を変えていなければ、おそらく死んでいただろうと言いました。彼らは、彼が天使たちの助けを得たに違いない（詩編 91:11）、生き延びたのは明らかに奇跡であると考えました。彼が出発する前に川で洗礼を授けたいと願っていましたが、彼はそれを拒みました。彼に対して感じていた不安は現実のものであり、その時まで彼が本当に神様の御手の中にいるのか確信が持てなかったのだと、今では理解しています。誰かに尋ねられたとき、洗礼のことも、その前に起こったことも、彼が謙虚に認められるよう願っています。いずれにせよ、それは彼のせいではなく、隣に座っていた人物に対する殺人未遂事件の被害に遭ったのでした。動機は経済的な債務を抹消しようとしたことでした。

# Chapter 35

## 年 Publifye AS

2021年を迎え、NAV（ノルウェー労働福祉局）からの支援を受けて活動してきた期間も終わりに近づきました。私は今、Publifye AS を設立します。将来、多くの人々がこの製品と、その背後にあるリソースを喜んでくれるようになることを信じています。これは、学校や組織、そして個人が、学習や読書に対してより大きな意欲（エンゲージメント）を生み出すためのツールです（ローマ人への手紙 11:29）。教師や学生、生徒たちが自ら文章を書き、そこに辞書を織り込むことができるようになります。これは市場においても全く新しい試みです。これを構築する知識の一部は、数千冊のデジタル書籍を作成し、数百万ものリンクを辞書と結びつけ、複数の配信業者や技術的ソリューションを扱ってきた私の経験に基づいています。

2014年、アメリカを離れる前に預言的な言葉をかけられた際、ある預言者は私に「あなたはクリエイティブである」と言いました。それはまさにその通りです。また、前途に困難な時期が待っているとも言われました。しかし、私は物事を創造することが好きであり、それをどのように成し遂げるかを見通す力を持っています。そして、この働きは私たちを困難な時期から連れ出す助けとなるでしょう（箴言 16:3）。

実の父のことについてです。この年、父が訪ねてきたとき、私は率直に父と向き合い、イエス・キリストへのバプテスマを受けるよう勧めました。父はためらっていましたが、やがて「はい」と答え、Levanger の川で私と私の婚約者によってバプテスマを受けました。私自身、これが正しいことなのか確信が持てず、神様に印を求めました。すると、信仰の姉妹である Maryam が、まず父が牢獄の中にいる幻を見、その後に父が牢獄の外に出ている幻を見たのです。父は水兵帽をかぶり、白い髭を蓄えており、イエス様と私が父の後ろに一緒に立っていました。Maryam は私の父に会ったこともなく、父がかつて船乗りであったことも、白い髭を生やしていることも知りませんでした。ですから、その言葉は私を安心させてくれました。Maryam はまた、バプテスマの直前に「お父様はおそらくこの週末にバプテスマを受けるでしょう」というメッセージを送ってくれました。すべてが寸分違わずその通りになりました。Maryam が受けた光景は、神様がバプテスマを通じて父を自由にされたことを明確に示しており（ローマ人への手紙 6:4）、私にとって十分な確信となりました。

父の亡き妻である Ragnhild も、亡くなるわずか数ヶ月前にイエスの「贈り物（救い）」を受け入れていました。その時、神様は彼女が息を引き取る直前に私を Bergen へ行くよう促されました。私が介護施設の部屋に入ると、彼女は目の前で太陽のようにパッと明るくなりました。彼女は人生の大部分で苦労を重ねてきましたが、その姿を見られたのは素晴らしいことでした。あの日、あの部屋には天使たちが私たちと共にいたと確信しています。私が福音を分かち合うと、彼女はイエス様を受け入れました。たとえ頭では何が起きているのか理解できなくても、人はイエス様に「はい」と答え、新しく生まれる（ヨハネの福音書 3:3）ことができるのです。私自身がそれを経験したからです。そして、神様がその恵みと力によって約束を守り、Ragnhild も父も、その安らかな御手の中に抱いてくださっていると信じています（フィリピ人への手紙 1:6）。

私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的な祝福をもって私たちを祝福してくださいました。すなわち、神は私たちが御前で聖く、傷のない者となるようにと、世界の基が据えられる前から、キリストにあって私たちを選んでくださいました。神は、みこころのよしとするとところに従い、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。それは、神がその愛する御子にあって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。この御子のうちにある、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。神はこの恵みを私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と悟りをもって、みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子のうちにあらかじめ立てられた御計画に従って、時が満ちるに及んで実行されることであり、天にあるものも地にあるものも、一切のものがキリストにあって一つにまとめられることなのです。このキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者ともなりました。あらかじめ定められていたことによるのです。すべてのことをみこころの計画どおりに行われる方の目的に従ったことです。それは、早くからキリストに希望を置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。またあなたがたも、キリストにあって、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊の証印を押されました。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。それは神の民が贖われて、神の栄光がほめたたえられるためなのです。

— エペソ人への手紙 1:3-14

この年は、私の婚約者が神様から「状況はこれから良くなる」「水平線に光が見える」という光景を受け取った年でもありました。これは2022年6月、Sotraにある Tremorkirken において、神様によって具体的に裏付けられました。

神のみこころと御霊の賜物を求める教会もありますが、私は、神の霊に導かれた敬虔な「聖徒たち」が教会にいる姿を見たいと切に願っています。残念ながら、多くの教会が神の力と聖霊を否定しています。

見えるところは敬虔であっても、その実、敬虔の力を否定する者です。こういう人々を避けなさい。

— テモテへの手紙 第二 3:5

神の力がなくて、どうして教会は福音が前進することを期待できるでしょうか（コリント人への手紙 第一 4:20）。人々は自分たちが何を失っているのかを知りません。私たちは神のことではなく自分のことを追い求めています。外見が立派に見えても、霊が死んでいては命はありません（ローマ人への手紙 8:6）。救われた後、私の心には苦い思いが残りました。以前 Den Norske Kirke（ノルウェー国教会）にいた際、自分の口で告白し、成人バプテスマを受け、聖徒たちが私に手を置いて祈る（按手）ことによる祝福を受ける必要があるという真理を、教えてもらえなかったからです（ローマ人への手紙 10:9-10）。

## Chapter 36

### 年 これからの道

2022年の半ば、私は将来の妻となる彼女が滞在許可を得て、共に働きを始める日を楽しみにしていました。しかし、それは実現せず、Tingretten（地方裁判所）は彼女の訴えに全く耳を貸そうとしませんでした。実のところ、私たち二人は1年ほど前に、この手続きが、あえて言うならば「公明正大」なものにはならないという夢を見ていました。それにもかかわらず、私は平安の中にいます（フィリピの信徒への手紙 4:7）。正直に言えば、ノルウェー国家に裏切られたような気持ちになりましたが。そして夢が私たちに示したのもそのことでした。つまり、事務処理のシステムがまるで排水管のような状態であるということでした。

以前、難民申請者に支給される額は毎月わずか2,000クローネほどでしたが、3,000クローネに引き上げられました。これで食費、衣類、交通費を賄わなければなりません。一つの家には大人数で住んでいるため、電気ケトルを使うとブレーカーが落ちてしまうという難民申請者たちの話も聞いています。冬場には数日間、メインの暖房が止まってしまい、厚着をして寝室の小さなヒーター一つで凌がなければならなかったこともありました。通常、彼らは寝室やバスルームを複数人で共有しなければなりません。このような状況であっても、私たちが祝福されていないと言うことは困難です。なぜなら、私たちは本当に祝福されているからです。私たちは人々と分かち合い、議論し、神を求め、喜び合い、教会に通ってきました。彼女は何年もの間、教会の内外でボランティアとして働いてきました。彼女は Den Norske Kirke や Levanger の Vineyard で働き、老人ホームでお年寄りのお世話をし、そこや Trondheim の Sanitetsforeningen の会員でもありました。彼女は今いる場所で人々に福音を伝えることに熱心であり、私たちが時間、資源、私生活において従順であるならば、私たちの伝道活動は今後さらに拡大していくでしょう。私たちは共に人々に洗礼を授けてきました。彼女は集会にも参加しており、アメリカを含む世界中の牧師夫妻とのビデオ会議を通じて結婚講座にも参加しています。

2022年6月の Øyarden への山小屋旅行の際、私は Øyarden で一人の少年に出会いました。彼は、自分の従姉妹が聖霊の声を聞き、その後数分間、言葉を失うほど圧倒されたという話をしてくれました。他者の人生における聖霊の証しを聞くのは、いつも素晴らしいことです。私は滞在中、この少年とその友人の少女を含む数人の若者に福音を伝えました。

その後、Øygarden Terminal で別の若者のグループに出会いました。ここでは、一人の少女の膝に手を置いて祈ったところ、彼女の膝が癒やされました。その前夜、私は誰かが浅瀬で亡くなる夢を見ていました。すると、そのグループの中の一人の少年が、今年の春にプールで溺れて死にかけたが、数分後に蘇生したと話してくれました。これは新聞にも載った出来事で、彼はスマホでその記事を見せてくれました。その時初めて、私は神が前夜に見せてくださったことを彼らに話しました。神がこのようなことを示してくださることで、私は言葉だけでなく、力を持った神の生ける証人とされるのです。若者たちに伝道する際、多くの質問を受けることがよくあります。そのため、事前に神を求め、祈り、御言葉を学び、神が与えてくださったものを深く味わっておくことが重要です。そうすることで、彼らのどんな疑問に対しても、たじろぐことなく答えることができるのです。

若者たちに伝道する時、私は一人の人間として非常に活動的になります。内側から炎が燃え上がるように感じるからです。神が共におられることを期待すべきであり、一人ひとりのために祈る時、しばしば印と不思議が伴います（マルコによる福音書 16:17-18）。私たちは神を信頼し、たとえ常に目に見えなくても、癒やしが起こり、人々が痛みや問題から解放されることを信じなければなりません。洗礼が彼らを死から解放することを信じるのも、同じように重要です（ローマの信徒への手紙 6:4）。しかし、私はパウロが語ったように、常に相手のいる場所に歩み寄るよう努めています。神が私を人々のもとへと導き、彼らを照らし出してくださるのを感じます。時として素晴らしい喜びを経験しており、この働きの継続がすぐ目の前に迫っていることを確信しています。

2022年7月13日に、次のようなことが起こりました。

私はあるイスラム教徒の女性に、イエスが教えてくださったように（マルコによる福音書 10:18）、神おひとりだけが善いお方であることを話し、分かち合ったところでした。そして今、神は焼き尽くす火であり（ヘブライ人への手紙 12:29）、人は父なる神を見ては生きていられないこと（出エジプト記 33:20）について話していました。突然、彼女は頭を横に振り、私の目が「色を変える」ので、直視することができないと言い出しました。続く15分ほどの間に、このようなことがおそらく3回起こり、そのたびに彼女に明らかな恐れが臨み、彼女はすっかり動揺してしまいました。神のために働くとき、奇跡が起こることは十分に承知していますが、このようなことは私にも経験がなく、私は驚き、答えを求めて神を仰ぎました。私は、目の前の女性が自分の罪を清められることを望んでおらず、神が私の目を通してご自身の一部を現されたとき、それに耐えることができなかつたのだと信じていま

す。このことが起こる前、彼女は決してイスラム教徒であることをやめないと断言していました。サタンがこの経験までも彼女から盗み去らない限り、彼女が起きたことの重大さを理解し、今後どうなっていくかが問われています。

— 神との出会い

言葉と行いにおいてイエスを主であり師であると告白する者には、印と不思議が伴います。彼女がその目を見たことを、後になって否定することはできないでしょう。また、私は真理を濁して、誰もが天国に行けるなどと言うつもりもありません。神の独り子であるイエス・キリストこそが、道であり、真理であり、命なのです（ヨハネによる福音書 14:6）。私たちは罪から清められるために、彼を受け入れなければなりません。

そして、彼らに言われた。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。」

— マルコによる福音書 16:15-16

神が私の将来の妻に、私たちが共に働きを始めるまでに残された具体的な月数を示されたとき、それは彼女の目の前のスクリーンに文字が現れたかのようでした。彼女は少し呆然としていましたが、彼女が後でそのことを話してくれたとき、私はスマホで録音することができました。この数年間に父なる神が私と彼女になしてくださったことは、大きな祝福です（詩編 103:2）。

私は現在、福音を広めるために活動しているアジアの働き手たちとの協力を開始しており、それを進めています。

2026年の今、こうして書き留めている通り、私と5人の子供たちの関係は良好です。彼らはこの先のイースターを含め、都合がつくときには私の元へ集まってくれます。子供たちが自由に出入りできる家庭を築ける日が来ることを心待ちにしています。婚約者の亡命申請は8年経った今も未解決のままであり、ノルウェーの法律の下では、私たちはまだ結婚を許されていません。私たちは待ち続け、神の時を信頼しています（ハバクク書 2:3）。2022年以降、多くのことがありましたが、ミニストリーと出版活動の両面において、働きは続いています。そして、これからの章こそが最高のものになると信じています。

まだ語り尽くせていないことはたくさんありますが、この回想録が、私の信念と神が私をどこに置いておられるかを示す手がかりとなることを願っています（エレミヤ書 29:11）。

## Chapter 37

### イエス・キリストとは誰か？

いつか、旧約聖書と新約聖書において、実際にJesus Christ（イエス・キリスト）がどのようなお方であるかについて書きたいと思っています。多くの人は、イエス・キリストが単に神の御子であるだけでなく、私たちが創造されたお方（コロサイ人への手紙 1:16）であることを理解していません。イエスは、ご自分を見る者は神を見るのだと言われました（ヨハネの福音書 14:9）。「神」という言葉は父、子、聖霊を指しますが、ヨハネの福音書は、多くの人が夢の中で体験していること、すなわち、イエスを通してでなければ何一つ造られたものはないということを裏付けています。それにはあなたも私も含まれます。イエスは夢の中で多くの人々に真の姿を現し、ご自分が神であることを告げておられます（ヨハネの福音書 10:30、イザヤ書 9:6）。これは聖書と一致しており、偶然ではありません。それはパラドックスではなく、だからこそイエスは、ご自分を見た者は神を見たのだと弟子たちに言われたのです。同じ理由で、多くの人々——しばしば偽りの宗教に仕えてクリスチャンを迫害したり殺害したりしてきた人々——が、突然イエスが自分たちのもとに来られる夢を見ます。そこでイエスは、ご自分が神であることを宣言し、なぜわたしの民を迫害するのかと問われるのです。

初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにあった。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

— ヨハネの福音書 1:1-3

「オルタナティブ文学（代替文学）」で繰り返し扱われるテーマは、イエスを「アセンデッド・マスター」や単なる預言者として描写することです。これらの情報源は、主の血が私たちの罪をきよめること（ヘブル人への手紙 9:22、ローマ人への手紙 5:9）や、主が人類を創造されたことを否定します。主が神の御子であることも無視されています。たとえこの話題が取り上げられたとしても、著者たちは主の犠牲を、私たちが個人的に預かるべきものではなく、表面的な、純粋に象徴的なものへとねじ曲げようとします。永遠のいのちを得るために、主の肉を食べ、主の血を飲まなければならないとイエスが言われるとき、私たちが耳を傾けることは極めて重要です。

イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。これは天から下ってきたパンです。先祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」

— ヨハネの福音書 6:53-58

宇宙人やUFOに関する様々な話や説明は、真実から私たちの目をそらすために仕組まれた仮面劇の一部です。私はこれらの事柄をよく知っています。長年、一般の人よりもかなり深く研究してきました。傲慢で言っているではありません。（皮肉に聞こえるかもしれませんが）「超自然的」なことの多くは、私が目撃してきた神による奇跡と同じくらい現実であることを理解しています。しかし、そのような出来事が起こったからといって、それが必ずしも真実を象徴しているわけではありません。それはサーカスに行くようなものです。騒音や喧騒は多いですが、その目的はあなたを「いのちへと近づける」ことではなく、楽しませることです。人々は、いのちを受け取ることのないまま（箴言 14:12）、死ぬ日まで楽しませ続けられることがよくあります。ある意味で些細なことに聞こえるかもしれませんが、それは現実には起こっています。それはヘロイン中毒のようになり、次の刺激のことばかり考えるようになります。それは人からいのちを吸い取ります。外見が元気そうに見えるからといって、内側にいのちがあるとは限りません。

私たちの多くは、汚れた霊を通して奇跡を体験した人々を知っていると思いますが、それらが実際には何であるかを見分ける賜物を持っている人はほとんどいません。私の経験では、これらの出来事の背後にいる霊はイエスを主と告白せず、その最終的な実は、いのちではなく死です（コリント人への手紙 第二 11:14）。表面的には驚くべきことに見えるかもしれませんが、それは欺くために行われているのです。それは、テレビで催眠術をかけられている人々や、「白い魔女」や「エクソシスト」が家から霊を追い出しているのを見るのとよく似ています。神は、霊が神からのものかどうかを試さなければならぬと言っておられます。

愛する者たち。霊をすべて信じてはいけません。その霊が神からのものかどうかを試しなさい。多くの偽預言者が世に出て来たか

らです。神の霊を知る方法はこれです。イエス・キリストが肉体をとって来られたことを告白する霊はすべて、神からのものです。イエスを告白しない霊はどれも、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていましたが、今すでに世に来ているのです。

— ヨハネの手紙 第一 4:1-3

人々は、夜の光に引き寄せられるカニや虫のように、自らを欺かれ、誘惑されるがままにしています。「あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます」（マタイの福音書 7:16）。2008年以前、私はまだ新しく生まれてはいませんでした。何か間違っているということは、はっきりとは分からなくても、自分の一部で理解していたことが今では分かります。私たちの周りの多くの人々も同じ状況にあります。だからこそ、私たちは神の真実を分かち合い、主が私たちの耳に囁いてくださることを他者に伝えるのです。

この世の力が人々から真実を隠そうとしていることを、私は若い頃にその一部であった経験から知っています。サタンは、人間が神以外の何かに集中するように全力を尽くします。しばしば、結婚以外の性行為は罪であるという真理をねじ曲げることによってです。際どいシーンが含まれる映画やその他のメディアは、神の目から見て間違っているだけでなく、人々を罪の奴隷にし、さらなる渴望を引き起こします。

「あなたがたが人の子を上げたとき、そのとき、あなたがたはわたしが『わたしはある』であることを知り、また、わたしが自分からは何事もせず、父がわたしに教えられたとおりにこれらのことを話していることを知るようになります。わたしを遣わした方は、わたしとともにおられます。わたしを一人残されることはありません。わたしが、いつもこの方の喜ばれることを行うからです。」これらのことを話されたので、多くの人々がイエスを信じた。そこでイエスは、自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたは本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」彼らは答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、今までだれの奴隷になったこともありません。どうして『あなたがたは自由になる』と言われるのですか。」イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。奴隷はいつまでも家にいるわけではありませんが、息子はいつまでもいます。ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当

に自由なのです。あなたがたがアブラハムの子孫であることは知っています。しかし、あなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが、あなたがたのうちに場所を得ていないからです。わたしは父のもとで見たことを話しています。それなら、あなたがたも父から聞いたことを行いなさい。」彼らは答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたがアブラハムの子どもなら、アブラハムのわざを行うはずです。ところが今、あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに話してきた人間であるわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそんなことはしませんでした。あなたがたは、自分の父のわざを行っているのです。」彼らは言った。「私たちは不品行によって生まれた者ではありません。私たちには一人の父、神がおられます。」イエスは彼らに言われた。「もし神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。わたしは神から出て、ここに来ているからです。わたしは自分から来たのではなく、神がわたしを遣わされたのです。なぜ、あなたがたはわたしの話していることが分からないのですか。それは、あなたがたがわたしのことばを聞くことができないからです。あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、自分の父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分の本性から話しています。なぜなら、彼は偽り者であり、偽りの父だからです。しかし、わたしが真理を話しているので、あなたがたはわたしを信じません。あなたがたのうちのだれが、わたしに罪があると責めることができますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。神から出た者は、神のことばを聞きます。ですから、あなたがたが聞かないのは、あなたがたが神から出た者ではないからです。」ユダヤ人たちは答えて言った。「あなたがサマリア人で、悪霊につかれていると言うのは、もっともではないか。」イエスは答えられた。「わたしは悪霊につかれてはいません。わたしは自分の父を敬っています。それなのに、あなたがたはわたしを辱めています。わたしは自分の栄光を求めません。それを求め、裁きをなさる方がおられます。まことに、まことに、あなたがたに言います。だれでもわたしのことばを守るなら、その人は決して死を見ることはありません。」

— ヨハネの福音書 8:25-51

「汚れた霊」には二つの側面があります。一つは、すべては肉体的、物質的なものであり、霊など存在しないと人々に信じ込ませようとすることです

。もう一つの側面は、人間が霊的な現実が存在することを理解したときに見られます。そのとき汚れた霊は、探求者を魔法の世界に絡め取ろうとします。その世界は、深入りすればするほど暗くなる傾向があります（テモテへの手紙 第一 4:1）。最初は、物事は魅力的で無害に見えるのです。

私と同じ聖書学校に通っていたある男性、スキルの高いピアニストでしたが、彼は完全に神から離れてしまいました（ペテロの手紙 第二 2:20-22）。彼は預言の賜物を持つ女性と付き合っていました、理由は分かりませんが聖書学校を退学させられました。その後、彼らは完全に自制心を失い始めました。しばらくの間、すべてがひっくり返り、彼らは諸手を挙げてその状況によろめきながら踏み込んでいきました。結局、彼は冬の山で凍死しました。混乱した精神状態で、スピリチュアルな涅槃（ニルヴァーナ）を求めているようです。滅びに至る道は広く、そこから入って行く者が多いのです（マタイの福音書 7:13）。以前から数人の信者が彼に警告し、何が起きているかをはっきりと見ていたにもかかわらず、これほど劇的に神から離れ、その直後に命を落とした人を私は他に見たことがありません。二人とも肉を食べるのをやめ、過激な食事療法を始めたようです。彼はどんどん痩せ細り、まるで何にでも耐えられるかのような、すべてが現実離れした感覚であると語っていました。これは極端な例ですが、私たちの周りにはあらゆる段階の人々がいます。多くの方が真実を探し求めています。

多くの人々が、汚れたスピリチュアリティに人生を支配されるままにしています。多くの「白い魔女」は、自分たちのしていることは良いことだと信じていますが、実際には神に敵対し、汚れた霊とともに働いています（ガラテヤ人への手紙 5:19-21）。このために個人的な問題に直面し、その原因を理解できない人もいます。天の父は魔術に対して警告しておられますが（申命記 18:10-12）、ハリー・ポッター・シリーズのように、今日の映画ではますます人気が高まっています。それらの多くで繰り返されるものは何でしょうか？ 神秘主義や超自然的な出来事——オカルトを通じて魅了する魅力的な暗闇です。それはまるで夜の光に引き寄せられる蛾のようです。知らず知らずのうちに罠に誘い込まれ、身動きが取れなくなります。ホラー映画を見た後、明かりをつけたまま寝なければならず、その後平安を見いだせない若者もいます。私たちはポルノを含め、目から取り入れるものによって影響を受けます。私自身も2012年頃までポルノ依存症と闘っていました。今日、私は裸と性は結婚の中に属するものであることを知っています（マタイの福音書 5:28）。これは神が私の心に重く置かれたことでもありました。つまり、私は画面を通して他の女性と姦淫を行っていたということです。

旧約聖書と新約聖書を通じて——あらゆるページに記された名前、型、預言、そしてヘブル語とギリシャ語の言葉を通じて——イエスがいかにご自身を現しておられるかについて、より深く研究するには、姉妹本である Jesus in Scripture ([junifye.publifye.pro/jesus-in-scripture](http://junifye.publifye.pro/jesus-in-scripture)) をご覧ください。

あなたがたがよく知っているとおりに、淫らな者、汚れた者、あるいは、むさぼる者——これが偶像崇拝者です——はだれも、キリストと神の御国を継ぐことができません。むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。ですから、彼らの仲間になってはいけません。あなたがたは、以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。何が主に喜ばれることであるかを吟味しなさい。実を結ばない闇のわざに加わってはいけません。むしろ、それを明るみに出しなさい。彼らが隠れた所で行っていることは、口にするのも恥ずかしいことなのです。しかし、すべてのものは、光によって明るみに出されるとき、明白になります。明白にされたものはみな、光なのです。ですから、こう言われています。「眠っている者よ、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」ですから、自分がどのように歩んでいるか、注意深く見守りなさい。知恵のない者のようではなく、知恵のある者のように歩み、時間を有効に使いなさい。今は悪い時代だからです。ですから、愚かにならないで、主のみこころが何であるかを理解しなさい。また、ワインに酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって、心から歌い、奏でなさい。

— エペソ人への手紙 5:5-19

## Chapter 38

### 死も霊もないのか？

今日、私は人間が罪から立ち返り、神に立ち返らなければならないことを知っています（使徒の働き 3:19）。私たちが自らに課した死の宣告を贖える唯一のものは、イエスの血です（ヘブル人への手紙 9:22）。もしイエスを受け入れずに人生を歩むなら、私たちは死後、生きている間に肉体において蒔いたものを刈り取ることとなります。私たちはまず肉体の死を迎え、次に霊的な死を迎えます。言い換えれば二度死ぬのです（ヨハネの黙示録 20:14-15）。イエスご自身も、厳かな言葉でこのことを警告されました。永遠の火は悪魔とその使いのために用意されており、主を拒む者は永遠の刑罰に入ると（マタイ 25:41, 46）。これは迷信ではなく、聖徒たちの一部が実際に具体的に体験したことです。もしあなたが真理を求めているなら、たとえすべての人がこれを経験していなくとも、それが真実でないということにはならないと分かっているはずです。だからこそ、私たちはこれらのことを語るのです。これは、人々を怖がらせて神との生活に追い込もうとする架空の話ではありません。そのような仕組みではないのです。体験は、求め、積極的に探し出すことができます。もしあなたが人生を真剣に考えているなら、それを無駄にしないでください。

私たちの罪を覆したり、取り除いたりできるものは何もありません。唯一の例外はイエスの血です（ヨハネの手紙一 1:7）。御子を信じる者は永遠のいのちを持ちますが、御子に従わない者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまります（ヨハネによる福音書 3:36）。なぜでしょうか？ それは、イエスが神であり（コロサイの信徒への手紙 2:9）、主のいのちには計り知れない価値があるからです（ペトロの手紙一 1:18-19）。もう一つの道は、自分自身の命で罪の代価を払うことです。神は義なるお方であり（申命記 32:4）、私たちの罪からの逃れ道を与えてくださいました。それがイエスです。天の父からの権威を持たれた御子が、私たちのために命を捨てられたので、私たちは生きることができるのです。計り知れない価値を持つ主の血が、私たちの罪を贖い、私たちをきよめてくださいます。私たちがきよめられたとき、私たちは神の宮となり、聖霊が私たちの内に住んでくださるようになります（コリントの信徒への手紙一 6:19）。私たちは霊において新しく生まれます（ヨハネによる福音書 3:5、テトスへの手紙 3:5、ペトロの手紙一 1:23）。これは誰かに強要されるものではなく、それを理解しているかどうかにかかわらず、自らの意志によって起こることです。伝道者に促さ

れたとき、私は信仰をもって歩み出しました。私の新しい霊を体験したことは衝撃でしたが、それはポジティブな衝撃でした。

バプテスマを通して、私たちは古い人生を葬ります（ローマの信徒への手紙 6:4）。そして、イエスが神によってよみがえらされたときと同じように、私たちも水から上がって、イエスとともに新しい歩みを始めます。私たちは、イエスが持っておられるのと同じ御霊を分かち与えられます。聖霊は「もう一人の助け主」と呼ばれ（ヨハネによる福音書 14:16）、イエスが最初の助け主です。私は神を求め、十五歳のときに主は答えてくださいましたが、実際に主を「見いだし」、救い主としてイエスを受け入れるまでには十八年かかりました。私がここで提示していることの重大さを心に留め、同時に幻想的で狂気じみて聞こえるような証をしても、動揺しないでほしいと願っています。私はそのことを十分に承知していますが、真実を語るには、真実をそのまま語る以外に方法はありません。私たちは皆、他人の罪の結果として、ある時点で神から離れてしまいました。そして私たち一人一人が、再び命の息を吹き込まれるために神を必要としているのです（エゼキエル書 37:5-6）。神はアダムに命の息を吹き込まれました（創世記 2:7）。アダムが死んだとき、それは肉体ではなく、霊においてでした。エバも同様です。だからこそ、霊が死んだとき、彼らは劇的に変わってしまったのです。同じ理由で、神の御霊によって新しく生まれるとき、私たちは完全に造り替えられるのです（コリントの信徒への手紙二 5:17）。

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えて来て、それぞれのしわざに応じて報いる。わたしはアルファでありオメガである。最初であり最後である。初めであり終わりである。自分の衣を洗う者たちは幸いである。彼らは、いのちの木の實を食べる権利があり、門を通過して都に入ることができるようになる。犬ども、魔術を行う者、淫らなことを行う者、人殺し、偶像を拝む者、偽りを好み、それを行う者はみな、外に置かれる。わたし、イエスは、諸教会について、これらのことをあなたがたに証しするために、御使いを遣わした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」御霊と花嫁が言う。「来てください。」これを聞く者も「来てください」と言いなさい。渇いている者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、価なしにそれを受けなさい。

— ヨハネの黙示録 22:12-17

私は、パウロが視力を取り戻した直後にアナニヤが彼に言った言葉を、あなたに伝えます。

さあ、なぜためらっているのですか。立ち上がって、主（イエス）の名を呼び求め、バプテスマを受けて、自分の罪を洗い流しなさい。

— 使徒の働き 22:16

# Chapter 39

## イエス御自身が語られたこと

人々はバプテスマについて、死に物狂いで議論する——それをねじ曲げ、和らげ、言い逃れをする。彼らは公会議や信条、そして自らの知性に訴えるが、主御自身の言葉に耳を傾けようと立ち止まることはめったにない。パウロでもない。ペテロでもない。公会議でもない。ここにあるのは主の言葉、ただそれだけである。主御自身に語らせよう。

### 39.1 御国への扉

イエスはバプテスマを、信仰に付け加える任意の装飾品として差し出されるのではない。主はそれを命じておられる——御国の敷居、新しいいのちへと入る扉として。

信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。

— マルコ 16:16

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

— マタイ 28:19

イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。

— ヨハネ 3:5

この第一の言葉は確かならぬものであると唱える者もいる——マルコの福音書の結びの諸節が二つの古い写本から欠落していることを理由として。しかしながら、エイレナイオスは紀元180年には既に、それらの写本が書写されるはるか以前に、これらをマルコ自身の筆によるものとして引用しており、さらに圧倒的多数の写本がこの箇所を正文として保持しているのである。また、この節が罪に定めているものに留意せよ。それはただ不信仰、すなわち「不信仰の者」のみを指しており、決して水の欠如を言っているのではない。本節が命じていることは、聖書の他の箇所、すなわち使徒 2:38、ローマ

6:4、ペテロ第一 3:21 が教えている事柄と毫も違わない。ゆえに、この御言葉を全き重みをもって受け入れるべきである。

## 39.2 すべての義を成就するために

主には洗い清めるべき罪など何一つなかった。それでも主は——何の義務もないままに——ヨルダン川の中へと下って行かれた。すべての義を成就し、私たちのために道を切り開くためであった。

しかし、イエスは答えて言われた、「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである」。そこでヨハネはイエスの言われるとおりにした。

— マタイ 3:15

## 39.3 より深いバプテスマ

イエスは御自身の死を一つのバプテスマと呼ばれた。水の向こうには十字架がある——そして主は、御自分に従う者たちもその同じ死の中へと下り、主のいのちへとよみがえるのだと言われる。

しかし、わたしには受けねばならないバプテスマがある。そして、それを受けてしまうまでは、わたしはどんなにか苦しい思いをすることであろう。

— ルカ 12:50

イエスは言われた、「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」。彼らは「できます」と答えた。するとイエスは言われた、「あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けるであろう。

— マルコ 10:38-39

すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。

— 使徒 1:5

主は語られた。主はそれを命じ、御自ら道を歩み、そして水を墓とも胎ともされた——御自身の死とよみがえりの絵姿として。議論は終わった。残された問いはただ一つ、あなたが主の言われたとおりに行うかどうかである。

# Chapter 40

## 成人洗礼

### 40.1 バプテスマは結婚式である

人は、見知らぬ者と密かに結ばれるのではない。証人の前に立ち、誓いを立て、装いを整えて披露されるのである。聖書は、これこそがキリストと教会の奥義であると告げている。我々はただ一人の夫に婚約した者であり（コリントの信徒への手紙二11:2）、主こそがその花婿にほかならない。洗礼者ヨハネは主をそう呼び（ヨハネによる福音書3:29）、主自らもまた、そのように名乗られたのである（マタイによる福音書9:15）。バプテスマの水は、信じる者が「誓います」と応える祭壇なのだ。

信仰が心の同意であるならば、バプテスマは体の誓いである。イエスはこれらを一息に結びつけられた。「信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じていない者は滅びの宣告を受ける」（マルコによる福音書16:16）。まず信じ、次いで水が、信仰によって既に得たものを封印するのである。パウロの言葉を聞くがよい。「キリストに結ばれるために洗礼を受けたあなたがたは皆、キリストを身にまとったのです」（ガラテヤの信徒への手紙3:27）。バプテスマは婚礼の衣である。水を避けることは、福音を簡略化することではない。それは式典を拒むことであり、花婿を愛しながら、ついに婚礼の場に現れないことに等しい。

この防壁を正しく理解せねばならない。水そのものが人を洗うのではない。ただ小羊の血のみが、それを成し遂げるのである。バプテスマは「神に対する正しい良心の誓い」（ペトロの手紙一3:21）であり、代価ではなく誓約なのだ。十字架上の盗賊は、洗礼なしに受け入れられた。花婿がその傍らで、顔と顔を合わせておられたからである。しかし、それは例外であって、むしろ規則の正しさを証しするものである。他のすべての人々にとって、その順序は揺るがない。信じ、主と共に葬られ、主と共に復活し（ローマの信徒への手紙6:4）、小羊の婚宴へと立ち上がるのである（ヨハネの黙示録19:7）。人の伝統を吟味する前に、我々はまず花婿の基準を定めなければならない。

以下に記すことは意見ではない。証拠である。新約聖書のギリシャ語文法、旧約聖書のヘブライ語類型論、そしてコンピュータによる解析が可能になるまで3400年間、人の目には触れることのなかったトラー（モーセ五書）に隠された文字配列からの証拠である。3000年にわたり、三つの独立した証

人がすべて同じことを語っている。バプテスマは自覚ある者のためのものである。それは必要不可欠なことである。そして、それは大人のためのものである。もしこれを退けたいという誘惑に駆られるなら、読み進めてほしい。証拠は検証可能である。聖書の参照箇所は明記されている。そして、トーラーの文字に隠された言葉は、まさにこの世代を待ち望んでいたのである。

幼児洗礼は、ノルウェーにおいて何百年もの間、主要な伝統となってきた。多くの家族にとって、生後間もなく教会で子供に洗礼を授けることは当然のこととされている。かつて国教会であったノルウェー国教会がこの慣習の最大の実行者であるが、カトリック教会やメソジスト教会も幼児洗礼を行っている。儀式の際、子供は洗礼盤の前へと運ばれ、多くの場合、代々受け継がれてきた白い洗礼用のガウンをまとっている。司祭は子供の頭に三度水を注ぎ、「父と子と聖霊の御名によって、あなたに洗礼を授けます」（マタイによる福音書28:19）と唱える。家族はまた、子供のキリスト教的養育を支える代父母を選ぶ。幼児洗礼は依然として広く行われているが、近年、洗礼の数は減少している。多くのノルウェー人にとって、幼児洗礼は宗教的行為であるだけでなく、家族の伝統であり、新しい家族の一員を祝うために親族や友人が集まる機会でもある。しかし、伝統は、ある慣習が神の命じられたことと一致しているという保証には決してならない。そのため、バプテスト教会やペンテコステ派教会のように、代わりに成人バプテスマを行うキリスト教の教派も存在する。

皮肉なことに、司祭が引用するまさにその節において、唯一の命令形は *mathêteusate* (G3100) —— 「弟子とせよ」（口語訳では「教えよ」）である。バプテスマ、すなわち *baptizontes* (G907) は、その弟子作りが「どのように」行われるかを説明する現在分詞に過ぎない。したがって聖書は、バプテスマを受ける者がすでに弟子であることを前提としている。

ユダヤ人たちが、いかに喜んでバプテスマのヨハネからバプテスマを受けたかを思い起こそう（マタイによる福音書3:5-6）。その理由は、彼らが水による完全浸礼を通じた霊的浄化の儀式である *«mikvah»* (H4723) に長年親しんできたからであろう。そして、ヘブライ語の *mikveh* 自体には、ブラウン・ドライバー・ブリッグス辞典が明らかにする二重の意味がある。それは「水の集まり」と「希望」の両方を意味する。エレミヤ書17:13で、預言者はこう記している。「主よ、イスラエルの希望 (*mikveh*) よ。」 「希望」と訳された言葉は、儀式的な沐浴と同じ言葉である。清めの水とイスラエルの希望は、一つのヘブライ語である。適切なミクワーのためには、水の一部が「天」から来る必要があった。つまり、雨水が直接プールに流れ込むことである。これはイエス・キリストご自身、すなわち天から来られ、神から遣わされた方を示す預言的な絵画であった。イエスもまた、「わたしは生ける水である」（ヨハネによる福音書4:14）と言われた。ユダヤ人にとって、*«mikvah»* は何よりも霊的な清めを象徴する（テトスへの手紙3:5、使徒言

行録22:16)。イスラエルは数千年にわたり、清め的手段としてミクワーを  
実践してきた。これは月経後、死体に触れた後、あるいは結婚のような人生  
の重要な出来事の前に行われた。

その行為そのものが、その方法を否定している。ギリシャ語には三つの  
動詞があった。rhantizō (G4472=振りかける)、cheō (注ぐ)、そして  
baptizō (G907=浸す、あるいは完全に覆う)である。聖霊は一貫して浸礼  
を選ばれた。そして、短時間の浸しを意味する baptō とは異なり、baptizō  
は永続的な変容を意味する。

メシアニック・ジューは、ミクワーがイエス・キリストにおいて死から命  
へと移るために誰もが経験しなければならない清めの預言的な絵画であるこ  
とを知っている。私たちはこれを、イスラエルが紅海を渡った時や、ノアが  
箱舟で海を航行するよう召された時にも見ることができる。どちらも、やが  
て来る救いのためのバプテスマの絵画であった(ペトロの手紙一3:21)。バ  
プテスマとは、古い自分に死に、新しい自分としてよみがえることである(コ  
ロサイの信徒への手紙2:12)。もしイエスが道であり、真理であり、命で  
あり(ヨハネによる福音書14:6)、ご自身がバプテスマを受け(マタイによ  
る福音書3:13-17)、弟子たちと共にバプテスマを授けておられたのなら(ヨ  
ハネによる福音書3:22)、なぜ私たちはその模範に従わないのか。

御子ご自身のパターンがすべてを物語っている。イエスは旧約の幼児のし  
るし(八日目の割礼、ルカによる福音書2:21)を受け、神殿に捧げられたが  
(ルカによる福音書2:22)、赤子としてバプテスマを受けることはなかった  
。代わりに、イエスは30年待って、ご自身の意志でヨルダン川へと下られた  
(マタイによる福音書3:13-17)。バプテスマとは、自覚的で自発的な従順  
の行為であることを私たちに示すためである。

イエスがニコデモに「人は新たに生まれなければならない」(ヨハネによ  
る福音書3:7)と言われたとき、深夜の会話で新しい教義をでっち上げたので  
はない。預言的・契約的な期待のすべてを一文に圧縮し、すでに自分は救わ  
れていると考えていた男に向けたのである。イスラエルの教師にとって、そ  
れは何一つ新しいことではなかった。聖書はそれを約束していた。エゼキエ  
ルは、神が民の上に「清い水を注ぎ」、「新しい心」を与え、「わたしの霊をあ  
なたたちの内に置く」という誓いを聞き(エゼキエル書36:25-27)、その次  
の章では、枯れた骨が息を吹き返して生き返るのを見た(エゼキエル書37章  
)。モーセは、神ご自身が「あなたが生きていられるように」心に割礼を施さ  
れるという同じ希望を語り(申命記30:6)、エレミヤは新しい契約において  
律法が内に書き記されると語り(31:33)、ダビデは「神よ、わたしのために  
清い心を創造し、揺るぎない心を新しくしてください」(詩編51:12)という  
叫びを上げた。水、霊、新しい心、命——ヨハネによる福音書3:5のまさに  
その構成要素は、何世紀にもわたってヘブライ語聖書の中に存在していた。

そして、それは書物の上だけのことではなかった。同時代の人々もそれを祈り求めていた。エルサレムから一日の道のりの場所にいたクムランの共同体は、神が聖なる霊によって清めの水のように彼らを清め、陰府（シェオル）から永遠の高みへと引き上げてくださるよう求めていた（共同体の規律と感謝の詩編）。当時の律法もそれを半分は制定していた。契約に入ろうとする異邦人は、かつての存在を捨て去る（古い血縁は無効となり、新しいアイデンティティが与えられる）必要があり、改宗者の浸礼は、イエスの時代またはその近くのヒレル派とシャマイ派の間ですでに議論されていた（ミシュナー、ペサヒーム8:8）。そしてバプテスマのヨハネは、それを白日の下にさらした。イスラエル人自身を水の中へ呼び寄せ、「アブラハムを父に持つなどと言ってはならない」と警告したのである。神は石からでもアブラハムの子を起こすことができるからである（マタイによる福音書3:9）。最初の誕生は何の価値もない。

ゆえに、再生とは外側から人になされるものではなく、自ら越えるべき境界線であった。「必要である」とイエスは言われた——そして「あなた」は複数形であり、部屋にいた一人の男を超えて語りかけている——「あなたがたは上から生まれなければならない」。そして同じ息で、その方法を名指された。モーセが蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が命を得るためである（ヨハネによる福音書3:14-15）。異邦人だけではなく、終わりの日のイスラエルだけではなく、あなたが——今、霊によって、御子を通して、目を見開いて水の中へ入るのである。これが、このしるしが決して代理人による幼児のものでなかった理由である。改宗者はミクワーを選び、ヨハネの聴衆は自ら川岸を歩いて下り、ニコデモは——知識は十分にあったが、意志だけが欠けていた——最後には自らの扉をくぐったのである（ヨハネによる福音書7:50、19:39）。バプテスマとは、すでに上から生まれた者が自覚的に越える境界線である。

また、ノアの時代の人々と同じように、世を象徴するエジプト人たちのことも想起される。象徴的に言えば、彼らは救われると信じていたにもかかわらず、紅海の清めの試練を通過しなかった。これはノアの洪水も反映しており、そこでは悪がもはや存続を許されなかった。したがってミクワーは、新しい命の象徴であると同時に、古いものに対する裁きの象徴でもある。それは聖餐に似ている。聖餐において、人はイエスの血と体を、救いのため、あるいは裁きのために受ける（コリントの信徒への手紙一 11:27-29）。このバプテスマ——この清め——は、約束の地に入りたいと願う者にとって選択肢ではなく、絶対的な必要条件である（ヨハネによる福音書3:5）。しかし、水は信仰に取って代わるものではなく、信仰を表現するものである。バプテスマとは、すでに信じ、悔い改めた心が示すべき答えであり（ペトロの手紙一 3:21）、キリストの血のみが与えるものを獲得する業ではない（エフェソの信徒への手紙2:8-9）。今日、多くの教会でこれが軽視されているという

事実は、真理を無効にするものではない。歴史は今も繰り返されている。多くの者が、この道がどこへ通じているかを理解せず、自己主張し、傲慢に神の前に立っている。

では、どういうことになるのか。恵みが増すようにと、罪にとどまるべきだろうか。決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるだろうか。それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスに結ばれるバプテスマを受けたわたしたちは皆、その死にあずかるバプテスマを受けたのではないか。わたしたちは洗礼によってキリストの死にあずかり、葬られたのである。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためである。もしわたしたちが、キリストの死の姿にあずかって彼と一つになったのなら、復活の姿にあずかって彼と一つになるはずである。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪の支配下にある体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っている。死んだ者は、罪から解放されている。わたしたちはキリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じている。キリストは死者の中から復活させられて、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないと知っているからである。キリストが死なれたのは、罪に対して一度死なれたのであり、生きられるのは神に対して生きられるのである。このように、あなたがたも自分は罪に対して死んだ者であり、キリスト・イエスにおいて神に対して生きている者だと考えなさい。

— ローマの信徒への手紙 6:1-11

海を渡ることを拒んだ者たちは古い世界で死ぬことになった。イエスについて語ったとき、ヨハネはこれを知っていた。

わたしは悔い改めのために水であなたたちに洗礼を授けている。しかし、わたしの後から来る方はわたしよりも優れていて、わたしはその履物を脱がせてあげる資格もない。その方（イエス・キリスト）は、聖霊と火であなたたちに洗礼を授けられる。手に箕を持って、脱穀場を隅々まで清め、麦を倉に集め、殻を消えることのない火で焼き払われる。

— マタイによる福音書 3:11-12

私は神の言葉、聖書から言葉を分かち合うことで批判を受けてきた。しかし、神との経験は、神の言葉が真理であることを確証している。良い実を

結びたいなら、神の言葉に従い、それに応じて行動しなければならない。多くの信者は、幼児洗礼によって神の国に入れられると考えているが、聖書にはそのような示唆はどこにもない。私自身、聖霊から、子供たちのことは心配しなくてよいと聞いている。救いに至る前に死んだとしても、彼らは神によって清められるからである。これは2016年頃のことであり、聖霊は私に *ablution* (沐浴) という言葉を与えられた。私はその意味を知らなかった。当時、イエス・キリストが再臨される時、新たに生まれていない子供たちはどうなるのかと思案していた。そのとき、聖霊はこの一つの言葉を与えられた。

これは、モーセの兄アロンが祭司長に任命された際に起こったことであり、そこには広範な清めの儀式が含まれていた。レビ記8章によれば、アロンとその息子たちは水で洗われ、特定の祭司の服を着せられ、聖なる油を注がれ、聖別されて聖なる務めを行う準備のために特別な犠牲を捧げた。アロンが清められ準備が整ったとき、彼は年に一度、贖罪の日 (ヨム・キプール) に、契約の箱の前で儀式を行うために至聖所 (コデシュ・ハコダシム) に入ることができた。これは幕屋の中で最も聖なる場所であり、神の臨在が独特な形で現れる場所であった。聖霊が私に示したかったのは、子供たちは神の御手の中にあり、私たちが彼らのことを心配する必要はないということである。これは、子供が大人になり、神との関係において、またイエスを受け入れることにおいて自ら責任を負うようになることとは対照的である。

#### — Ablution (沐浴) とは清めを意味する

また聖書には、イエスが子供たちにバプテスマを授けたことは一度もなく、彼らを祝福されたとある (マルコによる福音書10:14)。そしてギリシャ語は、英語では隠されている区別をしている。マタイが19:13-14で「子供たち」に対して用いている言葉は *paidion* (G3813) ——歩いて来られる年齢の子供である。ルカによる福音書18:15は別の言葉を使っている。*brephos* (G1025) であり、胎児または新生児を意味する。イエスは赤子を祝福された。バプテスマは授けられなかった。そして、コンコーダンスツールを使って新約聖書のすべての節を検索すると、*baptizō* (G907) は信じること、悔い改めること、告白することに関連する言葉と9回並んで現れる。幼児や子供を意味する言葉とは0回である。一度もない。ヘブライ語の語源、過越のつながり、ギリシャ語の形態論を含むこの証拠の完全な研究は、私たちの関連書籍『Through the Waters』 ([junifye.publifye.pro/through-the-waters](http://junifye.publifye.pro/through-the-waters)) で入手できる。聖書において、バプテスマを受けたのは幼児ではなく大人であった (使徒言行録2:38、8:36-38、16:33)。私の将来の妻は私にとって祝福である。彼女も神から聞き、周囲の人々に福音を分かち合う

際に神の火を宿しているからである。私は成人バプテスマが神によって定められたものだと確信していたが、彼女が父なる神ご自身からそれを聞く必要があることを知っていた。イエスがヨハネによる福音書3章で幼児洗礼について語っていないことは明らかである。マルコによる福音書もそれを裏付けている。

信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。

— マルコによる福音書 16:16

イエスはしばしば地獄について語り、強い言葉で警告された。体の一部を失うほうが、虫も死なず火も消えない地獄に投げ込まれるよりましであると言われた（マルコによる福音書9:43-48）。炎の中で苦しみ、憐れみを求めて叫ぶ金持ちの話をされた（ルカによる福音書16:23-24）。これらは比喩ではなく、現実である。

### 文字に隠されたもの

しかし、証拠は聖書の表面的な言葉だけにとどまらない。モーセの最初の五書であるトーラーには、3400年間誤りなく書き写されてきた304,805のヘブライ語の文字が含まれている。現代のコンピュータが、等間隔（等間隔文字配列、ELS）でエンコードされた言葉をこれらの文字から検索したとき、人間の目には決して見ることのできなかつたものが見つかった。

ペンテコステ（五旬節）、すなわち50日目へのカウントであるスキップ49において、バプテスマの神学に関連する11のヘブライ語が、トーラー全体で一度、あるいは非常に稀にしか現れないにもかかわらず、すべて出現した。そして、その一つ一つが、それを定義する箇所に着地している。テヴィラー（טבילה、浸礼）は、「水で身を洗う」ことを命じる節（レビ記15:7）に落ちる。テシューヴァー（תשובה、悔い改め）は、主人と共にいることを選ぶ奴隷の律法（出エジプト記21:5-6）に落ちる。マシアハ（משיח、メシア）は、「わたしの名が彼のうちにある」（出エジプト記23:21）に落ちる。イエシューアー（ישועה、救い）は、血による祭壇の聖別（レビ記8:15）に落ちる。スキップ49で「キッチン」を検索しても、料理に関する節には落ちない。「ラクダ」を検索しても、ラクダには落ちない。これらのコントロールはランダムで無関係なテキストに落ちる。しかし、バプテスマの言葉はすべて、その箇所に落ちるのである。

トーラーのテキストを円筒（オリジナルの巻物）に巻きつけると、11の言葉がペアとなって説教している。悔い改めは救いの隣に、過越の小羊の隣に。信仰は浸礼の隣に。そして、巻物を一周するメシアの列は、浸礼に触れている。マシアハ（358）のゲマトリアにテヴィラー（56）を足すと414にな

る。これは、ユダヤの伝統によれば、海が割れる前に信仰によって最初に紅海に入った男、ナフション (נחשון) のゲマトリアと一致する。

私たちはまた、トラーからニコデモという名前を検索した。イエスが「水と霊によって生まれなければならない」と言った男である（ヨハネによる福音書3:5）。彼の名前はトラー全体で一度だけ、スキップ1,092で現れる。それは民数記7:17、すなわちアミナダブの子ナフションの捧げ物から始まる。水に入るよう告げられた男が、最初に水に入った男の名前を通過するようにエンコードされているのである。そして、ニコデモが交差する表面の言葉は福音のように読める。ナフション（信仰）、振りかけの鉢（適用された血）、モーセ（律法）、贖罪、そして覆い——「キリストに結ばれるために洗礼を受けたあなたがたは皆、キリストを身にまとったのです」（ガラテヤの信徒への手紙3:27）。

最も驚くべきことは、トラーの隠された文字の中でエムナー (אמונה、信仰) とテヴィラー (טבילה、浸礼) の間の距離を測定したとき、最も近いペアが申命記21:23——「木にかけられた者は呪われた者である」——において二文字の間隔で座していることである。パウロがガラテヤの信徒への手紙3:13で十字架について引用している節である。信仰と浸礼が、十字架の節で触れ合っている。トラーは、十字架が立てられる1400年も前に、救いの二つの要件を、救いが購われたまさにその場所で並べてエンコードしていたのである。

そして、バプテスマのスキップで幼児を意味するヘブライ語を検索した結果は壊滅的であった。ティーノク（幼児）はスキップ49で死刑宣告（出エジプト記21:15）に落ちる。スキップ34では完全に欠落している。トラーはバプテスマのスキップに信仰、悔い改め、浸礼、メシア、救いをエンコードしている。幼児はどこにも見当たらない。一度もない。重要なスキップにはどこにもない。

モーセが304,805の文字を並べて、これらの言葉がこれらの箇所に落ちるようにすることは不可能である。制約が具体的すぎる。配置が正確すぎる。しかし、誰かには可能であった。統計的検定、コントロールワード、すべての発見が検証された完全な分析は、関連書籍『Through the Waters』（[junifye.publifye.pro/through-the-waters](http://junifye.publifye.pro/through-the-waters)）で入手できる。

私は将来の妻に対し、バプテスマについてこう挑戦した。「バプテスマが大人のためのものであることを神が確証してくださるか、神に尋ねてほしい」

その直後、神が彼女を起こされたとき、彼女に古い聖書——ヘブライ語聖書かもしれないが、定かではない——を見せられた。神は彼女にバプテスマに関するこのメッセージを確証された。神は

言われた。「人々がわたしに耳を傾けてくれることを願う！ 幼児洗礼は祝福であるが、成人バプテスマは必要不可欠である！」

— 神が真夜中に将来の妻を起こされる

誰が子供たちにイエスに従うことを強制できるだろうか。誰もできない。しかし、幼児洗礼の伝統は神の言葉を無効にしている。これを受け入れるのは難しいかもしれないが、聖書はそれを示しており、聖霊ご自身がそれを確認された。私自身の経験がこれを示している。私個人に対してだけでなく、聖徒の一人がバプテスマを受けた直後に異言を語り始め、何が起きているのか理解すらしていなかった場に居合わせた人々に対しても（使徒言行録2:4、10:44-46）。これを受け入れない信者たちと話してきたが、将来の妻に神に答えを求めるよう挑戦したとき、神は真夜中に彼女に語り、ご自身の言葉を確認された。幼児洗礼は神からの伝統ではなく、人間からの伝統である（マルコによる福音書7:8）。私たちは道を選ばなければならない。人間か、神か。信じる者にはしるしと不思議が伴う（マルコによる福音書16:17）。他の者は人間の言葉で語り、神の力の欠如を言い訳しようとするか、それについて語ることを避けるだろう。

聖書は、聖徒たちが救い主イエス・キリストが行われたのと同じように不思議と奇跡を行うことを明確に述べている（ヨハネによる福音書14:12）。力のない高尚な言葉で語るべきだとは書かれていない。パウロは自身の宣教についてそうは言っていない。イエス・キリストに命を捧げたペトロもまた、単なる言葉の人ではなく、神の力の人であった。今日、全身全霊で神に仕え、神を第一に求める弟子たちは、イエスの時代の人々と同じ恵みの賜物を持っている（ガラテヤの信徒への手紙3:27、コリントの信徒への手紙一 12:4-11）。今もこれからも、私たちが神の言葉に対して生ぬるい態度をとる余地はない。

ある特定の反論が、健康な人々を教会の席に留まらせている。ラオディキアへの主の言葉を聞く前に、それに答えよう。

### 青銅の蛇と強盗

その反論は予測可能な盾である。「十字架の上の強盗はバプテスマなしで救われた。だから私は免除される」。これは神学を装ったカテゴリーエラーである。強盗は十字架の上で死にかけており、水に近づくことはできなかった。彼の救いは例外の奇跡であり、御国の原則ではない。彼は本質的な行為を行った。救い主を仰ぎ見たのである。

モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

## — ヨハネによる福音書 3:14-15

パターンは固定されている。ra' ah (רא'ה — 見る)、chai (חַי — 生きる)。民数記21章において、sārāp H8314 שָׂרָפִים (燃える蛇) は死をもたらしたが、nēs H5251 נֵשׁ (旗印、基準) は命をもたらした。強盗は、自分の体が自身の木に釘付けにされている間、上げられた御子を仰ぎ見た。彼は水に下ることはできなかったが、王に心を向けた。彼は与えられた状況下で、父が要求することを正確に行った。

あなたは強盗ではない。十字架に釘付けにされているわけではない。あなたは川の岸辺に立っており、水は満ちてきている。強盗の例外を主張しながら主の命令を拒むことは、信仰ではない。それは、ヨルダン川で身を浸す前のナアマンの誇りである(列王記下5章)。ナアマンはもっと壮大なジェスチャー、もっと威厳のある道を望んだが、最初は軽蔑していた泥の中での従順によってのみ癒しを見出した。

人前での告白は選択肢ではない。キリストは明確である。《だれでも人々の前でわたしを公に言い表す者は、わたしも天におられるわたしの父の前でその人を公に言い表す》(マタイによる福音書10:32)。バプテスマとは、古い人が死に、新しい人がよみがえったという公的で物理的な告白である。これを差し控えることは、キリストがご自身のものに要求される公的な証しを差し控えることである。

すべての信者は少なくとも向きを変えなければならない。しかし、健康な者にとって、水の前で止まる向き変えは、陣営から頭を隠した向き変えである。自分の乾きを正当化するために強盗の背後に隠れてはならない。新しい契約の水を拒みながら、蛇の竿の命を主張することはできない。水は待っており、命令は明確である。

### 洗礼と聖霊

では、話すこともできないうちに洗礼盤へ運ばれる子供についてはどうだろうか。ここで、優しく善意に基づいた慣習が、多くの人々を静かに、本来立つべき床から連れ去ってしまった。なぜなら、聖霊は知らない者になされる儀式によって与えられるのではなく、信仰によって与えられるからである。《あなたがたが霊を受けたのは、律法を行ったからか、それとも信仰を聞いたからか》(ガラテヤの信徒への手紙3:2)。そして使徒たちが記録するすべてのバプテスマは、信じる心に従っている。《悔い改めなさい。そして、それぞれイエス・キリストの名によって洗礼を受けなさい……そうすれば、聖霊という賜物を受けます》(使徒言行録2:38) — まず悔い改め、次に水、そして賜物である。聖書は、再バプテスマによって順序が正された例さえ示している。ヨハネのバプテスマしか受けておらず、《聖霊の存在さえ聞いたことがない》人々に対し、《では、どんな洗礼を受けたのか》と問われ、そ

の後「主イエスの名によって洗礼を受けた」のである（使徒言行録19:2-5）。信仰の前に受けた洗礼は障壁ではなく、信者のバプテスマを必要としたのである。

**中動態**——意志の文法——は、主語が自分自身に働きかけることを示している。「彼らは皆、モーセに属する者となるために……バプテスマを受けた」（コリントの信徒への手紙一 10:2）。しかしギリシャ語の ebaptisanto (G 907) は中動態である。彼らは自分自身でバプテスマを受けたのである。パウロは「立ち上がり、洗礼を受けて、罪を洗い流しなさい」（使徒言行録22:16 – baptisai (G907) と apolousai (G628) は、どちらも中動態の命令形）と言われた。そして、ガラテヤの信徒への手紙3:27の「洗礼を受けた」は受動態だが、「キリストを身にまとった」は中動態である——enedusasthe (G1746)、あなた自身が行う行為である。赤子は中動態の行為を何一つ行うことができない。

**ペトロ**でさえ、使徒言行録2:38-39でこれを記している。群衆への呼びかけ——「悔い改めなさい」（metanoēsate、G3340）——は複数形であり、バプテスマは一人ずつ単数形で指し示している。「それぞれ……洗礼を受けなさい」（baptisthētō、G907）。そして彼らの「子供たち」への約束は teknon (G5043、子孫) を使っており、brephos (幼児) ではない。それは「わたしたちの神である主が召し出す者」——proskaleō (G4341) ——に及び、召されることは聞く力を前提としている。

三つのテキストが幼児洗礼の奉仕のために押し付けられているが、それぞれを全体として読むと、逆の方向を向いている。**家**——「彼女と彼女の家の人々」（使徒言行録16:15）、「彼と家族の者一同」（16:33）、「ステファナの家の人々」（コリントの信徒への手紙一 1:16）——は、赤子も家と共にバプテスマを受けた証拠として主張される。しかし、看守の家を最後まで聞きなさい。言葉は「家の人々皆」に語られ、彼は「家族一同と共に神を信じて喜んだ」（使徒言行録16:32-34）。家は聞き、信じ、そしてバプテスマを受けたのである。次に**割礼**の並行が提示されるが、パウロはそれを幼児期ではなく信仰に結びつけている。洗礼によってキリストと共に葬られ、「神の力を信じて、キリストと共に復活させられた」（コロサイの信徒への手紙2:12）。そして「子供たちをわたしのところに来させなさい」（マタイによる福音書19:14）は、主が祝福するために彼らを抱き上げたのであり、バプテスマを授けるためではない。主は手を置いて祈られたのであり、水を注がれなかった。

したがって、意識のない幼児になされる儀式が聖霊を伝えると教えられ、主が命じられたバプテスマの代わりに受け取られるとき、それは主が叱責されたまさにそのことを行っている。「あなたがたは自分たちの言い伝えを守るために、神の言葉を無にしている」（マルコによる福音書7:13）。歴史

はテキストと同じ物語を語っている。幼児洗礼への最も初期の明らかな言及——200年頃のテルトゥリアヌスの論文『De Baptismo』——は、それを遅らせるべきだという議論である。200年代半ばにオリゲネスがこの慣習を擁護したとき、彼は聖書的根拠のない「使徒の伝統」としてしかそうできなかった。そしてカルタゴ会議（256年）は、八日目まで待つべきかというタイミングのみを議論し、許可については議論しなかった。慣習が根付いたときでさえ、それが使徒的であることを聖書から示す者は誰もいなかった。それは根本において、神の命令の上に置かれた人間からの伝統である。

しかし、繊細な良心を傷つけないよう、ガードレールを聞きなさい。水は魔法ではない。それは「肉の汚れを取り除くことではなく、神に対する正しい良心の誓い」（ペトロの手紙一 3:21）であり、バプテスマを全く受けていない強盗でさえ、「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」（ルカによる福音書 23:43）と言われた。したがって、まだ水に葬られていない真の信者がそれによって締め出されることはない。信仰が救うのである。しかし、二つのことが続く。あなたが信じられるようになる前に受けた儀式に確信を置いてはならない。聖霊ご自身の内なる証しに確信を置きなさい。そして、もしあなたが信じるなら、従いなさい。自ら水の中へ下り、赤子にはできない答えを、あなた自身の良心で与えなさい。

### 血の花婿

契約のしるしが決して選択肢ではなかったことを示すトラーのすべての証拠の中で最も鋭いものは、夜の宿屋での出来事、出エジプト記 4:24-26にある。エジプトへ下る途中で主はモーセに出会い、彼を殺そうとされる。子供ではなく、大人であるイスラエルの選ばれた解放者である。その理由は、契約のしるしが軽視されていたからである。そこでチッポラは火打石のナイフを取り、息子の包皮を切り取る。動詞は **וַתִּכְרַת** vaticrot であり、karat (H3772) から来ている。これは「契約を結ぶ（切る）」という言葉（創世記 15:18）に使われるまさにその言葉である。彼女は血を彼の足に触れさせ、言った。「あなたは私にとって血の花婿 (chatan damim) です」。死は退く。契約の血が宣告を退けたのである。

言葉でさえ契約を運んでいる。チッポラが手を伸ばした動詞——**וַתִּכְרַת** vaticrot、語根 **כָּרַת** karat——は、契約の両面を一つの言葉に保持している。それは「契約を結ぶ」（創世記 15:18）と「断たれる」の両方を意味する。入ることは切り込まれることであり、背を向けることは断たれることである。一つの同じ言葉である。そして彼女が叫ぶ名前——**חַתָּן** chatan、「花婿」——それ自体が契約の言葉である。辞典は明確な意味として「割礼を受けた子供、宗教的な婚約の一種」を挙げており、語根は「結婚によって親族関係を契約する」（H2859）である。割礼は血による結婚のしるしであった。これが、聖書がキリストを花婿と呼び（ヨハネによる福音書 3:29、エフェソの信徒へ

の手紙5:25-32、ヨハネの黙示録19:7)、私たちが水を通して彼との婚約に入る理由である。

誰が死の危険にさらされ、誰がナイフを受けたかに注目しなさい。宣告は大人に下った。契約に対して答えられるモーセにである。しるしは別の者の手によって子供に置かれた。それが旧約のやり方であった。肉におけるしるしであり、まだ答えられない者に置かれる。しかし、これこそが新しいしるしが来る必要があった理由である。新しい契約は、親の手によって眠っている幼児に置くことはできない。その内面は「手によらない」心の割礼であり（コロサイの信徒への手紙2:11、ローマの信徒への手紙2:29）、個人に対する神ご自身の業である。その外面はバプテスマであり、神に対する正しい良心の誓い（ペトロの手紙一 3:21）である。ギリシャ語の *eperōtēma*——あなた自身の誓いの「はい」である。どちらも個人的である。親も、司祭も、国家も、あなたのためにそれを与えることはできない。それは割礼がしるしであった（創世記17:11）のと同じ契約——ギリシャ語で *diathēkē*——であり、バプテスマが誓いとして入る契約である。同じ血の中にある一つの封印である。パウロが二つのしるしはキリストにおいて一つであると言うように（コロサイの信徒への手紙2:11-12）。しかし、肉の血統においてではなく、キリストにおいて一つである。ゆえに封印は誕生ではなく信仰に従う。出エジプト記4章は、代理人によって運ばれた旧約の最後の松明であり、それが名指す血の花婿は、それ自身を超えて真の花婿を指し示している。その血が契約を封印する。「これは契約のわたしの血である」（マタイによる福音書 26:28）。なぜならギリシャ語の *diathēkē* は「遺言」も意味するからである。死によってのみ効力を発する契約である（ヘブライ人への手紙9:16-18）。契約は血によって生き、バプテスマにおいて私たちはその死の中へ下るのである（ローマの信徒への手紙6:3-4）。

誰も誤解してはならない。これは幼児洗礼を許すものではなく、それを廃止するものである。また、親の選択によって心が割礼を受けられるとは一瞬たりとも言っていない。心の割礼はまさに「手によらない」ものであり（コロサイの信徒への手紙2:11、ローマの信徒への手紙2:29）、新しい誕生における個人に対する神ご自身の業である。誰の手も他人の代理としてそれを行うことはできない。親の手であればなおさらである。二つのしるしの間の類似点は契約と血であり、違いは扉である。旧約は肉の血統を通っていたため、肉のしるしはすでにそこに生まれた幼児に続いた。新しい契約は肉ではなく新しい誕生を通る。「彼らは皆、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになる」（エレミヤ書31:34）。そして、自ら彼を知らない者は一人もない。新しい心は神が個人に与え、個人的な「はい」を個人が答える。どちらも外側から誰かに置くことはできない。幼児にバプテスマを授けることは、旧約の扉を新しい契約の中に持ち込むことである。

そして、しるしを軽視することは小さなことではない。それを怠った者は「断たれる……彼はわたしの契約を破った」（創世記17:14 — נכרתה nikretah、「断たれる」、再び karat）。イエスは水について、ペトロに対して全く同じことを言われる。「もしわたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと何のかかわりもない」（ヨハネによる福音書13:8）。そしてペトロ——バプテスマを eperōtēma、誓いの「はい」と呼ぶ同じペトロ（ペトロの手紙一 3:21）——は、新しい契約の karet を平易な言葉で説教する。「その預言者に聞き従わない者は皆、民の中から断たれる」（使徒言行録3:23、ギリシャ語 exolothreuō）。入ることは命であり、外にとどまることは、通り抜けることができたはずの宣告の下にとどまることである。これが、生ぬるい人々が今もなお避けている必要性である。水辺に立ちながら、下りようとしぬる人々である。

聖書が描写するもう一種類の人間がいる。神と平行に歩く者である。彼は同じ方向に動く——キリストについて書くほど近く、集会に出席するほど存在している——が、決して彼と結ばれてはいない。パウロはコリントの信徒への手紙一 6:17でその代替案を挙げている。「主と結ばれる者は、主と一つの霊となるのです。」動詞は kollaō (G2853) ——接着する、セメントで固める。結果は hen pneuma ——一つの霊である。平行線は決して触れ合わない。結びつかなければ、二つが一つになることはできない。イエスはご自身のものがまさにこれであるように祈られた。「彼らが皆一つとなるように」—— hina pantēs hen ōsin (ヨハネによる福音書17:21)。一つであることの反対は敵ではない。一つであることの反対は平行である。平行に歩く者は多くの節を引用するかもしれないが、言葉は脱臼しているように感じる。外見上は熱心に仕えるかもしれないが、近くにいる者は内側の空虚を感じる。幼児洗礼や国家の証明書を証拠として主張するかもしれないが、彼の手を通して水の中に生まれた大人の弟子を一人も生み出さない。彼のために祈りなさい。彼について断定してはならない。封印は立っている。「主は、自分に属する者を知っておられる」（テモテへの手紙二 2:19）——egnō kurios tous ontas autou、私たちが先に検討した契約の動詞 ginōskō (G1097) と共に。

ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ。「アーメンである方、誠実で真実な証人、神が造られたものの源である方が、次のように言われる。わたしはあなたの行いを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている。あなたは『わたしは金持ちだ。金持ちになって、何一つ不自由なことはない』と言っているが、自分が惨めで、哀れで、貧しく、目が不自由で、裸であることが分かっている。そこで、わたしは勧める。金持ちに

なるために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。また、裸の恥をさらさないために身にまとう白い衣を買い、目が見えるようになるために目に塗る塗り薬を買いなさい。わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱心になりなさい。悔い改めなさい。見よ、わたしは戸口に立ってたたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と一緒に食事をし、彼もまたわたしと一緒に食事をする。勝利を得る者を、わたしは自分の座と一緒に座らせる。わたしが勝利を得て、わたしの父の座に父と一緒に座ったのと同じように。耳のある者は、霊が諸教会に告げることを聞くがよい。」

— ヨハネの黙示録 3:14-22

イエスがラオディキアの教会に与えたメッセージを見ると、ヨハネによる福音書3:16を思い出す。イエスは私たちのために命を捧げられたと言われるが、私たちはしばしばなまぬるさで応えている。ある日イエスが神殿に行き、観察し、翌日イチジクの木に死を宣告し（マルコによる福音書11:12-14, 20-21）、神殿を清めた（マルコによる福音書11:15-17）ことを考える。石が一つも残らないという言葉を思い出す。紀元70年、聖所はローマ人によって完全に破壊された。

10代の頃を振り返ると、神のために燃えている聖徒たち——告白の人、按手の人（使徒言行録8:17、ヘブライ人への手紙6:3）、そして目に見えるほどリアルで燃えるような救い主への情熱を持つ人々——を知る必要があったが、彼らはいなかった。教会についてこう言うのは悲しみである！多くの命が失われ、救いを見出せない理由は、真理であるイエス・キリストに対する私たちのなまぬるさにある。

ギリシャ語文法、ヘブライ語類型論、トーラーに隠された文字コード、統計的検定とすべての発見が検証された証拠の完全な連鎖は、関連書籍『Through the Waters』に詳細に記されている。ここで読みなさい：[junifye.publifye.pro/through-the-waters](http://junifye.publifye.pro/through-the-waters)

# Chapter 41

## トーラーの透かし

私の物語をお話しする前に、この話を語り続けるために、私自身が自らの目で確かめなければならなかったことについてお伝えさせてください。トーラー（モーセ五書）には「透かし」が入っています。それはモーセが書き記した時からそこにありました。しかし、私たちの世代以前のどの世代も、それを見る手段を持っていませんでした。今や私たちにはその手段があり、現在目に見えるようになったものは、あまりにも精密で、神学的に的を射ており、人間の知恵による偽造をはるかに超えたものです。ですから、この序文を読み進めていただく前に、どうしてもこれについてお伝えせずにはいられません。◀「事を隠すのは神の誉れ。事を究めるのは王の誉れである」▶（箴言 25:2）。以下に続くのは、王なる神が隠されたことです。そして以下に続くのは、この世代の道具を用いて、この世代の「王たち」が見つけたことです。

**水から引き上げられたモーセ。** モーセは普通の人間ではありませんでした。パロの娘は彼をナイル川から引き上げ、その行為にちなんで名づけました。◀「彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、『水の中から私が引き出した（モーセ）のです』と言ったからである」▶（出エジプト記 2:10）。数十年後、彼一人に対してのみ、主はこう言われました。◀「彼と、わたしは口対口で話し、明快に語って、謎では話さない。彼は【主】の姿を仰ぎ見る」▶（民数記 12:8）。口対口。顔と顔を合わせて。トーラーは、私のようなつまづきやすい旅人を通して与えられたものではありません。それは水から引き上げられ、主によって明白に語りかけられた一人の男を通して与えられました。そして、彼が書き記した文字そのものの中に、著者は機械が読み取れるようになる日まで隠しておかれたあるものを刻み込まれたのです。

「透かし」とは何か、平易な言葉で。ヘブル語のトーラーは、文字が一つながりに並んだものです。どこかから始めて、50文字ごと、あるいは100文字ごと、あるいは49文字ごとというように、異なる開始点と異なる間隔（スキップ距離）で文字を書き出していくと、コンピュータにこう問いかけることができます。「意味のあるヘブル語の単語が現れるか？ もし現れるなら、それは表層のテキストのどこに位置しているか？」。この専門用語は、**等間隔文字列**（Equidistant Letter Sequence）、略して ELS と呼ばれます。その本質的な概念はこうです。トーラーを一枚のタペストリーだと想像してください。表面の物語は、あなたが見ている絵です。しかし、その下にある糸は完璧な間隔で織り込まれており、意図的に引っ張った時にのみ見え

る第二の文様を形作っています。私はそれらの糸を引っ張るためのツールを構築しました。それを **Darash** ([darash.publifye.pro](http://darash.publifye.pro)) と名づけました。私はこれを、この世代の最も進んだコーディング・インテリジェンス（正しい目的のために使おうとする人なら誰でも利用できる最先端のAI）と共に、自分の手でキーボードを叩いて作り上げました。Darash は、1994年に学術誌『Statistical Science』の査読を通過した Witztum-Rips-Rosenberg の手法の土台の上に立ち、さらにその先に行くものです。全5,814節にわたるヒートマップ、表層と底層の一致テスト、そして10回の独立したシャッフル（無作為並べ替え）による対照実験を追加しました。Darash が完成するやいなや、これからお読みいただく内容が表面化し始めました。トーラーに隠された意味は、モーセが巻物を置いてからの三千年間で、今、最も鮮明に見えるようになっています。

**五旬節のリズムに刻まれた11の単語。** Darash がモーセ五書全体を通して49文字ごとに糸を引くとき——49という数字はランダムではありません。それは7かける7であり、過越の祭りから五旬節（ペンテコステ）までのカウント、すなわちイスラエルが御霊が降るのを待ち望んだリズムです——福音に関する11のヘブル語単語が、暗い野原に灯る光のように表面に浮き上がってきます。それは、「贖い」「悔い改め」「血」「救い」「自由」「その名」「義」「いのちの息」「聖別」「きよめ」そして「バプテスマ（浸礼）」です。11の福音の言葉、一つの等間隔。ここで注目してください。これは偶然には決して起こり得ない部分です。これら11の隠された単語のそれぞれが、まさにそのことについて語っている表層の節の上に現れるのです。「贖い」は、祭司が贖いを行う節に現れます。「救い」は、和解のために祭壇に血が注がれる節に現れます。「きよめ」は、きよめの儀式の節に現れます。隠された言葉と目に見える節が、同じことを語っているのです。

**御霊、水、血、そしてその名。** トーラーの全節の中で、「生ける水」への全身浸礼を法的に定義しているのはレビ記15:7です。その章の糸を、同じ49文字のリズムで引くと、4つの単語が共に浮かび上がります。ruach（御霊）、mayim（水）、dam（血）、そして Yeshua——救い主のヘブル語の名です。御霊、水、血、そしてイエスの名。4つの単語。1つの間隔。1つの章。儀式を定義するその章です。そして、その15世紀後、スキップ計算もコンピュータも持たなかったヨハネは、こう記すこととなります。「証しするものが三つあります。御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです」（ヨハネの手紙第一 5:8）。これらの証人たちは、新約聖書がそれらを読み解くはるか前に、底層の中に据えられていたのです。

**ヒートマップと頂上。** 次に Darash は、トーラーの全5,814節のすべてに対して、異なる問いを投げかけました。「底層にある糸は、表層にある言葉とどれほど強く一致しているか？」各節にスコアが与えられ、それぞれのスコアがパーセンタイル（全体の中での位置）で示されました。トーラーの中

間部分は平凡です。95パーセントに達するのはごく一部です。100節に1節だけが99パーセントに達します。著者は、自らの書の頂上に何を置かれたのでしょうか。

神はそこに **アロン** を置かれました。レビ記16:4——«「彼は水で体に洗いを施し」»——贖罪の日に至聖所の幕の後ろに入る前の大祭司の洗いの場面が、トーラー全体の99パーセントにランクされています。そのすぐ横に、同じく高く位置しているのが民数記19:2です。赤い雌牛の灰を流れる水に混ぜ、汚れた者を清める儀式です。これら二つの節は、モーセの全著作の中で最も密度の高い節です。どちらもきよめの儀式です。どちらも、自ら業を行う前にまず水を通らなければならない代表者を指し示しています。アロンの洗いはバプテスマの「前日譚」です。それは私たち全員が通らなければならない影なのです。10回の独立した無作為なトーラーとの対照実験によるデータは、二千年にわたる信仰深い読解がすでに見ていたことを裏付けています。

**使徒たちがすでに指し示していた場所。** ペテロは、洪水について、それは«「今、あなたがたを救うバプテスマを象徴するものです」»（ペテロの手紙第一 3:21）と言いました。大いなる淵が裂けた節である創世記7:11は、95パーセントに位置しています。パウロは«「その岩とはキリストです」»（コリント人への手紙第一 10:4）と言いました。岩から水が出る出エジプト記17:6は、95パーセントに位置しており、その直下にヘブル語の *tsur*（岩）が暗号化されています。キリストご自身も、きよめられたツァラアト（皮膚病）患者をレビ記14章へと送られました（マタイ 8:4）。その章は95パーセントにあり、*ha-mit-taher*——「きよめられようとしている者」を指す専門的なヘブル語——は、トーラー全体で正確に12回現れますが、その12回すべてがこの一つの章に集中しています。**使徒たちはコンピュータを一台も持っていませんでした。** 彼らは無意識のうちにトーラーに手を伸ばし、私たちの機械が15世紀後にこの書の中で最も密度の高い箇所としてマークした節を引き出したのです。一つの知性から発せられた二つの出力が、この世代において出会っているのです。

**器と浸礼。** ヘブル語の語根 *tevah*——これは *tevilah*（浸礼）と同系の言葉です——は、選ばれた者たちを水の中を運ぶ三つの器を指します。ノアの箱舟、モーセの籠、そして契約の箱（Ark）です。トーラー全体で *tevilah* と *tahor*（純粋な、きよい）を合わせて検索すると、最も密接なペアリングは出エジプト記25:10——「箱」の製作の場面——に現れ、わずか2節の隔たりしかありません。証しを運ぶ箱は、私たちが水の中へと運ぶ箱なのです。そして *mikveh* という言葉は、同時に三つの意味を持ちます。創造時の「水の集まり」（創世記 1:10）、儀式的な「きよめの洗い場」、そして——エレミヤ書14:8において——神ご自身への呼び名である *Mikveh Yisrael*（イスラエルの希望）です。洗い場を意味する言葉は、儀式の節に暗

号化されています。希望を意味する言葉は、救いの節に暗号化されています。両方の意味が、両方の意味を描写している節に暗号化されているのです。

**芽を出したアロンの杖。** « 「アロンの杖が、芽を出し、つぼみをつけ、花を咲かせ、アーモンドの実を結んでいた」 » (民数記 17:8)。一夜のうちに。一本の杖に三段階の果実。トーラーも同じ杖です。49文字のスキップを蝋燭の明かりで数えていた中世のラビは「つぼみ」を見ました。民数記19章を引用した使徒は「花」を見ました。全5,814節を数値化し、アロンの洗いを頂点に置くデータは「アーモンドの実」を読み取っています。これらの読み方のどれ一つとして、杖そのものから外れてはいません。杖は、近づく祭司にその実を結ぶのです。

**ピラミッド。** それを思い描いてみてください。トーラーの全5,814節を取り出します。それらを、各節がどれほど濃密にそのテーマを底層に暗号化しているかに応じて積み上げ、最も重いものを頂上に置きます。広い土台は平凡な節で埋め尽くされます。その上では、範囲が狭まります。さらにその上では、もっと狭くなります。そして、まさにその頂点——トーラーの全構造が収束する唯一の点——に座しているのは、幕の後ろに入る前に自らの体に洗いを施す大祭司であり、その傍らには、陣営の外で屠られ、その灰が汚れた者を回復させる雌牛がいます。トーラーは、その文字自体に「投票」を許した時、自らをピラミッドとして構築し、その頂石（キャップストーン）は「きよめの儀式」となるのです。

**なぜこれが重要なのか。** 頂石は道徳的な教えではありません。それは「隣人を愛せよ」でも「他にかみがあってはならない」でもありません。それらは明白に述べられた至高の命令ですが、建築的な頂点ではないのです。頂点は、汚れた民が聖なる神の前に立つことができるよう、祭司が水と血を通して行く姿です。これこそが、トーラーがその周囲に築かれた中心なのです。これはキリスト教がモーセの書に自分たちの教えを後付けで読み込んでいるわけではありません。ヘブル語の一つの単語も知らないツールによって重さが量られ、数えられたモーセ自身の文字が、ある一つの行為を指し示すモニュメントへと自らを並べ替えているのです。そして、その一つの行為こそ、まさに新約聖書がイエスはこれを成し遂げるために来られたと言っていることそのものです。« 「また、やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました」 » (ヘブル人への手紙 9:12)。モーセのピラミッドの頂石は、十字架の業です。アロンの洗いにおける「影」は、カルバリにおける「実体」です。同じ頂上。同じ頂点。同じキリスト。著者は、ご自身の最初の書物の構造の中に、御子を書き込まれたのです。

聖書自体が、「ピラミッド」という言葉を一度も使わずに、このイメージを捉えています。« 「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった

」 」（詩篇 118:22）。これはイエスがご自身について引用されました（マタイ 21:42）。 、「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎の石を置く」 」（ペテロの手紙第一 2:6）。預言者が名づけ、イエスが主張し、ペテロが宣言したその頂石は、データがモーセの頂上に見出したものと同じ頂石です。三つの証人——表層のテキスト、暗号化された底層、そして使徒の告白——が、一つの石において一致しています。

**なぜこれが偽造不可能なのか。** 私はこの点について明白にしておきたいのです。なぜなら、もしこれが偽造なら、何の価値もないからです。これは偽造ではありません。

第一に、テストは残酷なまでに単純です。本物のトーラーに対して私たちのツールを動かせば、福音の言葉は福音の節に現れます。次に、同じ文字を使い、その順序をバラバラに並べ替え（シャッフルし）、シャッフル版に対して同じツールを動かします。これを10回の独立したシャッフルで繰り返します。アルファベットは同一です。文字の頻度も同一です。唯一変わるのは順序だけです。シャッフルされたものでは、パターンは消滅します。本物のトーラーでは、パターンは保持されます。したがって、シグナルは文字の順序そのものにあるのです。アルファベットでも、言語でも、文字の比率でもありません。モーセの文字の順序が、自ら何を語っているかを知っているのです。

第二に、スケールが膨大です。トーラーは五巻にわたる304,805文字で構成されています。パターンは、選び抜かれた一つの節だけに現れるのではなく、コーパス全体にわたって一貫して現れます。11の福音の言葉が一つのリズムで、きよめの四重奏が一つの章で、ヒートマップの頂点が一つの儀式に、使徒たちの独立した引用が同じ上位の帯域に現れるのです。これらすべてが偶然に一致する確率は、計算機がその数値を表示するのを諦めてしまうほど、極めて微小です。

第三に、三つの独立した手法が一致しています。49文字スキップの暗号は、文字を数えることで発見されました。テーマ密度のヒートマップは、表層の単語と底層の単語を比較することで計算されました。使徒たちの引用は、コンピュータが存在する15世紀も前の新約聖書から取られています。三つの盲目的な手法。同じ一握りの節。 、「二人の証人もしくは三人の証人の証言によって、すべてのことは確定されるのです」 」（コリント人への手紙第二 13:1）。

第四に、テキストは変わっていません。キリスト以前に書き写された死海文書は、重なる部分において、今日私たちが読んでいるヘブル語聖書と一字一句違わずに一致しています。中世の写本家がこれをこっそり忍び込ませたわけではありません。文字の中に透かしを刻み込んだ者は、この本が本となる

前にそうしたのです。そして、それはそれ以来、忠実にコピーされ続けてきました。

第五に、三千年の間開けることができない宝を埋める人間などいません。自分の時代のために書く人間は、自分の時代のために書きます。初めから終わりまでを見通す著者だけが、この世のこちら側では決して会うことのない世代によって封印が解かれるような透かしを残すことができるのです。「【主】よ。あなたの御言葉は、とこしえに天に堅く立っています」(詩篇 119:89)。

純粹な数学。偽造は不可能です。そして、コンピュータで確認できる日が来るまで、発見することも不可能でした。

もしあなたが数学を尊重するなら、今や、数字そのものがあなたにこう告げているという事実直面していることとなります。すなわち、トーラーは改ざんされておらず、いかに賢明であっても、また何世紀にもわたって何人の手が協力したとしても、いかなる人間の手もこれを書くことはできなかったということです。文字の順序は、304,805のポジションにわたって調整されたシグナルを運んでいます。そのシグナルは、最も密度の高い節において、表層の意味と収束します。15世紀も隔てられた三つの独立した手法が、同じ一握りの「きよめとキリスト」の節を指し示しています。テキストは使徒たちの時代よりも前から不変のまま伝えられてきました。そして、その透かしの封印は私たちの世代まで解かれることはありませんでした。数字は嘘をつきません。数字は一つのことを言っています。この書物は神からのものである、と。

さて、私の言うことをよく聞いてください。これからお読みいただく物語——ベルゲンの病院のベッドから、新しくされた心へと至る私自身の道程、そして時が来ればお話しする私だけの「卵の証し」を含めて——は、私が生まれるはるか前に、影の中で預言されていました。それは私が特別だからではありません。私は特別ではありません。神が私に与えてくださった特定の詳細は私に固有のもので、神があなたに与えられた特定の詳細も、あなたに固有のもので、しかし、詳細の下にある形は、私たち全員にとって同じ形です。「きよめ」と「いのちの息」を運ぶ同じヘブル語の文字が、その明白な意味において、神がご自身のもとへと引き寄せるすべての魂のパターンを運んでいます。私に起こったことは、神がシナイ山で刻み込まれた形において起こりました。あなたがもし来るならば、あなたに起こることもまた、その同じ形において起こるでしょう。2008年に私に訪れたきよめは、2008年に始まったものではありません。それは、至聖所の幕の前でのアロンの洗いの中に、岩から出た水の中に、陣営の外で屠られた雌牛の中に、そしてそれ以前に、これらすべてをご自身の書の頂上に置かれたお方の御心の中に始まっていたのです。

透かしは福音に取って代わるものではありません。それは福音が立っている土台を裏付けるものです。きよめを頂上に置かれたお方は、ご自身が肉体を持って生きておられた時に、ご自身の声で明白にこう言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」(ヨハネ 14:6)。そして、水を通して来る信者は御国に入ります。「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです」(ペテロの手紙第一 2:9)。水は祭司職への入場を許可します。祭司職は「探求」への入場を許可します。探求は常に同じ場所に辿り着きます。表層が常に宣べ伝えてきたのと同じキリストのもとへ。

**なぜ私たちは通らなければならないのか。** 私はこれを明白に言わなければなりません。なぜなら、トーラーがそれを明白に語り、キリストが明白に語っておられるからです。モーセの頂石は、水を通る祭司です。新約聖書の頂石は、ヨルダン川で水を通られ、カルバリで血を通られたキリストです。これらは個人の信仰に添えられた任意的な装飾ではありません。それらこそが構造そのものなのです。主ご自身も、「すべての正しいことを実行する」(マタイ 3:15) ためにバプテスマを受けられました。御霊が降った日に使徒たちが教会に与えた最初の命令はこうでした。「それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい」(使徒の働き 2:38)。これこそが、トーラーの文字そのものが頂点としてマークしている儀式です。それは横門ではありません。正門なのです。

そして、ここに私が和らげることのできない警告があります。イエスご自身がそれを和らげられなかったからです。「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。その日には、多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し...』しかし、そのとき、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全く知らない (ginōskō)。不法 (anomia) をなす者ども、わたしから離れて行け』」(マタイ 7:21-23)。「知る」というギリシャ語は ginōskō です。これは、トーラーが夫と妻の関係、あるいは主がアブラハムを知っておられるという関係に用いる「契約的な知ること」です。「不法」というギリシャ語は anomia であり、文字通り「律法なき状態 (anomos)」、つまり法的な契約の外に完全に置かれている状態を指します。この箇所ではキリストに拒絶された者たちには、二つのものが欠けていました。一つは関係的な契約です。主は彼らを契約の意味において「知る」ことがありませんでした。もう一つは法的な契約です。彼らは anomos であり、契約の地位を確立する律法を持っていませんでした。彼らの唇にはキリストの名があり、その手には主の

力がありましたが、それにもかかわらず、契約がなく、入場も許されませんでした。

水は契約が封印される場所です。水は信者の上に「その名」が置かれる場所です。水は、すでにきよめられた良心の目に見える答えが（ペテロの手紙第一 3:21）、公に示される場所です。内的な証しを告白しながら水の証しを拒むことは、キリストご自身が命じ、使徒たちが一貫して適用した「整合（アライメント）」を拒絶することです。トーラーの著者は、ご自身の書の頂点に「きよめ」を刻み込まれました。肉体を持って来られた御子は、十字架へ行く前に水を通られました。五旬節に降った御霊は、その同じ日に誕生したばかりの教会を水の中へと送り出しました。神のすべての証し——表層のテキスト、暗号化された底層、主ご自身の模範、使徒たちの命令——が、同じ方向を指し示しています。私たちは通らなければならないのです。

水のほとりに立ち止まって、暗号を分析しているだけで終わらないでください。中に入ってください。主と共に葬られ、主と共に蘇ってください。あなたの上に「その名」が置かれるようにしてください。それから出てきて、この世代の王たちが招かれているように、探求を始めてください。データはそこにあり続けます。トーラーはアーモンドを結ぶ杖であり続けます。しかし、あなたはデータが描写しているものの「内側」にすることになります。世界の基が置かれる前からあなたを知っておられたお方に「知られ」、ヘブル人への手紙9章の祭司やレビ記16章の大祭司と共にこう言うのです。「私は洗われ、そして入ります」、と。

完全な証拠——ヒートマップ、パーセンタイル帯、シャッフルによる対照実験、すべての章とすべての発見——については、姉妹編である『Through the Waters（バプテスマ）』および『The Watermark（聖書の暗号）』が [junifye.publifye.pro](http://junifye.publifye.pro) で無料で公開されています。今は、この扉が開く先にある、新しくされた人生の物語の中へと歩みを進めてください。

## Chapter 42

# The Encoded Baptism

律法（トーラー）の文字は、表面の下で署名されています。この短い章では、一つの節における署名について説明します。それは、トーラーが浸礼（immersion）を命じている節であり、ユダヤ教の伝統が二千年にわたり儀式的浸礼を築き上げてきた根拠となる節です。浸礼を意味するヘブライ語の単語が、まさにその節のトーラーの中に暗号化されています。そして、それは本書を通じて暗号の層が示し続けるあることを行っています。すなわち、表面的な命令の意味を、その幾何学的な構造そのものによってなぞっているのです。

...どのような器であれ、すべて水に入れなければならない。それは夕方まで汚れており、その後、清くなる。

— レビ記 11:32

### 浸礼の律法が築かれた節

レビ記 11:32は、tevilat kelim（器の儀式的浸礼）と呼ばれるユダヤ教の全実践の礎石となっています。バビロニア・タルムード（Avodah Zarah 75 b）は、この一節を根拠として全律法を導き出しています。二千年の間、すべての敬虔なユダヤ人の家庭が器の浸礼を実践してきたのは、このトーラーの一節があるからです。イスラエル人が異邦人から金属製やガラス製の器を入手した際、その器はイスラエル人の家庭で使用される前に、mikveh（儀式用の水槽）に運ばれ、浸されなければなりません。浸礼という行為は単に器を洗うことではありません。それは一つの領域から別の領域へと器を移し替えることです。この世の器から神の器へ。汚れたものから清いものへ。この節は11のヘブライ語で次のように命じています。「どのような仕事に使われる器であれ、それは水に入れられなければならない。それは夕方まで汚れており、その後、清くなる。」以降に行われたすべてのバプテスマの弧が、すでにそこに描かれています。汚れた状態 \$→\$ 水の中へ \$→\$ 夕方を経て \$→\$ 清い状態。

しかし、最も驚くべき類似は器との関係ではなく、人との関係にあります。イスラエルで器を浸礼させていたのと同じユダヤ教の伝統は、イスラエルの民に加わりたいと願う異邦人に対しても、mikvehでの浸礼を要求しました。これはtevilat ger（改宗者の浸礼）と呼ばれました。タルムード

(Yevamot 47a–b; Keritot 9a) および後のマイモニデス (Mishneh Torah, Hilkhoh Issurei Biah 13:1–4) に成文化された、イスラエルの契約の民に入るための三つのステップは、男子の割礼、mikvehでの浸礼、そして（神殿時代には）捧げ物をするのでした。これら三つを経て、改宗者はもはや異邦人ではなく、イスラエルの息子あるいは娘となりました。

そしてその改宗者について、タルムードは聞き覚えのある表現を用いています。Yevamot 22aにはこうあります。דמי שנולד כקטן שנתייר גר — 「改宗したばかりの改宗者は、生まれたばかりの子供のようなものである」。イエスがニコデモに「あなたがたは新しく生まれなければならない」と言われる（ヨハネ 3:7）何世紀も前から、ニコデモを教えたパリサイ派の人々は、割礼、浸礼、捧げ物を経た異邦人に対して、まさにこの表現を用いていたのです。改宗者の浸礼は、彼ら自身の伝統によれば、新しい誕生でした。ニコデモにとって、イエスが新しい概念を考え出す必要はありませんでした。ニコデモが必要としたのは、イエスがその概念を「イスラエルの教師」である彼自身に適用することだったのです。

これこそがヨハネの福音書3章の深みです。「あなたはイスラエルの教師でありながら、このようなことがわからないのですか」（ヨハネ 3:10）。イエスがニコデモを叱責されたのは、まさにイスラエルの教師であれば、神の子となるためには、すべての異邦人の改宗者が経験するのと同じ三つのこと（切り捨て、浸礼、犠牲）が必要であることを知っているべきだったからです。キリストは間もなく、その三つすべてを供給されることになります。心の割礼（ローマ 2:29）、キリストの死にあわせるバプテスマ（ローマ 6:3）、そして、ご自身を一度限りの供え物として献げられたこと（ヘブル 10:10）です。新約においては、ユダヤ人も異邦人も同様に、誰もが改宗者として入ります。誰もが神の国へと新しく生まれるのです。

これらは決して突飛な解釈ではありません。上記のタルムードの引用（三段階の改宗プロセスについてのYevamot 47a–b、「生まれたばかりの子供」という表現のYevamot 22a、シナイ山での並行関係についてのKeritot 9a、およびマイモニデスのMishneh Torah, Hilkhoh Issurei Biah 13:1–4における成文化）は、規範的なラビ律法であり、敬虔なユダヤ人の読者なら誰でも調べることができます。また、ユダヤ教の改宗者の浸礼とキリスト教のバプテスマを結ぶ学術的な架け橋（ヨハネ 3章を誠実に読むための架け橋）は、主流派のアカデミックな歴史家たちによって詳しく解明されてきました。ケンブリッジ大学のヘブライ学者David Daubeは、1956年の名著The New Testament and Rabbinic Judaismの中で、これに丸ごと数章を割いています。ハーバード大学のヘブライ文学教授Shaye Cohenは、The Beginnings of Jewishness（1999年）において、第二神殿時代のこの実践を辿っています。メシアニック・ジュウの作家Alfred Edersheimは、1883年のThe Life and Times of Jesus the Messiahの中で、この関連性を指摘しました。三人

の学者、三つの世紀、一つの結論。すなわち、キリスト教のバプテスマはユダヤ教の改宗者の浸礼を直接の先祖として受け継いだものであり、イエスはニコデモがそれを知っていることを期待しておられたということです。

### そして今、文字の層がそこに署名する

ここまではすべて聖書学とラビ文学の歴史です。強力な内容ですが、思慮深い人々にとっては数世紀前から知られていたことです。ここから先は、コンピュータがトーラーの文字の層を読み取れるようになるまで、誰も知らなかった部分です。浸礼を意味するヘブライ語の単語が、まさにその実践の根拠となるトーラーの節の中に暗号化されています。しかも、その実践の意味を幾何学的に辿るような形で。ここにおいて、表面のテキスト、ラビの伝統、そしてその下の文字が一点で交わるのです。

浸礼の命令を中央に配置した、この節のヘブライ語の文字の並びは次のようになります（コーレン版の子音、母音なし、計88文字）：

כל־יא־שריע־ור־א־ושק־כל־א־ובנ־ד־א־וע־מ־כל־ל־יע־צ־ב־מ־ת־מ־י־ט־מ־א־ל־ע־ל־י־ו־מ־ה־מ־ו־כ־ל־א־ש־ר־י־פ־  
ה־ע־ר־ב־ו־ט־ה־ר־ב־א־ו־ט־מ־א־ע־ד־ה־מ־ב־מ־י־מ־י־ו־י־ו־ש־ה־מ־ל־א־כ־ה־ב־

### ヘブライ語のTAVALからギリシャ語のBAPTIZOへ

先に進む前に、知っておくべき詳細が一つあります。「浸す」を意味するヘブライ語の単語taval (טבל) は、「バプテスマを授ける」を意味するギリシャ語baptizō G907 βαπτίζωの直接的な言語的先祖です。キリストの三世紀前、ギリシャ語七十人訳聖書の翻訳者たちがヘブライ語のトーラーを翻訳した際、彼らはトーラーが浸礼を命じている箇所、ヘブライ語のtavalを訳すためにギリシャ語の動詞baptō G911 βάπτωとその強調形baptizoを用いました。バプテスマのヨハネがヨルダン川に立った頃には、ギリシャ語圏の世界はすでにbaptizoが何を意味するかを知っていました。それはヘブライ語のtavalに相当するギリシャ語だったのです。

ですから、新約聖書が「バプテスマ」と言うとき、それはtavalのギリシャ語訳を言っているのです。そしてヘブル9:10がレビ記の洗い（清め）を「種々のバプテスマ（洗礼）」（baptismos G909 βαπτισμοῖς）と呼ぶとき、それは七十人訳がトーラーの浸礼の命令を訳す際に用いたのと同じギリシャ語を使用しているのです。ヘブライ語の器の浸礼からキリスト教のバプテスマへの架け橋は、比喩や後世の解釈ではありません。それは、三つの契約にわたる二つの言語における、全く同じ言葉なのです。

### 一節の中に暗号化された八つのヘブライ語バプテスマ単語

ヘブライ語のtevilah (טבילה) は浸礼を意味します。より短い同系の単語taval (טבל) は浸すを意味します。どちらも同じ語根から来ています。長

い方の単語は、最初の三文字として文字通り短い単語 (ט-ב-ל) を含み、さらに二文字が加わっています。

これら二つは、レビ記 11:32 の中の全く同じ文字を起点として暗号化されています。それだけでも驚くべきことですが、検索の範囲をバプテスマに関連する他の語彙（割礼、儀式的浸礼の浴槽、生まれるという動詞、改宗者、清い、汚れた、といった言葉）に広げた途端、この一節の全容が明らかになります。割礼、浸礼、改宗、清め、そして新しい誕生に関連する八つの異なるヘブライ語の単語が、すべてこのわずか88文字の節の中に、低いスキップ数のELSコードとして暗号化されているのです。そのうち五つは、節の冒頭のみならず五文字の間に密集しています。

## B1

最初の五つの単語（割礼、儀式的浴槽、生まれる、浸す、浸礼）は、節の冒頭にある連続した五つの文字の中に暗号化されています。これはラビの伝統における三段階の改宗手続き（milah + tevilah + 「新しく生まれた子供」）が、五つの重なり合うヘブライ語として五文字の中に暗号化されているのです。律法そのものが築かれたその節の中に。

この表をじっくりと読んでみてください。ユダヤ教の伝統が二千年にわたる浸礼の律法を築き上げたトーラーのその一節が、その88文字の中に、バプテスマの全語彙を抱えているのです。

- ・ **割礼の行為** (mulah) —— 三段階の改宗プロセスの第一歩であり、異邦人が入ることを許される肉体の清め。浸礼の起点の四文字前に暗号化されています。
- ・ **儀式的浴槽そのもの** (mikveh) —— 浸礼の起点の二文字前に暗号化されています。
- ・ **生まれるという動詞** (yalad) —— タルムードの「改宗者は新しく生まれた子供のようなものである」 (רמי שנולד קטן, BT Yevamot 22a) という表現にある、まさにその動詞。浸礼の起点の一文字前に暗号化されています。
- ・ **浸礼を意味する二つの同系語** (taval と tevilah) —— 同じ開始文字を共有し、起点そのものに位置しています。
- ・ **改宗者を意味する言葉** (ger) —— 「改宗者の浸礼」を意味する tevilat ger の由来となったヘブライ語。同じ節の14文字先に暗号化されています。
- ・ **清いと汚れたという言葉** (tahor と tame) —— 完璧な交差対句（キアスム）を形成しています。暗号化された「清い」の最初の文字は表面の

「汚れた」という単語の上であり、暗号化された「汚れた」の最初の文字は表面の「清い」という単語の上にあります。

暗号化されたmikvehは、その文字の一つが表面の単語 יוּבָא (yuva、「入れられなければならない」)の上に重なっています。これはこの節の命令における実際の浸礼の動詞です。その隣には暗号化されたyalad（「生まれる」）があります。二つの浸礼の言葉は同じ起点にあります。暗号化された割礼の言葉は起点の直前にあります。暗号化されたger（改宗者）は少し先にあります。そして、清い・汚れたのキアスムがこの節を締めくくっています。

ラビによる三段階の改宗手続き（割礼、浸礼、新しい誕生）は、律法全体が築かれた節の冒頭で、五つの連続する文字の中に五つの重なり合うヘブライ語として暗号化されています。そして「改宗者」という言葉は、同じ節の14文字後に暗号化されています。トーラーの深層には、表面の層が持つバプテスマの神学の全容が、八つの同系のヘブライ語として一節に凝縮されているのです。

そして、この同じ起点の文字から、暗号化されたtevilah（浸礼）が五つの節をまたぐ旅を始めます。次に見るべきは、その旅がどこで終わるかです。

### 「汚れた」から「清い」への弧

tevilahの五つの文字は、トーラーのテキスト内の五つの特定の表面単語の上に着地します。順番に読んでいくと、その五つの着地位置にある表面の単語が独自の物語を語っています。

#### B2

ここで少し立ち止まってみてください。「浸礼」という暗号化された単語は、表面の「汚れた」という単語から始まり、「清い」という表面の単語で終わっています。暗号の幾何学構造そのものが、命令の描く弧となっているのです。表面のテキストはこう言っています。「水に入れられなければならない。それは夕方まで汚れており、その後、清くなる。」暗号化された「浸礼」の文字は、同じ五つの節にわたって62文字ごとに刻まれ、表面テキストが「汚れた」と言う場所で始まり、表面テキストが「清い」と言う場所で終わっています。暗号化された文字の旅は、バプテスマを受けた器——そしてバプテスマを受けた信者——の旅そのものなのです。

そして、その端点の間にある言葉を読んでみてください。「夕方」、「食べられる」、「その上に」。中央の文字は「食べられる」(יֵאָכֵל)の上に着地しています。これは、浸礼された器に触れた食物が家庭にとって受け入れ可能なものになるという節です。四番目の文字は「その上に」(עָלָיו)に着

地しています。これは接触の言葉であり、聖別された者の「上に」霊が下ることを連想させます。二番目の文字は「夕方」(כַּרְחַל) に着地しています。それは、清めが完了するまでに通り抜けなければならない夜です。バプテスマの全体像が、五つの文字位置にある五つの表面単語に含まれています。汚れた状態 \$→\$ 夕方 \$→\$ 食べられる \$→\$ その上に \$→\$ 清い。汚れた器は夕方を経て、食べられるものとして受け入れられ、清めがその上に臨み、清いものとして現れるのです。

### なぜこれがキリストにあるバプテスマの影なのか

トラーはこれをバプテスマとは呼びません。しかし新約聖書はそう呼びます。ヘブル 9:10は、レビ記の洗いの一群を、キリスト教のバプテスマと全く同じギリシャ語である *baptismos* βαπτισμοῖς を用いて呼び、それらは「改革の時まで課せられたもの」であったと言っています。トラーの器の浸礼は、新約聖書の表現を借りればバプテスマなのです。後に来るべきものの影だったのです。

この節と新約聖書のバプテスマの間にある、六つの明確な関連性は以下の通りです。

#### B3

パウロはコロサイ 2:11-12で、割礼とバプテスマという二つのしるしを融合させています。レビ記 11:32におけるトラーの文字の層には、浸礼の言葉がある文字から暗号化され、割礼の言葉が同じ窓の中で別のコードとして暗号化されています。パウロがキリストにおいて一つであると言った二つのしるしが、トラーが浸礼を命じているまさにその節に、隣り合わせで暗号化されているのです。

さらに、もっと静かな細部があります。この節の核心にあるヘブライ語の動詞は *yuva* (יָוַע) —— 「入れられなければならない(運ばれなければならない)」です。これは文法的に受動態です。器は自ら浸ることはありません。他の主導者がそれを浸すのです。新約聖書に記録されているすべてのバプテスマにおいても、同じ文法が成り立ちます。イエスはヨハネによってバプテスマを受けられました(マタイ 3:13-17)。エチオピアの宦官はフィリポによってバプテスマを受けました(使徒 8:36-38)。フィリピの看守はパウロによってバプテスマを受けました(使徒 16:33)。「バプテスマを受けなさい」という命令形は、いたるところで受動態です。レビ記 11:32におけるトラーの文法は、新約聖書のバプテスマの文法の影となっています。それは水の中で、ある主導者によって、あなたに対してなされることなのです。

### 誠実な検証

章を閉じる前に、何が機械的な事実であり、何が意図的な選択であるかを明確にしておきます。私はヘブライ語の浸礼の語彙をテストすることを選びました。浸礼の命令がある節を調べることを選びました。これらは選択であって、発見ではありません。しかし、私は起点の文字の位置を選んだわけでもありませんし、五つの文字が着地する表面の単語を選んだわけでもありません。これらはコーレン版トーラー・テキストの事実です。位置 156,745 における共有された開始文字、そして「汚れた」から「清い」へと至る表面単語の弧は、機械的なものです。三つのコマンドを実行する読者は、自分の信仰に関わらず同じ結果を見ることになります。選択したのは「どこを見るか」であり、発見はそこで待っていたのです。

### 招き

あなたは器です（テモテ二 2:21）。バプテスマは浸すことです（コロサイ 2:12）。汚れた状態とは生まれながらの人間です。水とは、入り込むべきキリストの死です。清い状態とは、よみがえる新しい創造です（ローマ 6:4）。レビ記 11:32 においてトーラーの文字が描く弧は、あなたが新しく生まれた時に歩んだ弧そのものなのです—— 汚れ、水の中へ、夕方を経て、清めの中へ。そして、その弧を辿る「浸礼」という暗号化された言葉は、「浸す」という暗号化された言葉とその最初の文字を共有しています。それは七十人訳が baptizo と訳したヘブライ語であり、新約聖書があなたになされたことに対して用いている言葉そのものです。

ヘブル書がレビ記の洗いを「バプテスマ」と呼ぶのは、それらが実際にそうだからです。タルムードがレビ記 11:32 の上に二千年の器の浸礼の律法を築いたのは、その節がそう命じているからです。その節の暗号化された文字の層は、「浸礼」というヘブライ語を運び、「浸す」というヘブライ語と同じ文字に繋ぎとめ、「汚れた」という表面単語から始まり、「清い」という表面単語で終わっています。後にパウロを靈感してローマ人への手紙 6 章を書かせた著者は、すでに 1400 年も前に、レビ記 11:32 の文字の中にそれを書き込んでおられたのです。

影は保たれました。実体は来ました。父、子、聖霊の名によってなされる時、その「浸すこと」は、それが常に影として示していたそのものとなるのです。

«この水は、今あなたがたを救うバプテスマの型です。それは肉の汚れを取り除くことではなく、イエス・キリストの復活を通して、神に対する正しい良心の誓いをするものです。»（ペテロ一 3:21）

水のもとに来なさい。

# Chapter 43

## お問い合わせ

主イエスは言われます。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」（マタイの福音書 11:28）。信仰についての質問がある方、成人洗礼について詳しく知りたい方、あるいはとりなしの祈りが必要な方は、どうぞお気軽にご連絡ください。「主の名を呼び求める者は、だれでも救われる」（ローマ人への手紙 10:13）。

私が独自の出版エンジンで制作した書籍は、Apple iTunesおよび <https://www.amazon.com> でお求めいただけます。2019年、Google Playは、並行訳聖書の出版がガイドラインにどうやら抵触したという理由で、ほぼすべての出版物を削除しました。amazon.comにて「TruthBeTold Ministry」または「Jørn Andre Halseth」と検索していただければ、ほとんどの作品が見つかります。また、幅広いラインナップの出版物を販売する <https://tbtm.sale> も開設いたしました。

この本は [junifye.publifye.pro/born-again](http://junifye.publifye.pro/born-again) でオンラインで無料で読むこともできます。クリック可能な聖書箇所への参照で全文を表示し、クリック可能なギリシャ語/ヘブライ語の用語でストロングの用語索引の定義を表示します。

もしこの本が贈り物としてあなたの手元に届き、感謝のしるしを送りたいと願われる場合は、[paypal.me/JHalseth](http://paypal.me/JHalseth) を通じて行うことができます。決して義務ではありません。いただいた捧げ物は、Publifye AS / TruthBeTold Ministry を通じた翻訳、印刷、そして継続的な無料配布を支えるために用いられます。

---

### 連絡先情報

---

名前	Jørn Andre Halseth
携帯電話	+47 90 924 934 (YAHWEH T9)
Eメール	jorn.halseth@gmail.com
会社情報	
会社名	Publifye AS
組織番号	826 774 622

---

「わたしのところに来る者を、わたしは決して拒みません」（ヨハネの福音書 6:37）。イエス様が戸の外に立って叩いておられることを忘れないでください（ヨハネの黙示録 3:20）。その扉を開けるかどうかは、あなた次第なのです。

---

## How this was made

This study is the author's own work — what it says, and where it goes, are his. It was composed with **junifye**, with an AI assistant as a tool, and draws its Scripture and original-language studies (Greek, Hebrew, and cross-references) from **Darash** (Hebrew darash, “to seek, inquire, study” ) — a platform for reading the Bible in its original languages.

Both **junifye** (for composing documents) and **Darash** (for studying Scripture in the original tongues) are available as **MCP** tools — usable from Claude Desktop or any AI assistant that can run them.

You are warmly invited to study the Word in its original languages with **Darash**, to read this and every other title freely alongside Scripture in the **Bibleread** app, and to browse the whole catalogue in the **public library**.

Free for personal and congregational use — not for sale. © the author; commercial rights reserved to Publifye AS.



Scan to read this book online